

久留米市

久留米市民の事故やケガなどについての
実態調査

調査報告書

平成 23 年 11 月

久留米市

I. 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査設計及び回収結果	3
3. 調査結果の見方	3

II. 調査回答者の属性

1. 調査回答者の属性	7
(1) 性別	7
(2) 年代	7
(3) 居住校区	8
(4) 職業	9
(5) 家族構成	9
(6) 子どもとの同居	10
(7) 住まいの形態	10

III. 調査結果の概要

1. 過去のケガについて	13
(1) 過去3年間にケガをした経験	13
(2) ケガをした日時と天気	13
(3) ケガの原因	13
(4) ケガをした時にしていたこと	14
(5) ケガをした場所	14
(6) ケガをした状況	15
(7) ケガをした部位と内容	15
(8) ケガをする前にお酒・薬を飲んでいたら	16
(9) 現在のケガの治癒状態	16
(10) 応急処置の有無	16
(11) 応急処置をした人	16
(12) 病院へ行ったかどうか	17
(13) 医療機関までの移動手段	17
(14) 救急外来と一般外来のどちらに行ったか	17
(15) 入院の有無と入院期間	17
2. 「家庭内の安全対策」に関する考え方について	18
(1) 家庭内で実践している安全対策	18
(2) 家庭内での事故やケガの防止の工夫	19

3. 「交通安全」について	20
(1) 主な移動手段	20
(2) 自動車・バイク・自転車の利用者が実行していること	21
(3) 自動車の利用者が実行していること	21
(4) バイクの利用者が実行していること	22
(5) 自転車の利用者が実行していること	23
4. 「幼児・児童と保護者の状況」について	24
(1) 子どもの年齢	24
(2) 子どもが自宅でケガをした状況（過去3年間）	24
(3) 安全用品の認知度と使用度	25
(4) 子どもが自宅以外でケガをした状況（過去3年間）	26
5. 「高齢者の状況」について	27
(1) 高齢者の属性	27
(2) 高齢者の要介護認定の有無	27
(3) 高齢者の日常生活にかかわる動作について	27
(4) 高齢者の転倒について	28
(5) 高齢者の自宅での転倒（過去3年間）	29
(6) 高齢者の自宅でのやけど（過去3年間）	30
(7) 高齢者の歩行中や自転車乗車中の事故（過去3年間）	31

IV. 調査結果の詳細

1. 過去のケガについて	35
(1) 過去3年間にケガをした経験	35
(2) ケガをした日時	36
①ケガをした年	36
②ケガをした月	36
③ケガをした時間	36
(3) ケガをした時の天気	37
(4) ケガの原因	38
(5) ケガをした時にしていたこと	39
(6) ケガをした場所	41
(7) ケガをした状況	43
(8) ケガをした部位	43
(9) ケガの内容	44
(10) ケガをする前にお酒を飲んでいたら	46
(11) ケガをする前の薬を飲んでいたら	46
(12) 現在のケガの治癒の状態	47
(13) 応急処置の有無	49
(14) 応急処置をした人	50
(15) 病院へ行ったかどうか	51
(16) 医療機関までの移動手段	52
(17) 救急外来と一般外来のどちらに行ったか	52
(18) 入院の有無	53
(19) 入院期間	53
2. 「家庭内の安全対策」に関する考え方について	54
(1) 家庭内で実践している安全対策	54
(2) 家庭内での事故やケガの防止の工夫	56
3. 「交通安全」について	57
(1) 主な移動手段	57
(2) 自動車・バイク・自転車の利用者が実行していること	58
(3) 自動車の利用者が実行していること	59
(4) バイクの利用者が実行していること	60
(5) 自転車の利用者が実行していること	61
4. 「幼児・児童と保護者の状況」について	62
(1) 子どもの年齢	62
(2) 子どもが自宅でケガをした状況（過去3年間）	63
(3) 安全用品の認知度と使用度	66
(4) 子どもが自宅以外でケガをした状況（過去3年間）	68

5. 「高齢者の状況」について	71
(1) 回答者本人が高齢者かどうか	71
(2) 対象となる高齢者の属性	71
①性別	71
②年齢	72
③要介護認定の有無	72
(3) 高齢者の日常生活にかかわる動作について	73
①一人での外出	73
②室内歩行	74
③トイレの利用	75
④入浴	76
⑤シャワー	77
⑥椅子からの立ち上がり	78
⑦布団から出る	79
⑧たんすや食器棚の上の物をとる	80
⑨床に落ちた物を拾う	81
⑩階段をのぼる	82
⑪階段をおりる	83
(4) 高齢者の転倒について	87
①転倒に対する不安感	87
②転倒防止の工夫の有無	88
③転倒防止の工夫の具体的な内容	89
(5) 高齢者の自宅での転倒（過去3年間）	90
①転倒した経験	90
②転倒した場所	91
③転倒した時のケガの内容	92
(6) 高齢者の自宅でのやけど（過去3年間）	93
①やけどをした経験	93
②やけどの原因	93
(7) 高齢者の歩行中や自転車乗車時の事故（過去3年間）	94
①事故の経験	94
②事故時の状況	94
③事故の原因	95

V. 総括

(1) 過去のケガについて	99
(2) 「家庭内の安全対策」に関する考え方について	99
(3) 「交通安全」について	100
(4) 「幼児・児童と保護者の状況」について	100
(5) 「高齢者の状況」について	101

VI. 調査票

久留米市民の事故やケガなどについての実態調査	105
------------------------	-----

I . 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本市は「セーフコミュニティ」活動に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指している。この調査は、事故やケガの予防対策を立てるための基礎資料として、市民の事故やケガの経験・安全についての考え方などを把握することを目的とし、実施するものである。

2. 調査設計及び回収結果

調査対象者	久留米市在住の満 20 歳以上の男女
抽出方法	住民基本台帳から 無作為抽出
調査方法	郵送配布－郵送回収
調査数	3,500 人
有効回収数 (有効回収率)	1,994 人 (57.0%)
調査期間	平成 23 年 9 月 26 日～平成 23 年 10 月 10 日 ※回収予備期間を含む
調査主体	久留米市 協働推進部 安全安心推進課

3. 調査結果の見方

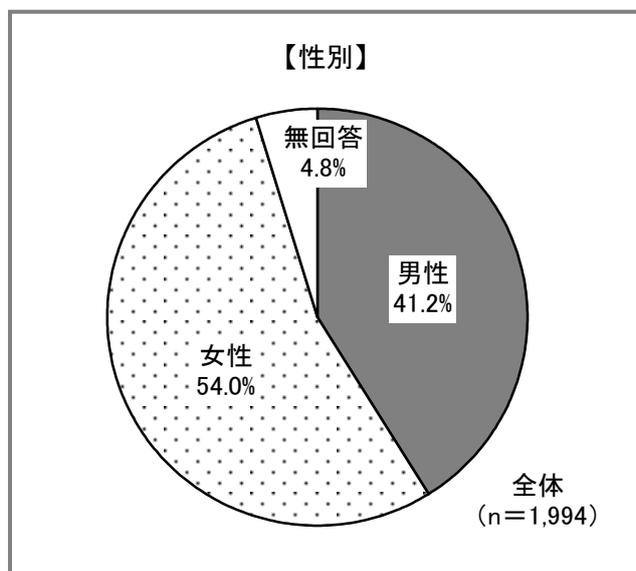
- (1) 回答は、原則として各質問の調査数を基数 (n) とした百分率 (%) で表し、小数第 2 位を四捨五入している。このため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。また、2 つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。
- (2) クロス集計の表側に使用している「性別」等の基本属性では、副問 (サブクエスチョン) 等の回答者が限定される質問もあるため、図表中の表側項目の調査数を合計しても、必ずしも調査の有効回収数にならない場合がある。
- (3) クロス集計等において、基数 (n) となる調査数が少数となる場合は参考までに数値を見る程度に留め、結果の利用には注意を要する。
- (4) 本文または図表中の質問文及び回答選択肢については、コンピュータ入力の都合上、省略して表記している場合があるため、詳細は「VI. 調査票」を参照のこと。

Ⅱ．調査回答者の属性

Ⅱ. 調査回答者の属性

1. 調査回答者の属性

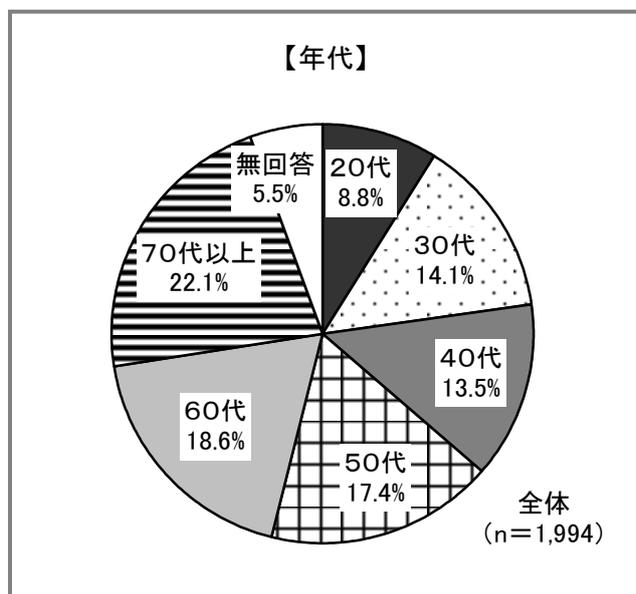
(1) 性別



回答者の性別については、「女性」が54.0%と過半数を占めている。

(注1) 図表中の「n」とは回答者数を表す(以下、同じ)。

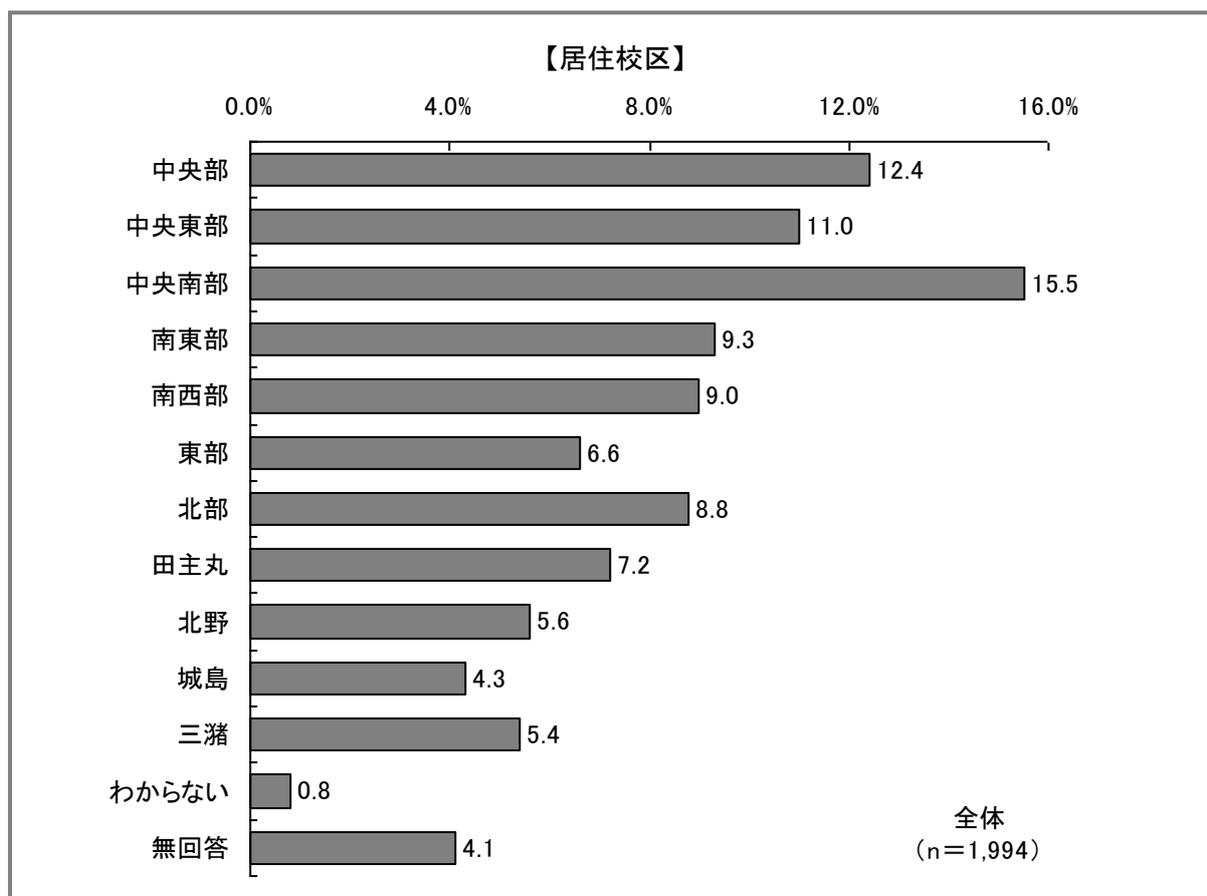
(2) 年代



回答者の年代については、「70代以上」(22.1%)が2割を超えて最も多く、次いで「60代」(18.6%)、「50代」(17.4%)となっている。

Ⅱ. 調査回答者の属性

(3) 居住校区

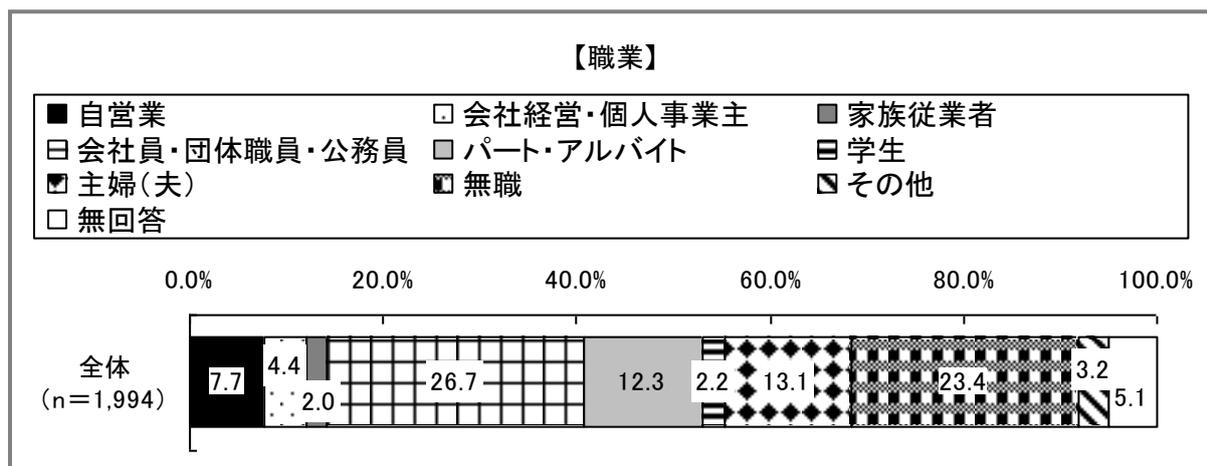


回答者の居住校区については、「中央南部」(15.5%)が1割台半ばを占めて最も多く、次いで「中央部」(12.4%)、「中央東部」(11.0%)となっている。

<居住校区区分>

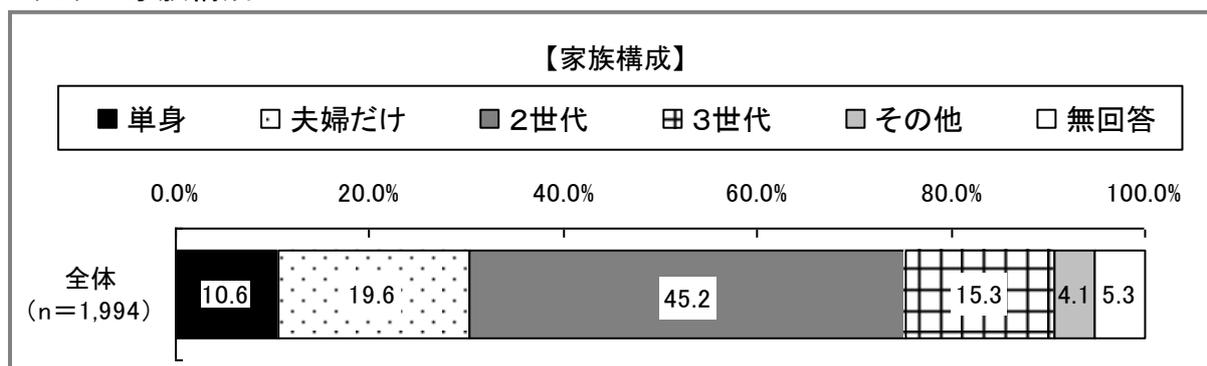
中央部					中央東部			中央南部				南東部			南西部			東部					
莊島	日吉	篠山	京町	南薫	長門石	西国分	東国分	御井	鳥飼	金丸	南	津福	上津	高良内	青峰	荒木	大善寺	安武	山川	山本	草野	善導時	大橋
北部			田主丸					北野			城島				三漕								
小森野	合川	宮ノ陣	船越	水分	柴刈	川会	竹野	水縄	田主丸	北野	弓削	大城	金島	城島	下田	青木	江上	浮島	犬塚	三漕	西牟田		

(4) 職業



回答者の職業については、「会社員・団体職員・公務員」(26.7%)が2割台半ばを占めて最も多く、次いで「無職」(23.4%)、「主婦(夫)」(13.1%)となっている。

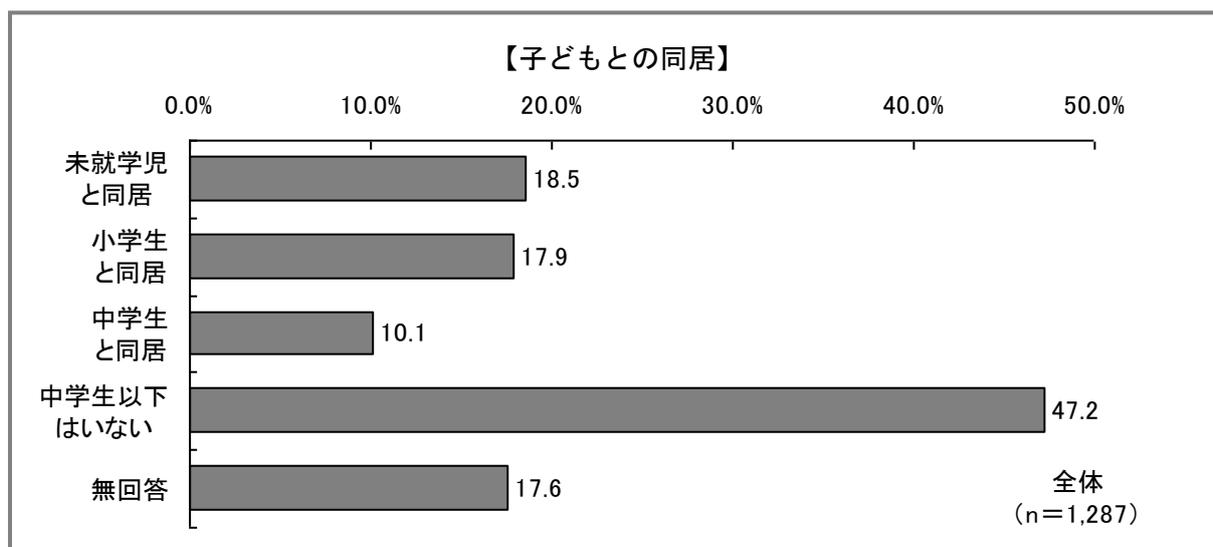
(5) 家族構成



回答者の家族構成については、「2世代(親・子)」(45.2%)が4割台半ばを占めて最も多く、次いで「夫婦だけ」(19.6%)、「3世代(親・子・孫)」(15.3%)となっている。

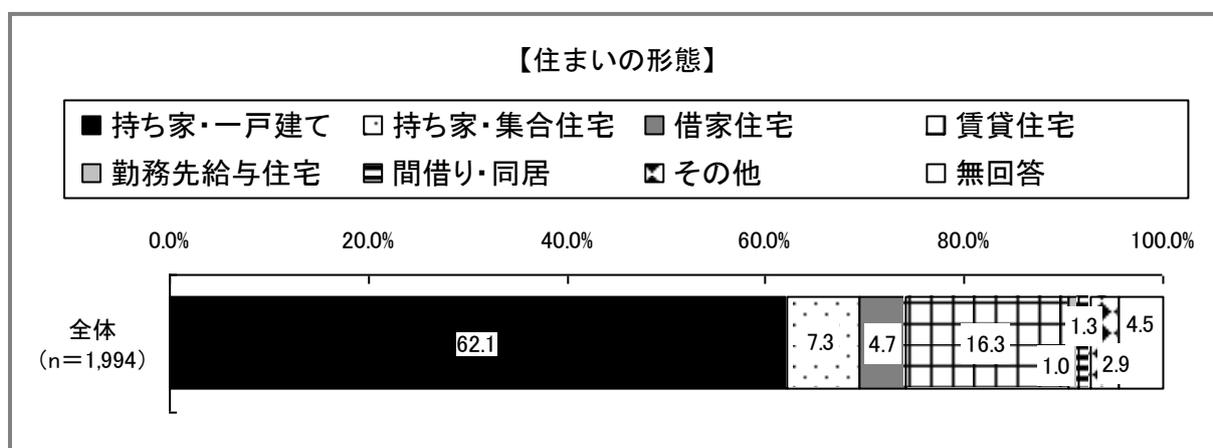
II. 調査回答者の属性

(6) 子どもとの同居



回答者の子どもとの同居の状況については、「中学生以下はいない」(47.2%)が約5割を占めて最も多く、次いで「未就学児と同居」(18.5%)、「小学生と同居」(17.9%)となっている。

(7) 住まいの形態



回答者の住まいの形態については、「持ち家・一戸建て」(62.1%)が6割を超えて最も多く、次いで「賃貸住宅(アパート、マンション)」(16.3%)、「持ち家・集合住宅(マンション)」(7.3%)となっている。

Ⅲ. 調査結果の概要

Ⅲ. 調査結果の概要

1. 過去のケガについて

(1) 過去3年間にケガをした経験

過去3年間に「ケガはしていない」が大半

- 本調査の回答者は過去3年間に「ケガはしてない」が約7割と大半を占めている。
- 女性の「ケガをしたことがある」の割合は、2割台半ばと男性に比べて高い。
- 70歳代以上の「ケガをしたことがある」の割合は、約3割と他に比べて高い。

(2) ケガをした日時と天気

季節は「夏」、時間帯は「夕方」、天気は「晴れ」にケガをする人が多い

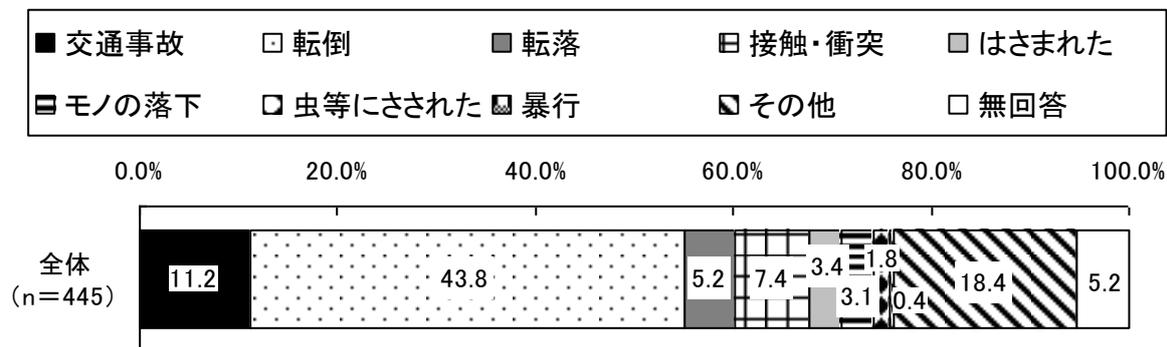
- ケガをした月は、「6～8月：夏」が約3割を占めて最も多い。
- ケガをした時間帯は、「15～17時：夕方」が約2割を占めて最も多い。
また、『9～17時』にケガをした人が約半数を占めていることから、夜や未明の時間よりも日中にケガをする人が多いことが分かる。
- ケガをした時の天気は、「晴れ」が6割を超えて最も多い。

(3) ケガの原因

ケガの原因は「転倒」が多い

- ケガの原因は、「転倒」が4割台半ばを占めて最も多い。《図表1》
- 60歳代と70歳以上では「転倒」の割合が5割を超えて他よりも高くなっている。
- 男性の約2割が「交通事故」がケガの原因だったと答えており、その割合は女性よりも高い。

【図表1 ケガの原因】



(注1) 図表中の「n」とは回答者数を表す(以下、同じ)。

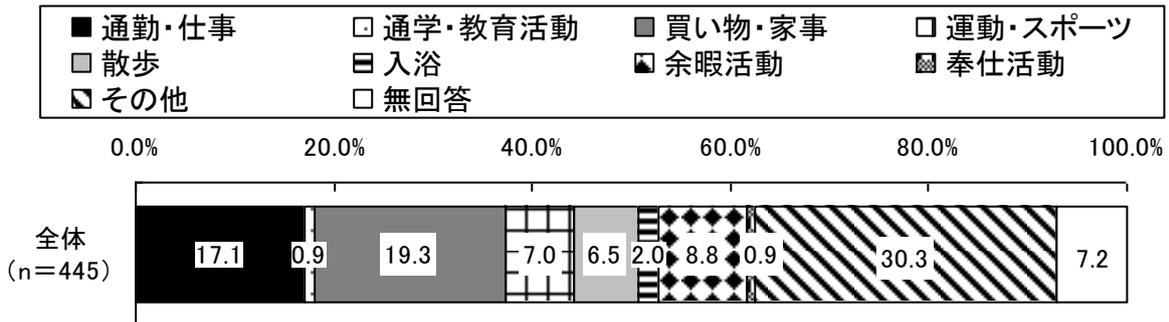
Ⅲ. 調査結果の概要

(4) ケガをした時にしていたこと

ケガをした時には「買い物・家事」をしていた人が多い

- ケガをした時にしていたことは、「買い物・家事」が約2割を占めて多い。《図表2》
- 選択肢以外の「その他」が約3割を占めて多く、具体的な内容としては「家の中にいた」、「庭木の手入れ・農作業」、「家事・食事」などが挙げられた。
- 男性では「通勤・仕事」、女性では「買い物・家事」がそれぞれ約3割を占めている。

【図表2 ケガをした時にしていたこと】

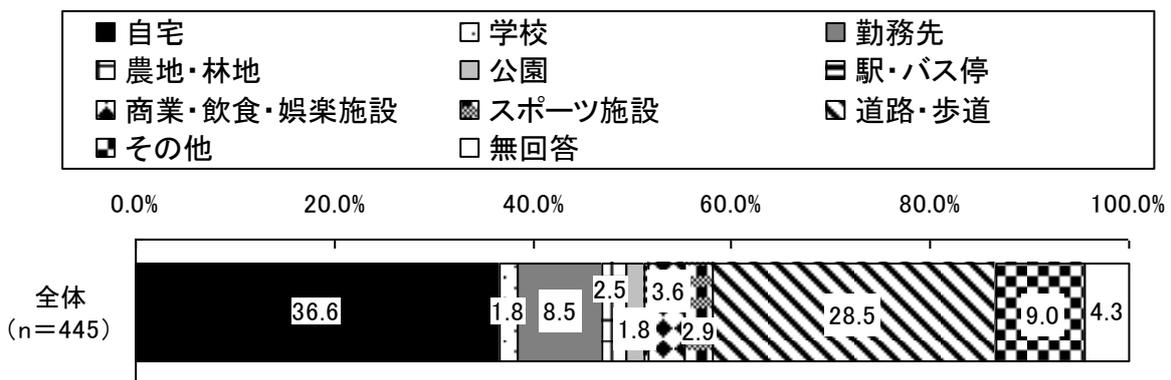


(5) ケガをした場所

ケガをした場所は「自宅」が多い

- ケガをした場所は、「自宅」が3割台半ばを占めて最も多い。《図表3》
- 女性では「自宅」の割合が4割台半ばと高い。
- 70歳代以上では「自宅」が約5割を占めており、他に比べて高くなっている。

【図表3 ケガをした場所】



(6) ケガをした状況

転倒の中でも、「つまづいて転んだ」が最も多い

- ケガをした状況は、『転倒でのケガ』が最も多く、その中でも、何かに「つまづいて転んだ」が48件と最も多い。《図表4》
- 『転倒でのケガ』に次いで、『交通事故でのケガ』、『転落でのケガ』がそれぞれ多い。《図表4》

【図表4 ケガをした状況（上位3項目）】

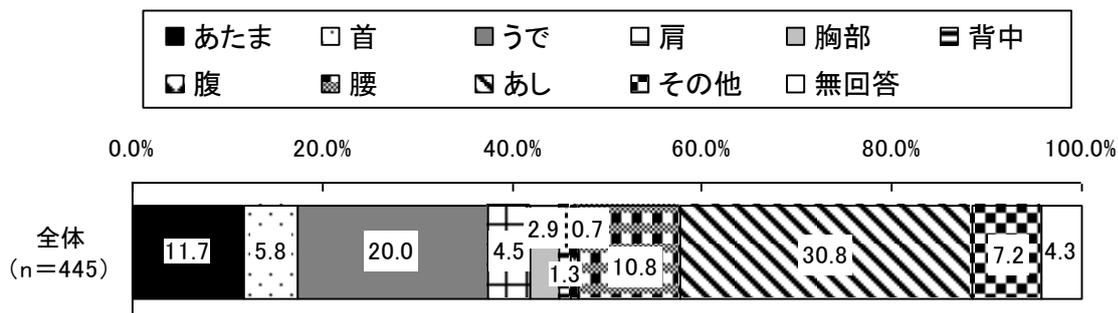
①転倒でのケガ		件数	内容
1	つまづいて転んだ	48	・散歩中に石につまづいた。 ・階段につまづいて転んで足をくじいた。 ・段差につまづいて転倒して骨折した。
2	滑って転んだ	28	・雨の日にバスの中で滑った。 ・風呂場で滑って転倒した。 ・階段で足を滑らせて捻挫した。
3	バランスを崩して転んだ	24	・布団から出る時によろけた。 ・歩いている時にふらっとした。 ・上の物を取ろうとしてバランスを崩した。
②交通事故でのケガ		件数	内容
1	自動車乗車中の事故	31	・停車中に後ろから衝突された。 ・交差点で接触事故を起こした。 ・出会い頭に衝突した。
2	自転車乗車中の事故	14	・歩行者を避けきれずにぶつかった。 ・自転車同士でぶつかった。 ・出会い頭に衝突した。
3	バイク乗車中の事故	13	・自動車に巻き込まれて事故になった。 ・田んぼ道でスリップした。 ・カーブで転倒した。
③転落でのケガ		件数	内容
階段などからの転落		20	・階段を踏み外して転落。 ・脚立から転落した。 ・ベッドから落ちた。

(7) ケガをした部位と内容

ケガの部位は「あし」、ケガの内容は「打撲」が多い

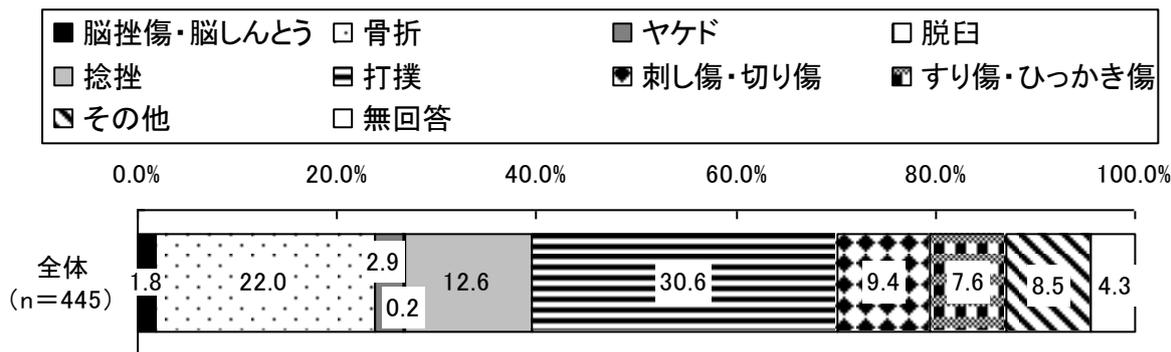
- ケガをした部位は、「あし（足、足首、ひざ等）」が約3割を占めて最も多い《図表5》
- ケガの内容は、「打撲」が約3割を占めて最も多い。《図表6》
- 70歳代以上では「骨折」が3割台半ばを占めており、他に比べて高い。

【図表5 ケガをした部位】



Ⅲ. 調査結果の概要

【図表6 ケガの内容】



(8) ケガをする前にお酒・薬を飲んでいたか

ケガをする前にお酒・薬を「飲んでいなかった」が大多数

- ケガをする前に、「お酒、薬は飲んでいなかった」が約9割と大半を占めている。

(9) 現在のケガの治癒状態

ケガが現在は「完治した」が過半数

- ケガの治癒の状態は、「完治した」が6割台半ばを占めて最も多い。
- 70歳代以上では「現在治療中」の割合が1割台半ばとなっており、その割合が他の年代に比べて高くなっている。

(10) 応急処置の有無

ケガをしたとき、「応急処置をした」が過半数

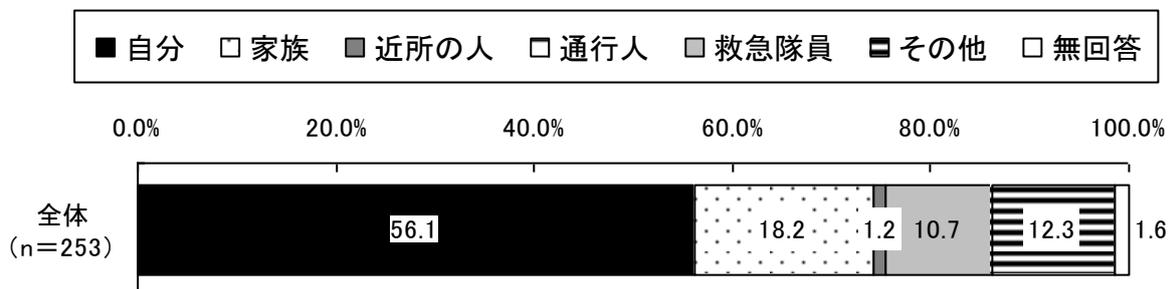
- ケガをした人のうち、5割台半ばが応急処置をしたと回答しており、男性よりも女性の方が応急処置をした割合が高い。

(11) 応急処置をした人

ケガをしたとき、自分で応急処置をした場合が過半数

- 応急処置をした人のうち、自分で応急処置をした人が5割台半ばを占めて最も多い。《図表7》
- 女性では、自分で応急処置をした人の割合が6割台半ばと男性よりも高い。
- 70歳代以上では、家族が応急処置をした場合が3割台半ばとなっており、その割合が他に比べて高くなっている。

【図表7 応急処置をした人】



(12) 病院へ行ったかどうか

ケガをしたとき、病院へ「行った」が大半

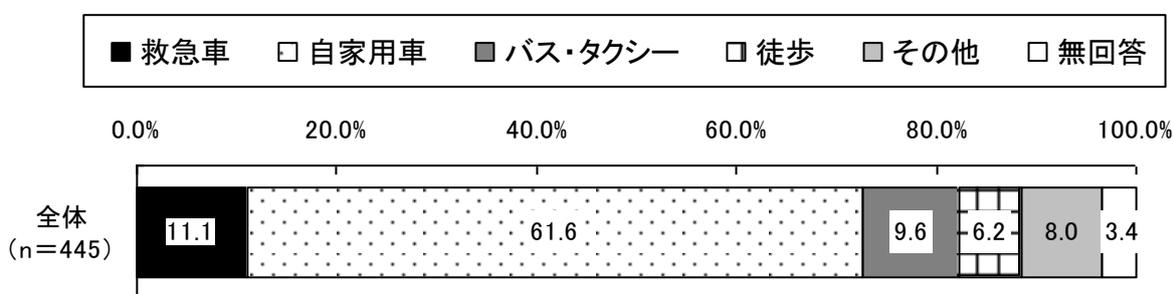
- ケガをした人のうち、病院に行った人が7割を超えて大半を占めており、特に70歳代以上では、その割合が8割を超えて高い。

(13) 医療機関までの移動手段

ケガをしたとき、「自家用車」で病院へ行った場合が過半数

- 病院に行った人のうち、「自家用車」で医療機関まで移動した人が6割を超えている。《図表8》

【図表8 医療機関までの移動手段】



(14) 救急外来と一般外来のどちらに行ったか

「一般外来」へ行った場合が大半

- 病院に行った人のうち、「一般外来」へ行った人が7割台半ばと大半を占めている。

(15) 入院の有無と入院期間

ケガが原因で病院に行ったとき、「入院しなかった」場合が大半

- 病院に行った人の約8割が、「入院しなかった」と回答している。
- 70歳代以上では、「入院した」が3割を超えており、その割合が他に比べて高くなっている。
- 全体の入院期間の平均は58.2日となっている。

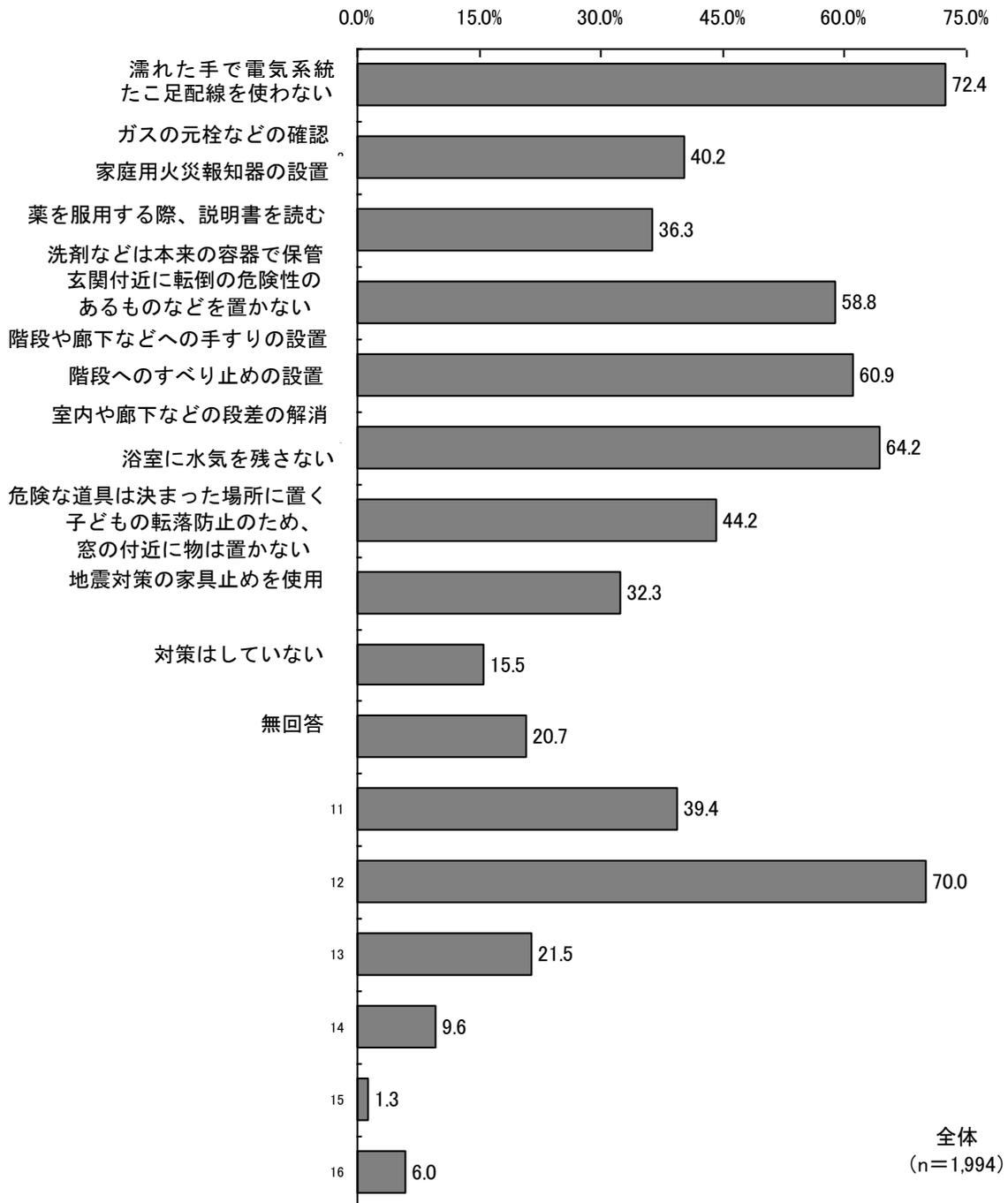
2. 「家庭内の安全対策」に関する考え方について

(1) 家庭内で実践している安全対策

「濡れた手で電気系統を触らない」を実践している人が大半

- 家庭内で実践している安全対策については、「濡れた手で電気系統を触らない」が7割を超えて最も多い。また、「危険な道具は決まった場所に置く」が7割、「洗剤などは本来の容器で保管」が6割台半ばとなっている。《図表9》
- 安全対策の多くの項目で、男性よりも女性の方が実践度が高い。
- 年代別にみると、各項目とも、概ね年代が上がるにつれて実践度が高くなっている。

【図表9 実践している安全対策】



(2) 家庭内での事故やケガの防止の工夫

家の中の物の「整理整頓」が多い

- 事故やケガの防止の工夫については、「階段や廊下には家具や物を置かない」、「つまづきそうな所に荷物を置かない」、「床に滑りやすいものを置きっぱなしにしない」などの『整理整頓』が63件と最も多い。《図表10》
- 『整理整頓』に次いで、「家族に注意を呼びかける」、「落ち着いて行動する」、「慌てない」などの『注意喚起』が44件、「危険な物は、子どもの手の届かない所にしまう」、「柵を設置する」、「風呂に水を貯め置かない」などの『子どもの事故防止のための配慮』が32件となっている。《図表10》

【図表10 事故やケガの防止の工夫（上位5項目）】

1	整理整頓	63	<ul style="list-style-type: none"> ・ 階段や廊下には家具や物を置かない。 ・ 家の内外で、つまづきそうな所に荷物を置かない。 ・ 床に滑りやすいものを置きっぱなしにしない。 ・ 刃物などの管理保管には、特に注意している。 ・ 足元になるべく物を置かない。
2	注意喚起	44	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族に注意を呼びかける。 ・ 日常、落ちついて行動するよう気をつける。 ・ 何事にも慌てない。 ・ 室内外で転ばないようにゆっくり歩く。
3	子どもの事故防止のための配慮	32	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険な物は、子どもの手の届かない所にしまう。 ・ 子どもが階段をのぼらないように柵をしている。 ・ お風呂の水を貯め置きしない。 ・ 子どもの手が届かない位置にカギを付ける。
4	コンセント、ガス等に対する注意	27	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンセントにホコリをつけない。 ・ 使わないコンセントは、必ず抜く。 ・ ガスの元栓は、使用後に止めたことを確認する。 ・ 家庭用消火器をキッチンに設置。
5	バリアフリーへの配慮	23	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関から、トイレ・浴室に至るまで手すりを設置。 ・ 階段や廊下、浴室などに手すりを設置している。 ・ 家をバリアフリー仕様でリフォームした。 ・ 車イス生活でも転倒しないように工夫している。

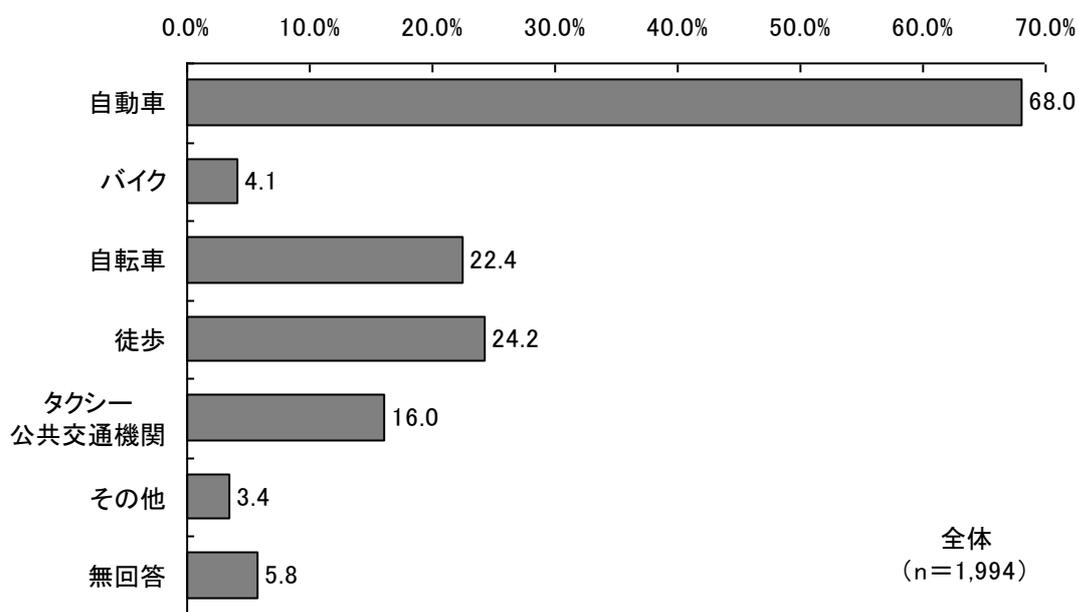
3. 「交通安全」について

(1) 主な移動手段

「自動車」を移動手段としている人が大半

- 本調査の回答者の約7割が、「自動車」を主な移動手段として利用している。
《図表11》
- 20歳代を除くと、年代が上がるにつれて「徒歩」と「タクシー・公共交通機関」の割合が高くなっている。

【図表11 主な移動手段】

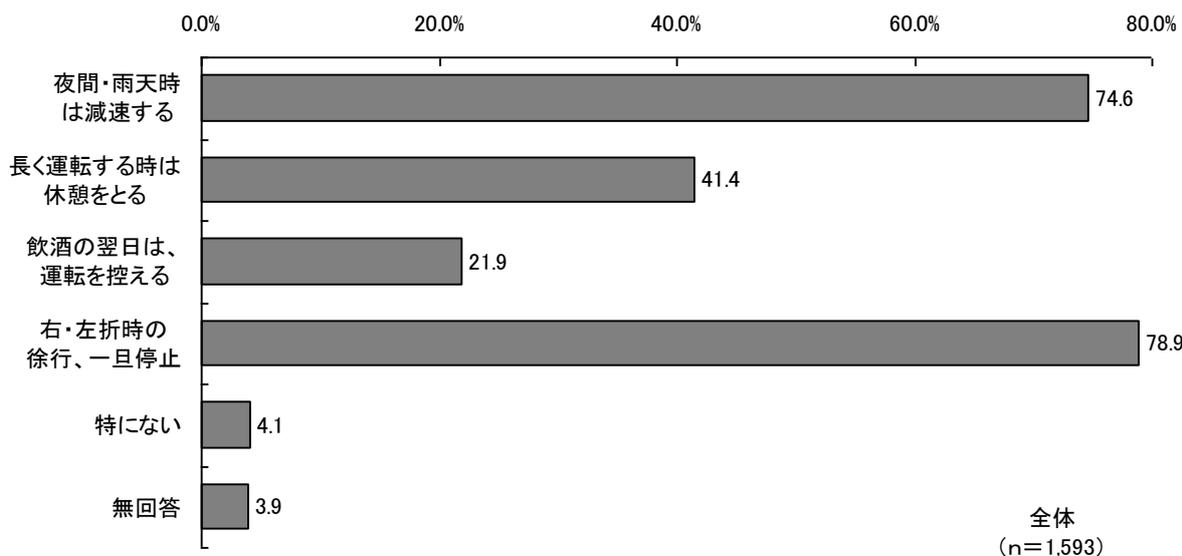


(2) 自動車・バイク・自転車の利用者が実行していること

自動車・バイク・自転車の利用者は「右・左折時の徐行、一旦停止」を実行している人が大半

- 自動車・バイク・自転車を主な移動手段として利用している人の約8割が、「右・左折時の徐行、一旦停止」と回答した。《図表12》
- 「飲酒の翌日は、運転を控える」と回答した人は3割に満たず、年代が下がるにつれてその割合が低くなっている。

【図表12 自動車・バイク・自転車の利用者が実行していること】

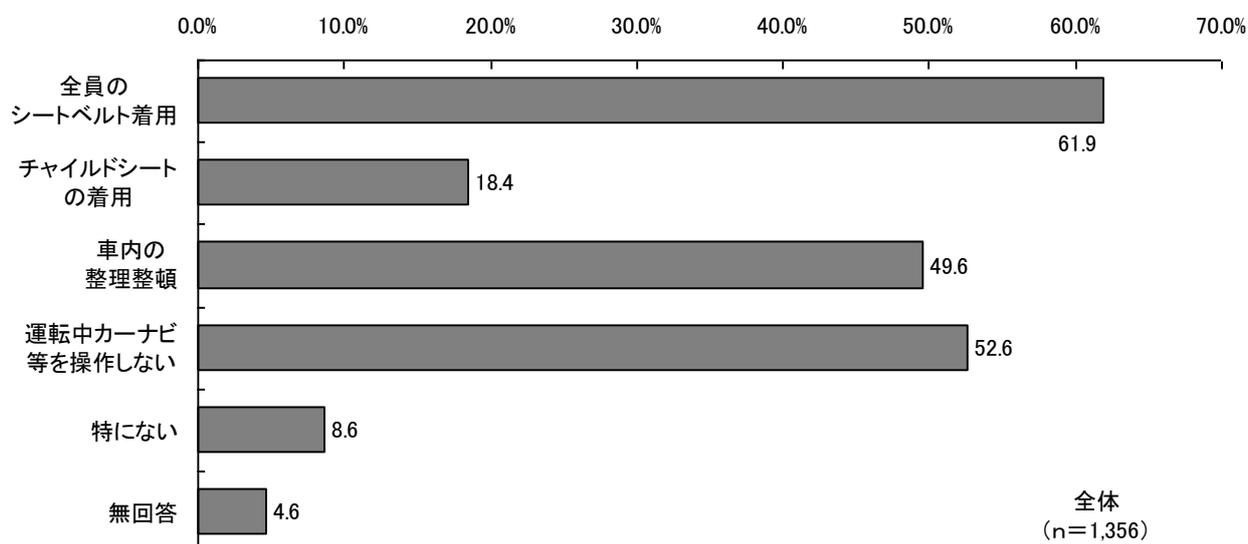


(3) 自動車の利用者が実行していること

自動車の利用者は「全員のシートベルト着用」を実行している人が過半数

- 自動車を主な移動手段として利用している人に、実行していることを尋ねたところ、「全員のシートベルト着用」が6割を超えて最も多い。《図表13》
- 20歳代では、実行していることは「特にない」と答えた人が約2割と、その割合が他に比べて高くなっている。

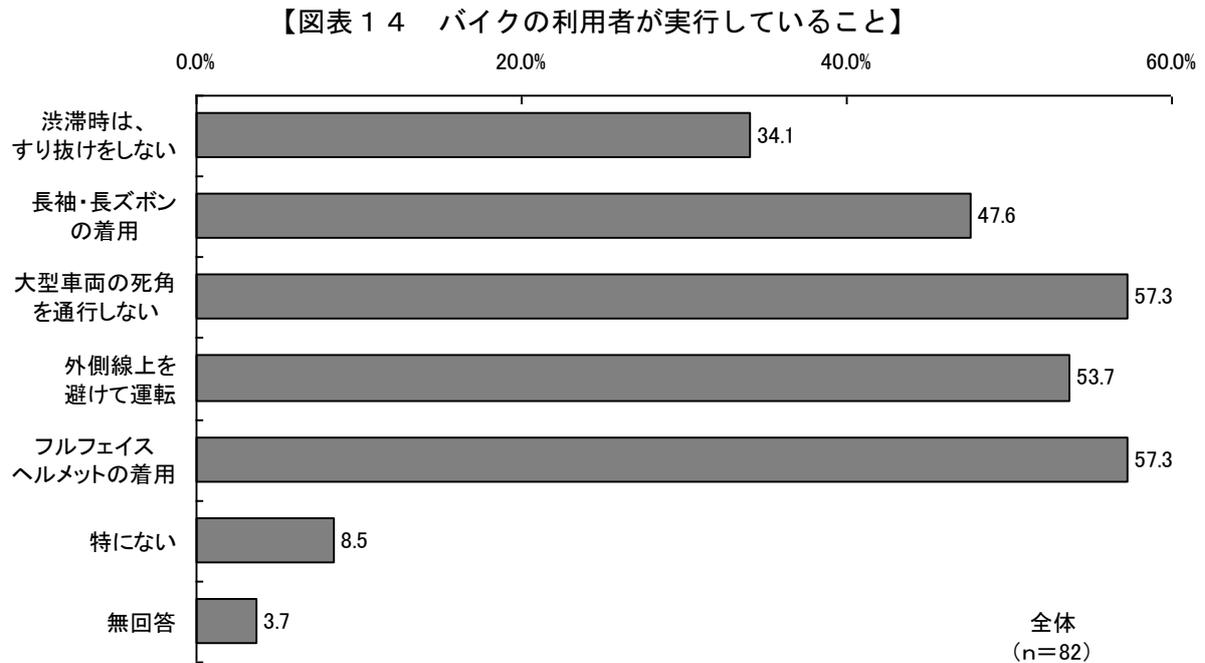
【図表13 自動車の利用者が実行していること】



(4) バイクの利用者が実行していること

バイクの利用者は「大型車両の死角を通行しない」、「フルフェイスヘルメットの着用」を実行している人が過半数

- バイクを主な移動手段として利用している人に、実行していることを尋ねたところ、「大型車両の死角を通行しない」「フルフェイスヘルメットの着用」が共に約6割を占めて最も多い。《図表14》

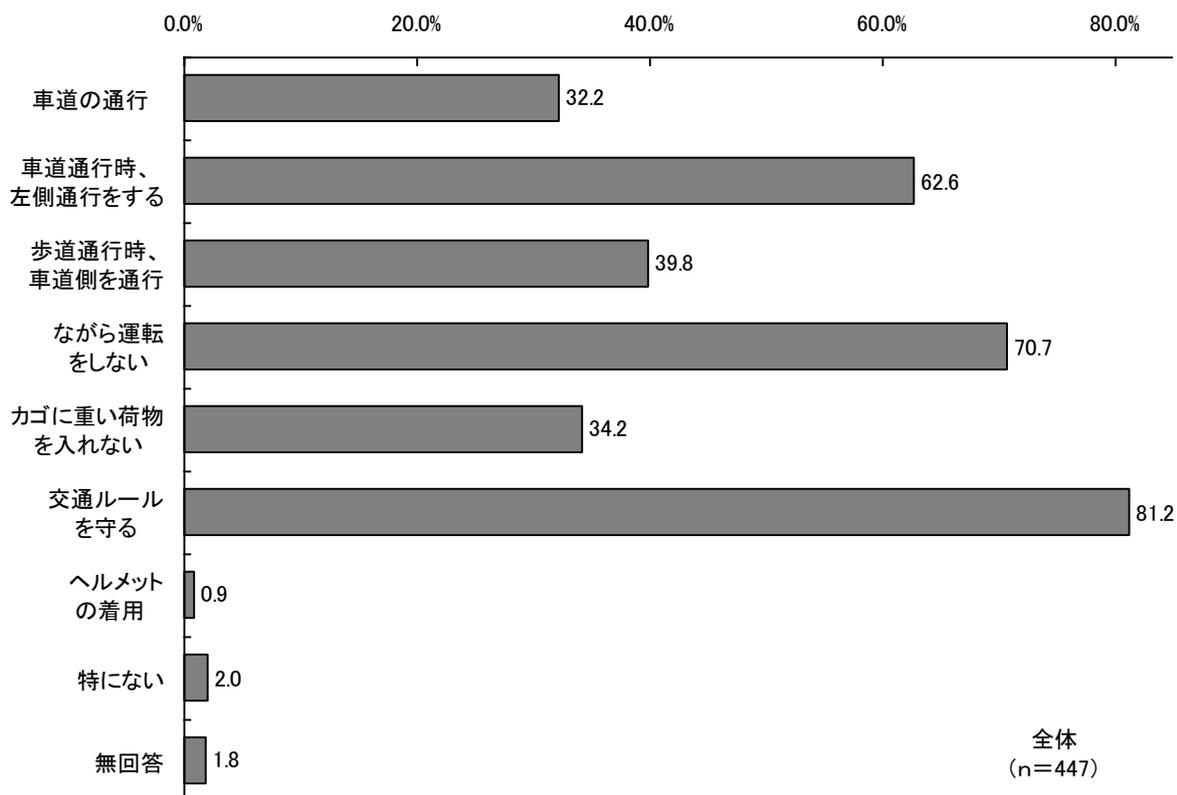


(5) 自転車の利用者が実行していること

自転車の利用者は、信号・一旦停止などの「交通ルールを守る」を実行している人が大半

- 自転車を主な移動手段として利用している人に、実行していることを尋ねたところ、「交通ルールを守る」が8割を超えて最も多い。《図表15》
- ほとんどの項目で、60歳代において実行している割合が最も高く、60歳代の自転車利用者は安全対策を実行している人が多い。

【図表15 自転車の利用者が実行していること】



4. 「幼児・児童と保護者の状況」について

(1) 子どもの年齢

子どもの年齢は、「0～2歳」が多い

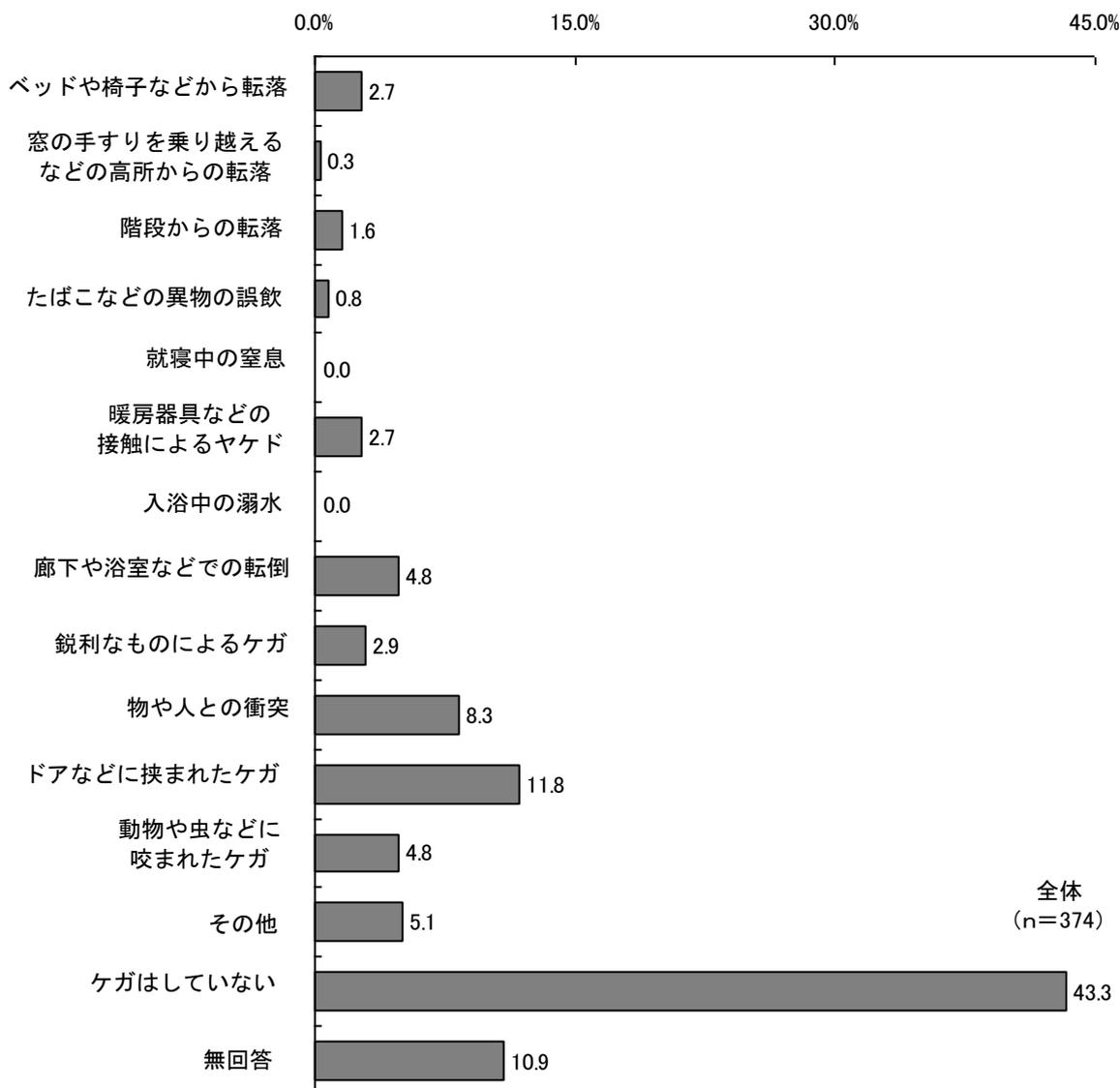
- 家族の中で0～11歳までの子どもがいる場合に、子どもの年齢を答えてもらうと、「0～2歳」が3割台半ばを占めて最も多い。

(2) 子どもが自宅でケガをした状況（過去3年間）

過去3年間に子どもは自宅で「ケガはしていない」が多い

- 過去3年間に、子どもが自宅でケガをした状況については、「ケガはしていない」が4割台半ばを占めて最も多い。《図表16》
- 概ね子どもの年齢が上がるにつれて、「ケガはしていない」の割合が高くなっている。
- ケガをした状況のうち、「ドアなどに挟まれたケガ」が1割を超えて最も多く、子どもの年齢が幼いほどその割合が高くなっている。

【図表16 子どもが自宅でケガをした状況】

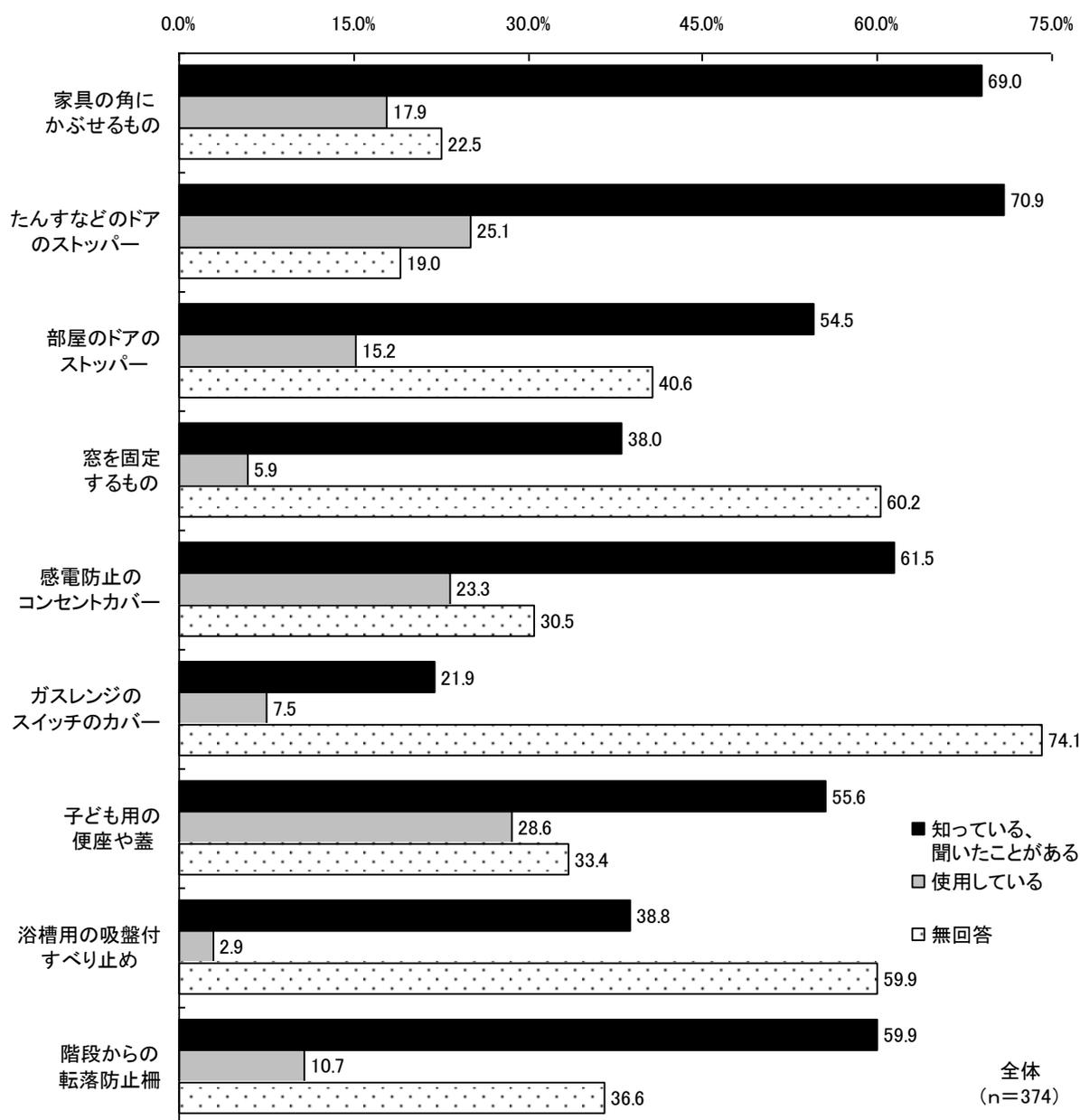


(3) 安全用品の認知度と使用度

安全用品の中で「たんすなどのストッパー」の認知度が高い
「子ども用の便座や蓋」の使用度が高い

- 安全用品の認知度と使用度には差があり、認知度の高いものでも使用度は低いことが分かる。《図表17》
- 「知っている、聞いたことがある」安全用品を尋ねると、「たんすなどのストッパー」の認知度が約7割で最も高い。「家具の角にかぶせるもの」、「感電防止のコンセントカバー」の認知度も6割を超えている。《図表17》
- 「使用している」安全用品を尋ねると、「子ども用の便座や蓋」の使用度が約3割で最も高い。《図表17》
- ほとんどの安全用品で、子供の年齢が若いほど使用度が高くなっている。

【図表17 安全用品の認知度と使用度】



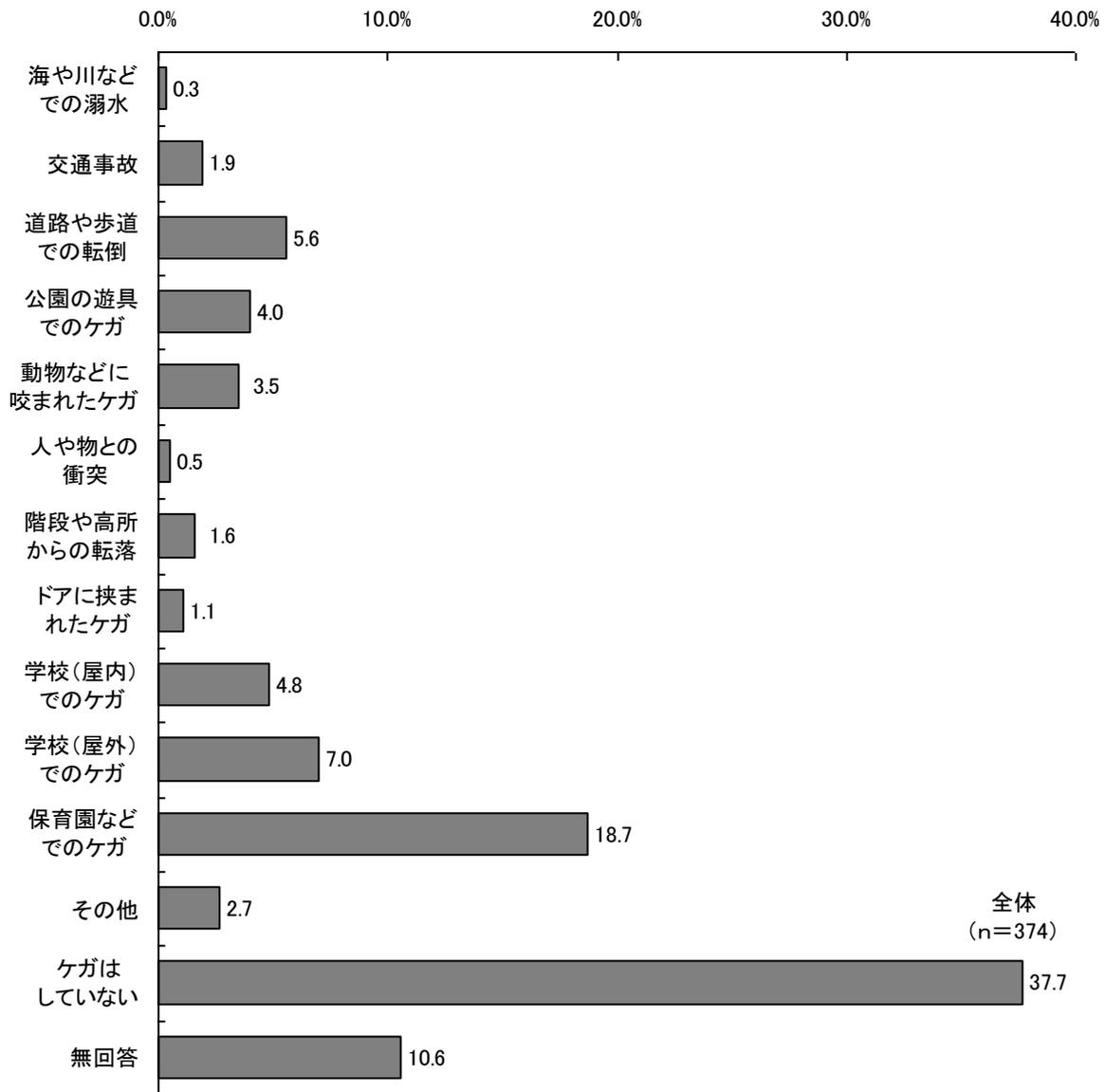
Ⅲ. 調査結果の概要

(4) 子どもが自宅以外でケガをした状況（過去3年間）

過去3年間に子どもは自宅以外で「ケガはしていない」が多い

- 過去3年間に、子どもが自宅以外でケガをした状況については、「ケガはしていない」が約4割を占めて最も多い。《図表18》
- ケガをした状況のうち、「保育園などでのケガ」が約2割を占めて最も多く、特に3～5歳ではその割合が約4割と高くなっている。一方、9歳以上では「学校（屋内でのケガ）」が1割台半ば、「学校（屋外）でのケガ」が2割を超えており、他に比べて高い。

【図表18 子どもが自宅以外でケガをした状況】



5. 「高齢者の状況」について

(1) 高齢者の属性

対象となる高齢者は、「回答者本人」、「女性」、「75歳以上」が過半数

- 家族の中で65歳以上の高齢者がいる場合（本人が高齢者の場合も含む）に、回答者本人が高齢者かどうか尋ねたところ、回答者本人が高齢者である場合が約6割を占めている。高齢者の性別は、「女性」が5割を超えており、年齢は、「75歳以上」が約6割を占めて最も多い。

(2) 高齢者の要介護認定の有無

「要介護認定の申請をしていない」場合が過半数

- 高齢者の要介護認定の有無については、「要介護認定の申請をしていない」が約6割を占めて最も多い。
- 要介護認定を持っている人は、「要介護5～1」が約2割、「要支援2～1」が約1割となっている。

(3) 高齢者の日常生活にかかわる動作について

高齢者にとって階段の昇降動作の支障度が高い

- 高齢者の日常生活動作（11項目）について、支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「階段をおりる」と「階段をのぼる」は、『支障がある』（「支障がある」＋「少し支障がある」）がそれぞれ4割台半ばを占め、他の動作に比べて支障度が高くなっている。《図表19》
- ほとんどの項目で男性よりも女性、年齢区分別では75歳以上、要介護認定別では要介護者で『支障がある』の割合が高い。

【図表19 高齢者の日常生活の支障度】 (%)

↓支障度の高い順		「(「支障がある」＋「少し支障がある」)」	「少し支障がある」	「支障がある」
1位	階段をおりる	45.8	29.1	16.7
2位	階段をのぼる	45.4	28.8	16.6
3位	たんすなどの上の物をとる	35.3	22.8	12.5
4位	椅子からの立ち上がり	33.4	26.1	7.3
5位	一人での外出	31.1	14.7	16.4
6位	布団から出る	28.4	22.1	6.3
7位	床に落ちた物を拾う	28.4	20.7	7.7
8位	室内歩行	25.4	16.9	8.5
9位	入浴	22.1	11.9	10.2
10位	トイレの利用	18.5	12.0	6.5
11位	シャワー	18.3	8.9	9.4

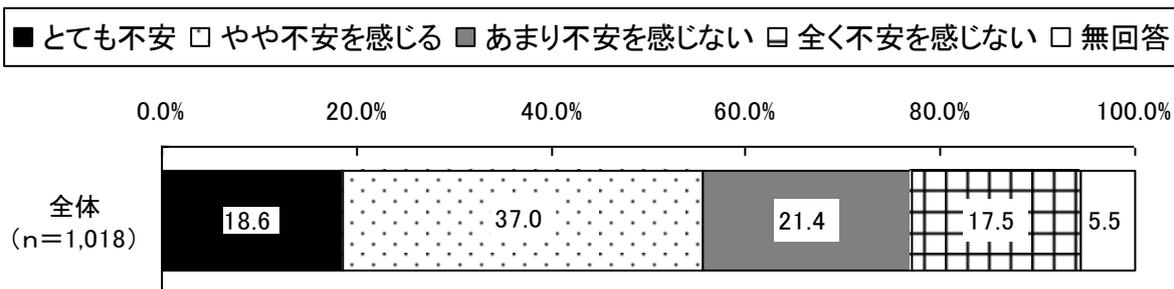
Ⅲ. 調査結果の概要

(4) 高齢者の転倒について

高齢者の転倒に対して、『不安を感じる』が過半数
転倒防止の工夫をしていない人が過半数

- 高齢者に、転倒に対する不安感について尋ねたところ、『不安を感じる』（「とても不安」＋「やや不安を感じる」）が5割台半ばを占めている。《図表20》
- 男性よりも女性、年齢区分別では75歳以上、要介護認定別では要介護者で『不安がある』の割合が高い。
- 転倒防止の工夫の有無については、約6割の人が工夫はしていないと回答している。

【図表20 高齢者の転倒に対する不安感】



- 転倒防止の工夫の具体的な内容としては、「家をバリアフリー仕様で建てた」、「スロープを設置している」、「手すりを設置している」などの『バリアフリーへの配慮』が125件と最も多く、「慎重に行動する」、「慌てない、急がない」などの『注意喚起』が48件、「杖を使用する」、「歩行器を使用する」などの『道具の使用』が36件となっている。《図表21》

【図表21 転倒防止の工夫（上位5項目）】

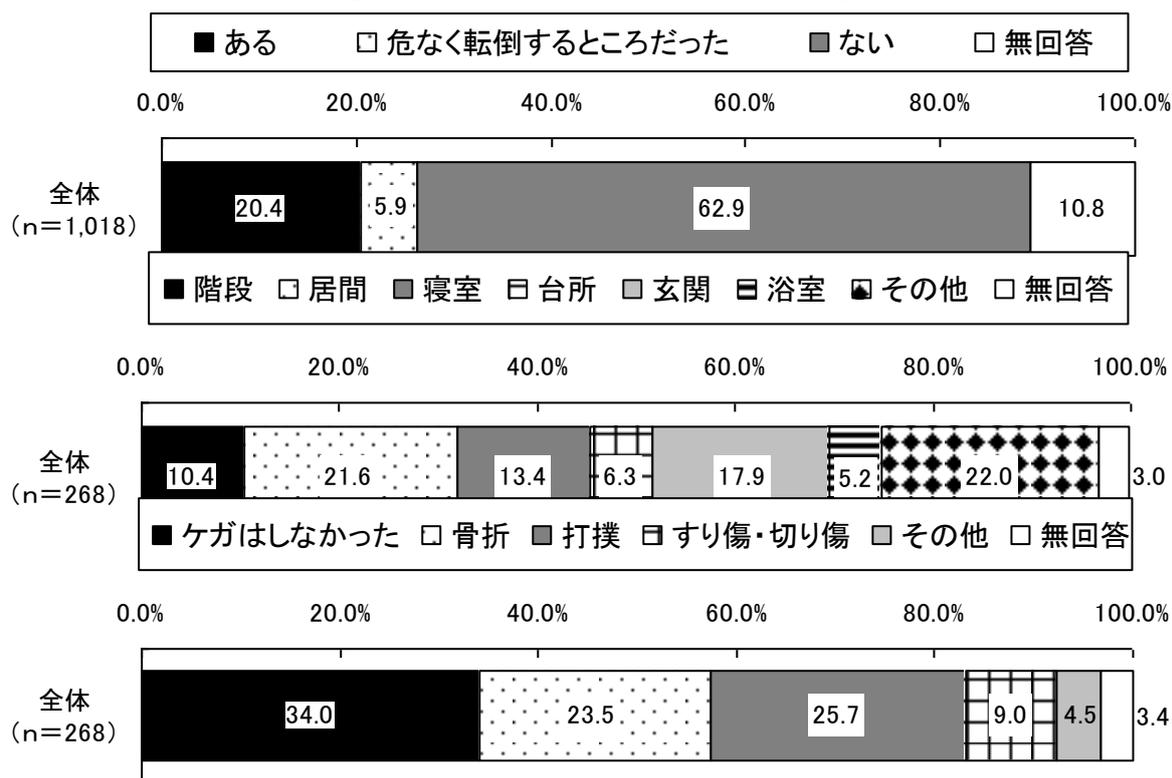
転倒防止の工夫	(件)	内容
1 バリアフリーへの配慮	125	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅をバリアフリー仕様で建てた。 ・玄関にスロープを設置している。 ・風呂やトイレに手すりを設置している。 ・ベッドに補助器具を付けている。 ・階段の段差を低く設定している。
2 注意喚起	48	<ul style="list-style-type: none"> ・常に慎重に行動する。 ・慌てない、急がない。 ・足元に注意する。 ・前を良く見て歩く。
3 道具の使用	36	<ul style="list-style-type: none"> ・外出する時、杖を使用する。 ・室内でも歩行器を利用する。 ・滑らない靴下を使用する。 ・腰ベルトを使っている。
4 運動、リハビリの実施	22	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日ウォーキングしている。 ・病院で転倒防止体操に参加する。 ・1日3回運動・食事のバランスに気をつける。 ・日頃から身体の鍛錬をする。
5 手すり、エレベーター等の使用	21	<ul style="list-style-type: none"> ・何かにつかまって立つ。 ・階段は手すりを使うようにしている。 ・浴室では手すりをよく使う。 ・壁や手すりなどに手をそえて移動する

(5) 高齢者の自宅での転倒（過去3年間）

過去3年間に転倒したことが「ない」高齢者が過半数
 転倒場所は、「居間」が多い
 転倒した時のケガは、「打撲」と「骨折」が多い

- 高齢者の過去3年間の自宅での転倒経験については、転倒したことが「ない」が6割を超えて最も多いが、回答者の4人に1人が転倒したことが「ある」、もしくは「危なく転倒するところだった」と回答している。《図表2.2》
- 転倒経験がある人の割合は、男性よりも女性、年齢区分別では75歳以上、要介護認定別では要介護者で高くなっている。
- 転倒した場所は、「居間」が2割を超えて最も多い。《図表2.3》
- 転倒した場所について、選択肢以外の「その他」の内容として、「家の外・庭」や「玄関・家の中」、「道路・外出先」といった回答も挙げられた。
- 転倒した時のケガについて尋ねると、「ケガはしなかった」が3割台半ばを占めて最も多い。ケガをした状況のうち、「打撲」と「骨折」がそれぞれ2割台半ばを占めている。《図表2.4》
- 要介護者で転倒した時に「骨折」した人の割合が他に比べて高い。

【図表2.2 高齢者の自宅での転倒経験】

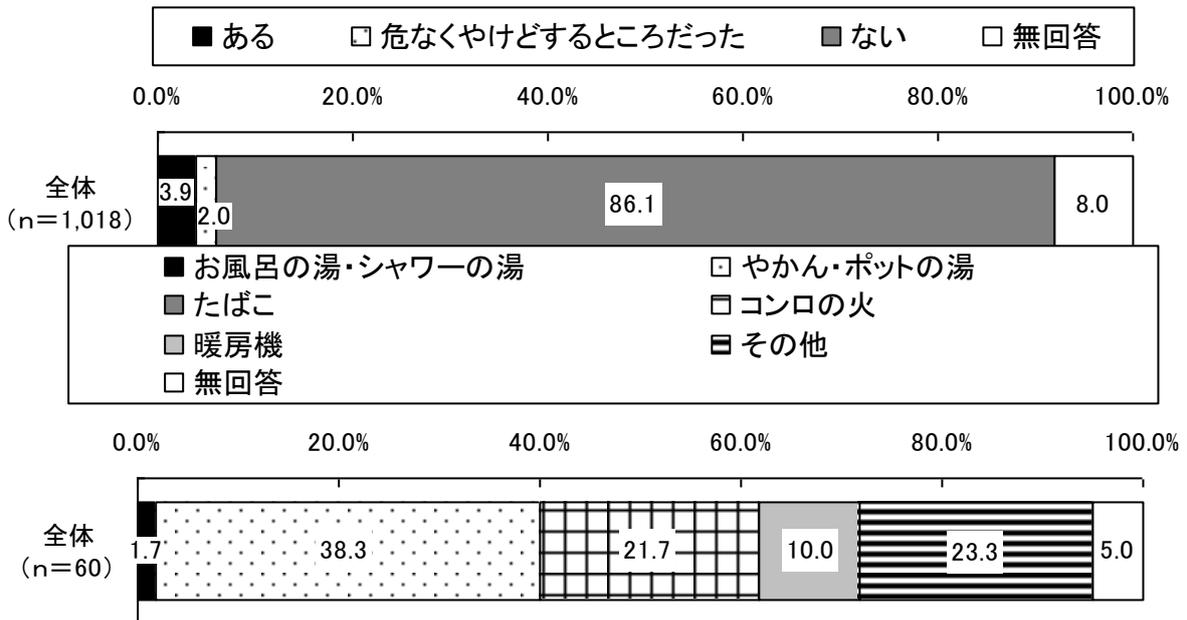


(6) 高齢者の自宅でのやけど（過去3年間）

過去3年間にやけどをしたことが「ない」高齢者が大半
 やけどの原因は、「やかん・ポットの湯」が多い

- 高齢者が過去3年間に自宅でやけどをした経験については、やけどをしたことが「ない」が8割台半ばと大半を占めている。《図表25》
- やけどの原因は、「やかん・ポットの湯」が約4割を占めて最も多い。《図表26》
- 全体的に、調理器具や油など、食事の準備に関係するものが原因となっている場合が多くなっている。

【図表25 高齢者の自宅でのやけどの経験】

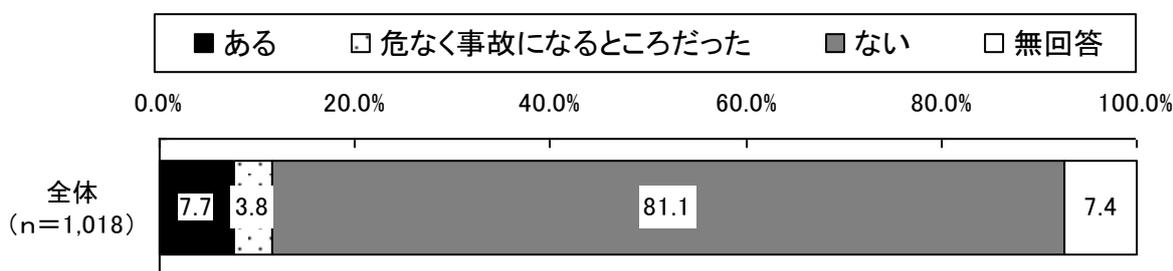


(7) 高齢者の歩行中や自転車乗車時の事故（過去3年間）

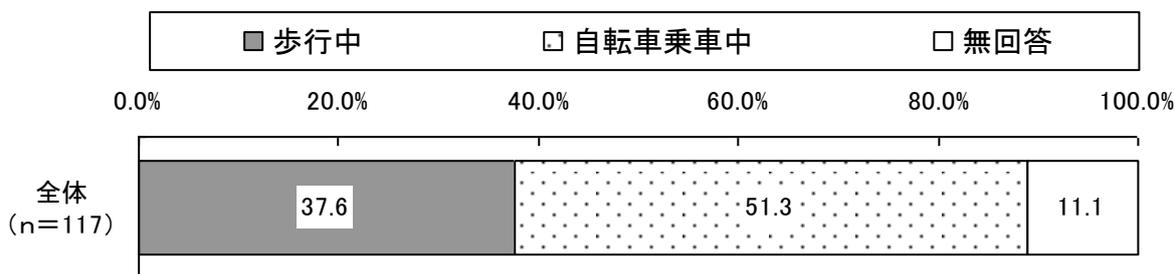
過去3年間に事故にあったことが「ない」高齢者が大半
 「自転車乗車中」に事故にあった場合が過半数
 事故の原因は、「ひとり相撲（自分だけで転んだ）」が多い

- 高齢者が過去3年間に事故にあった経験については、事故にあったことが「ない」が8割を超えて大半を占めている。《図表27》
- 事故にあった時の状況は、「自転車乗車中」が5割を超えており、「歩行中」が約4割となっている。《図表28》
- 事故の原因は、「ひとり相撲（自分だけで転んだ）」が3割台半ばを占めて最も多い。《図表29》

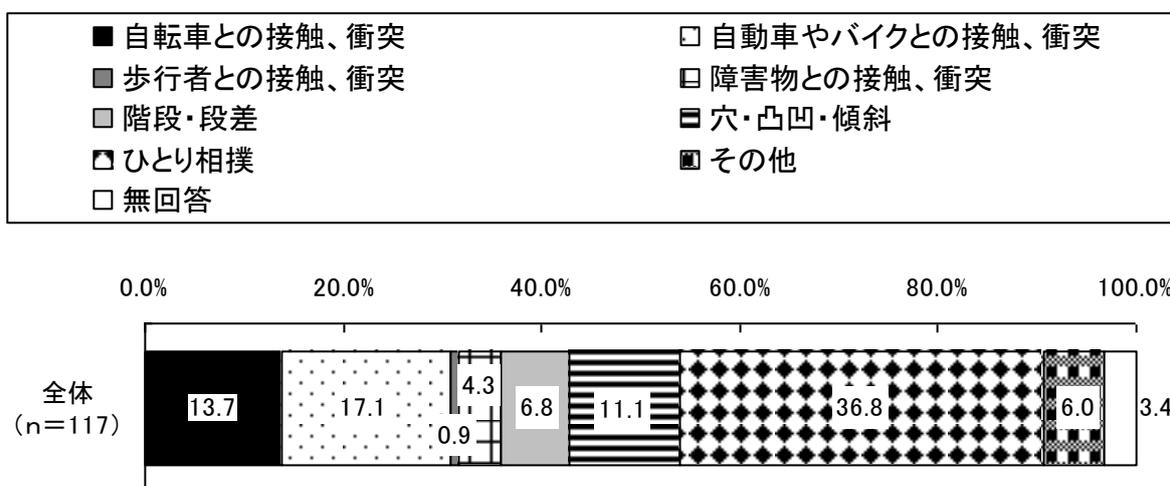
【図表27 高齢者の事故の経験】



【図表28 事故にあった時の状況】



【図表29 事故の原因】



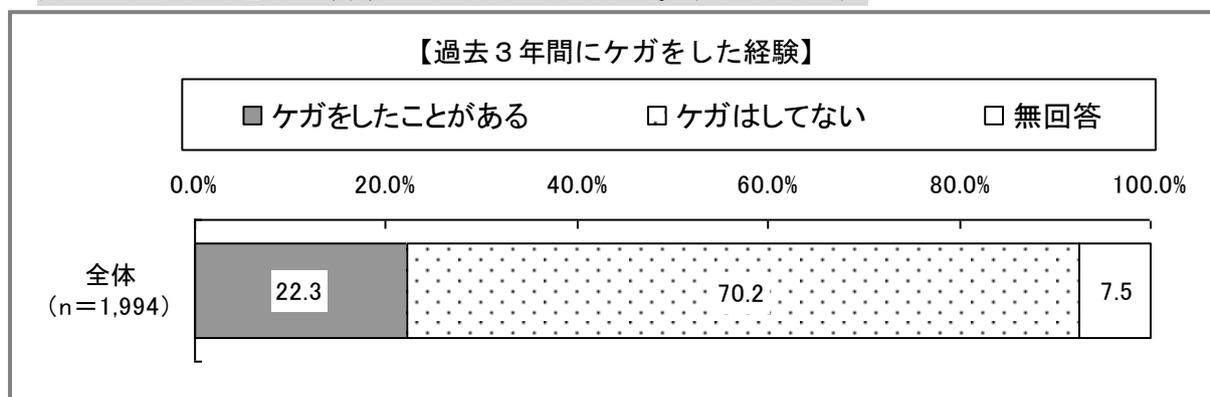
IV. 調査結果の詳細

IV. 調査結果の詳細

1. 過去のケガについて

(1) 過去3年間にケガをした経験

問1. あなたは過去3年間にケガをされましたか。(〇はひとつ)



過去3年間にケガをした経験については、「ケガはしてない」(70.2%)が約7割を占めており、「ケガをしたことがある」(22.3%)を上回っている。

【属性別特徴】

性別にみると、女性において「ケガをしたことがある」(25.4%)の割合が男性に比べて高い。

また、年代別にみると、70歳代以上において「ケガをしたことがある」(30.7%)の割合が約3割を占めており、他に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

(%)

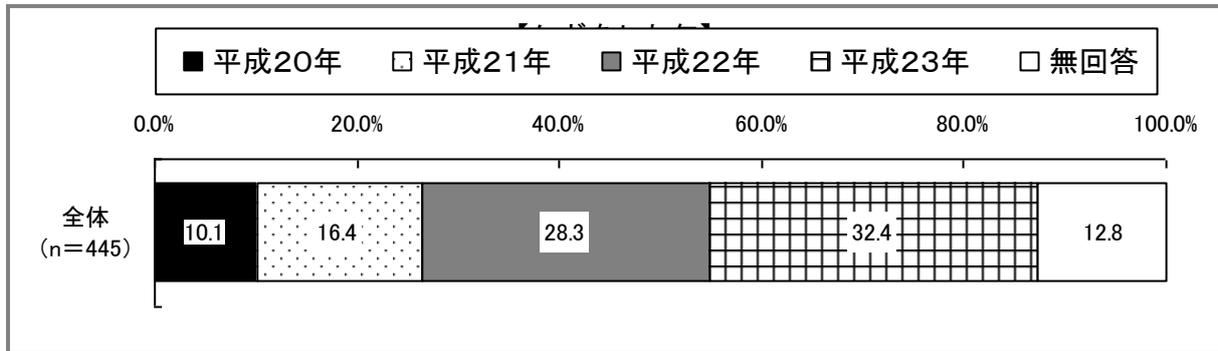
		合計 (件)	ケガをした ことがある	ケガは してない	無回答
全体 (件)		1994 100.0	445 22.3	1400 70.2	149 7.5
性別	男性	821	20.0	76.4	3.7
	女性	1077	25.4	70.1	4.5
	無回答	96	7.3	18.8	74.0
年代別	20歳代	175	19.4	79.4	1.1
	30歳代	281	19.9	78.3	1.8
	40歳代	270	20.0	78.9	1.1
	50歳代	347	19.6	78.7	1.7
	60歳代	371	22.6	72.2	5.1
	70歳代以上	440	30.7	59.8	9.5
	無回答	110	12.7	21.8	65.5

IV. 調査結果の詳細

(2) ケガをした日時

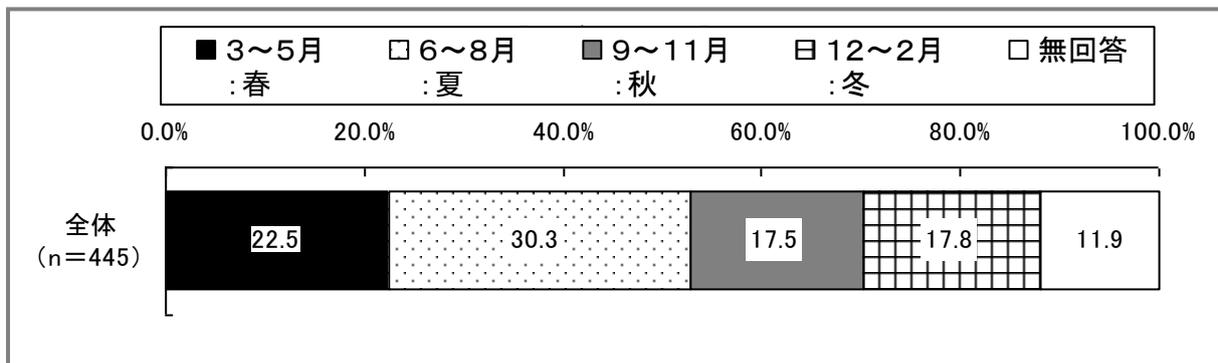
問2. ケガをされたのはいつ、何時頃ですか。

ケガをした日時－①ケガをした年



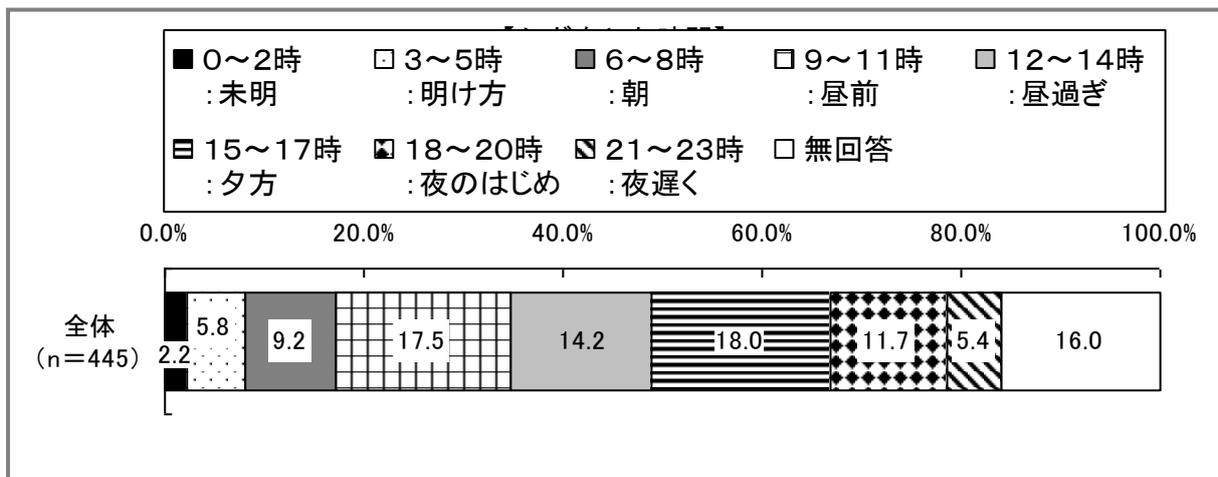
ケガをした年については、「平成23年」(32.4%)が3割を超えて最も多く、次いで「平成22年」(28.3%)、「平成21年」(16.4%)となっている。

ケガをした日時－②ケガをした月



ケガをした月については、「6～8月：夏」(30.3%)が約3割を占めて最も多く、次いで「3～5月：春」(22.5%)、「12～2月：冬」(17.8%)となっている。

ケガをした日時－③ケガをした時間

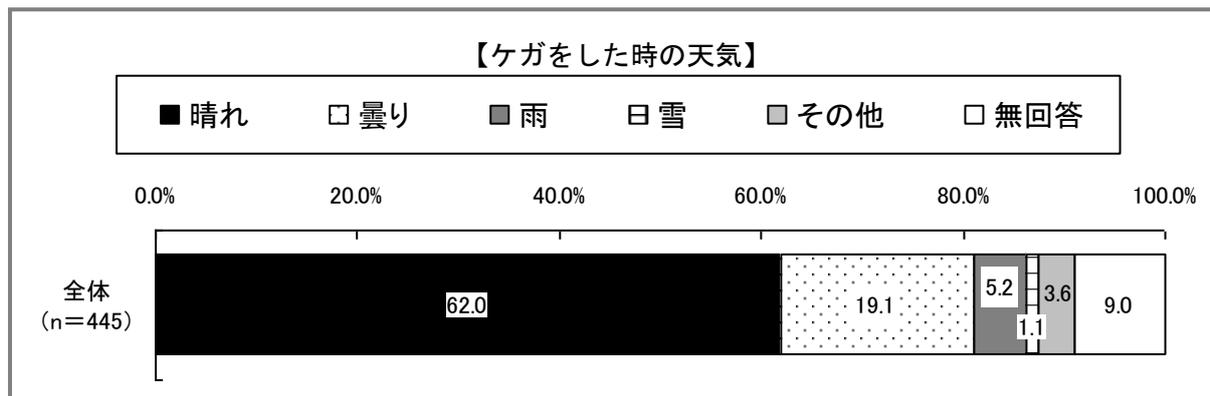


ケガをした時間については、「15～17時：夕方」(18.0%)が約2割を占めて最も多く、次いで「9～11時：昼前」(17.5%)、「12～14時：昼過ぎ」(14.2%)となっている。

上位3項目を合わせると、『9～17時』が49.7%と約半数を占め、夜や未明の時間よりも日中にケガをする人が多いことが分かる。

(3) ケガをした時の天気

問3. ケガをされた時の天気は。(○はひとつ)

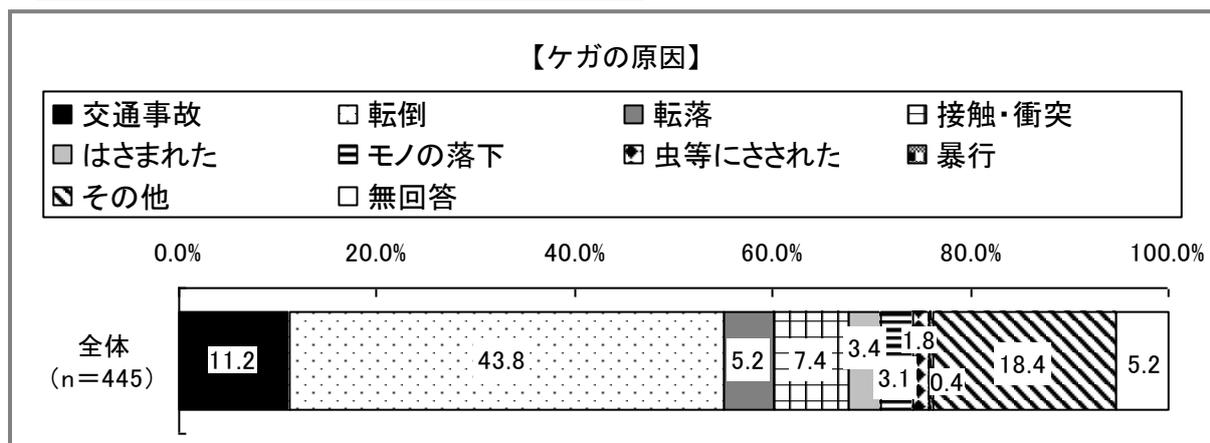


ケガをした時の天気については、「晴れ」(62.0%)が6割を超えて最も多く、次いで「曇り」(19.1%)、「雨」(5.2%)となっている。

IV. 調査結果の詳細

(4) ケガの原因

問4. ケガの原因は何でしたか。(〇はひとつ)



ケガの原因については、「その他」を除くと、「転倒」(43.8%)が4割台半ばを占めて最も多く、次いで「交通事故」(11.2%)、「接触・衝突」(7.4%)となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「家事・調理中の不注意」、「庭木・農作業中の不注意」、「スポーツ・趣味」などが挙げられた。

【属性別特徴】

性別にみると、男性において「交通事故」(18.9%)の割合が女性に比べて高い。

また、年代別にみると、20歳代では「交通事故」(29.4%)の割合が他の年代に比べて高い。さらに、60歳代と70歳代以上においては「転倒」(60歳代:52.4%、70歳代以上:54.1%)の割合が5割を超えており、他に比べて高い。

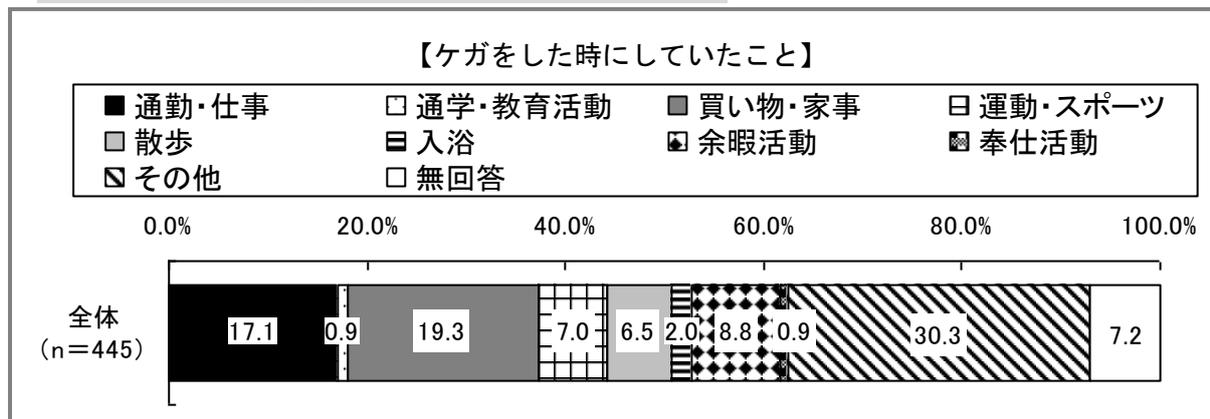
◆表 性別・年代別◆

(%)

		合計 (件)	交通 事故	転 倒	転 落	接 触 ・ 衝 突	は さ ま れ た	モ ノ の 落 下	さ 虫 等 に さ れ た	暴 行	そ の 他	無 回 答
全体 (件)		445	50	195	23	33	15	14	8	2	82	23
		100.0	11.2	43.8	5.2	7.4	3.4	3.1	1.8	0.4	18.4	5.2
性別	男性	164	18.9	39.0	7.9	8.5	3.0	2.4	3.0	1.2	12.2	3.7
	女性	274	6.9	47.4	3.3	6.9	3.6	3.6	1.1	-	22.3	4.7
	無回答	7	-	14.3	14.3	-	-	-	-	-	14.3	57.1
年代別	20歳代	34	29.4	41.2	-	8.8	-	8.8	-	-	11.8	-
	30歳代	56	12.5	35.7	3.6	21.4	3.6	3.6	1.8	1.8	12.5	3.6
	40歳代	54	11.1	20.4	3.7	11.1	5.6	5.6	7.4	1.9	33.3	-
	50歳代	68	8.8	38.2	7.4	8.8	-	4.4	2.9	-	22.1	7.4
	60歳代	84	13.1	52.4	6.0	6.0	1.2	2.4	-	-	17.9	1.2
	70歳代以上	135	7.4	54.1	5.2	0.7	5.9	0.7	0.7	-	17.0	8.1
	無回答	14	-	50.0	14.3	-	7.1	-	-	-	-	28.6

(5) ケガをした時にしていたこと

問5. ケガの時は何をしていましたか。(〇はひとつ)



ケガの時にしていたことについては、「その他」を除くと、「買い物・家事」(19.3%)が約2割を占めて最も多く、次いで「通勤・仕事」(17.1%)、「余暇活動」(8.8%)となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「家の中にいた」、「庭木の手入れ・農作業」、「家事・食事」などが挙げられた。

【属性別特徴】

性別にみると、男性においては「通勤・仕事」(27.4%)、女性においては「買い物・家事」(27.4%)の割合が高い。

また、年代別にみると、20歳代と50歳代において「通勤・仕事」(20歳代:38.2%、50歳代:32.4%)の割合が3割を超えており、他に比べて高い。また、50歳代においては「買い物・家事」(29.4%)の割合も約3割と高くなっている。

◆表 性別・年代別◆

(%)

		合計 (件)	通勤・ 仕事	通学・ 教育活 動	買 い 物 ・ 家 事	ス ポ ー ツ ・ 運 動	散 歩	入 浴	余 暇 活 動	奉 仕 活 動	そ の 他	無 回 答
全体 (件)		445 100.0	76 17.1	4 0.9	86 19.3	31 7.0	29 6.5	9 2.0	39 8.8	4 0.9	135 30.3	32 7.2
性別	男性	164	27.4	1.2	6.7	9.1	10.4	0.6	12.8	0.6	25.6	5.5
	女性	274	11.3	0.7	27.4	5.8	4.4	2.9	6.2	1.1	33.2	6.9
	無回答	7	-	-	-	-	-	-	14.3	-	28.6	57.1
年代別	20歳代	34	38.2	8.8	11.8	11.8	-	-	17.6	-	11.8	-
	30歳代	56	26.8	-	17.9	17.9	3.6	-	19.6	-	12.5	1.8
	40歳代	54	9.3	-	24.1	13.0	1.9	1.9	13.0	-	37.0	-
	50歳代	68	32.4	-	29.4	2.9	4.4	-	4.4	1.5	19.1	5.9
	60歳代	84	17.9	-	19.0	3.6	15.5	3.6	6.0	1.2	31.0	2.4
	70歳代以上	135	4.4	0.7	15.6	3.7	7.4	3.7	5.2	1.5	43.0	14.8
	無回答	14	-	-	14.3	-	-	-	-	-	50.0	35.7

IV. 調査結果の詳細

【「ケガをした時にしていたこと」と「問4.ケガの原因」との関係】

ケガをした時にしていたことをケガの原因別にみると、「交通事故」においては「通勤・仕事」(32.0%)、「転倒」においては「買い物・家事」(15.4%)、「散歩」(12.3%)、「通勤・仕事」(10.8%)、「余暇活動」(10.8%)の割合が高くなっている。

「モノの落下」においては「買い物・家事」(42.9%)の割合が高い。

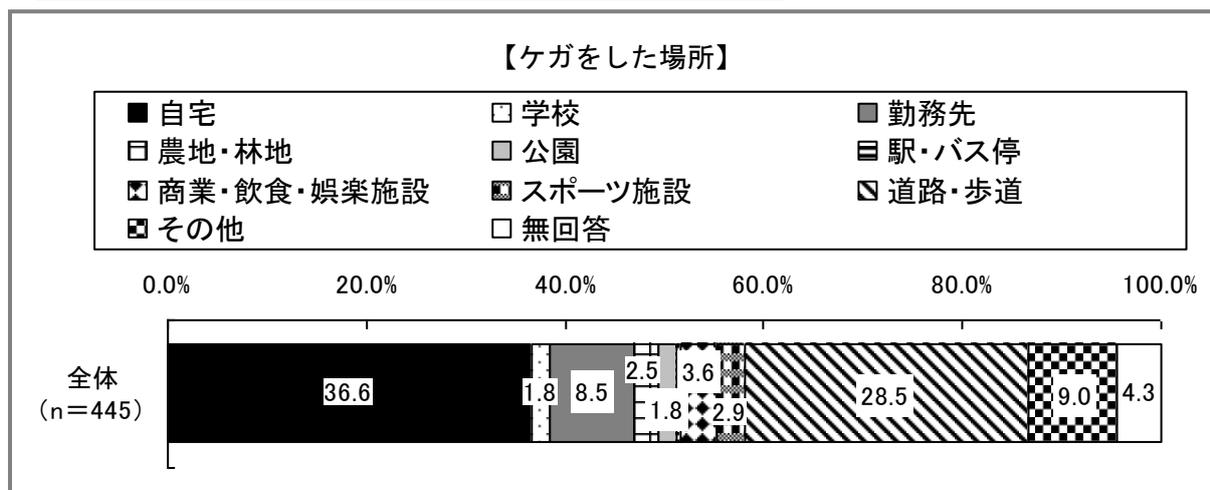
◆表 ケガの原因別◆

(%)

	合計 (件)	問5. ケガをした時にしていたこと										
		通勤・ 仕事	教育・ 学活動	買 い物・ 家事	ス ポ ー ツ	運 動	散 歩	入 浴	余 暇 活 動	奉 仕 活 動	そ の 他	無 回 答
全体 (件)	445 100.0	76 17.1	4 0.9	86 19.3	31 7.0	29 6.5	9 2.0	39 8.8	4 0.9	135 30.3	32 7.2	
問 4 ケ ガ の 原 因	交通事故	50	32.0	2.0	20.0	-	6.0	-	16.0	-	20.0	4.0
	転倒	195	10.8	1.5	15.4	7.7	12.3	4.1	10.8	1.5	31.8	4.1
	転落	23	17.4	-	26.1	-	-	-	4.3	-	43.5	8.7
	接触・衝突	33	45.5	-	18.2	15.2	3.0	-	6.1	-	12.1	-
	はさまれた	15	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	20.0	13.3
	モノの落下	14	35.7	-	42.9	7.1	-	-	-	-	14.3	-
	虫等にさされた	8	25.0	-	-	-	-	-	12.5	-	62.5	-
	暴行	2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-
	その他	82	8.5	-	25.6	11.0	1.2	1.2	6.1	1.2	45.1	-
	無回答	23	4.3	-	8.7	4.3	-	-	-	-	4.3	78.3

(6) ケガをした場所

問6. ケガをされた場所は、どこでしたか。(〇はひとつ)



ケガをした場所については、「その他」を除くと、「自宅」(36.6%)が3割台半ばを占めて最も多く、次いで「道路・歩道」(28.5%)、「勤務先」(8.5%)となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「家の中の詳細」、「現場・勤務先の詳細」、「施設・病院」などが挙げられた。

【属性別特徴】

性別にみると、女性において「自宅」(46.0%)の割合が男性(21.3%)に比べて高い。

また、年代別にみると、20歳代において「道路・歩道」(47.1%)の割合が高く、70歳代以上において「自宅」(47.4%)の割合が他に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

(%)

		合計 (件)	自宅	学校	勤務先	農地・ 林地	公園	駅・ バス停	商業・ 飲食・ 娯楽施設	スポ ーツ 施設	道 路・ 歩道	そ の 他	無 回 答
全体 (件)		445 100.0	163 36.6	8 1.8	38 8.5	11 2.5	8 1.8	2 0.4	16 3.6	13 2.9	127 28.5	40 9.0	19 4.3
性別	男性	164	21.3	2.4	11.0	4.9	4.3	0.6	0.6	3.0	37.2	11.0	3.7
	女性	274	46.0	1.5	7.3	1.1	0.4	0.4	5.5	2.9	24.1	7.7	3.3
	無回答	7	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	57.1
年代別	20歳代	34	8.8	5.9	20.6	-	-	-	11.8	2.9	47.1	2.9	-
	30歳代	56	19.6	8.9	8.9	1.8	7.1	-	5.4	7.1	30.4	10.7	-
	40歳代	54	44.4	1.9	13.0	-	-	1.9	3.7	9.3	20.4	3.7	1.9
	50歳代	68	36.8	-	17.6	-	-	1.5	-	1.5	27.9	7.4	7.4
	60歳代	84	34.5	-	6.0	3.6	3.6	-	6.0	1.2	34.5	9.5	1.2
	70歳代以上	135	47.4	-	1.5	5.2	0.7	-	0.7	0.7	25.9	11.9	5.9
	無回答	14	50.0	-	-	-	-	-	7.1	-	-	14.3	28.6

IV. 調査結果の詳細

【「ケガをした場所」と「問4.ケガの原因」との関係】

ケガをした場所をケガの原因別にみると、「交通事故」においては、圧倒的に「道路・歩道」(98.0%)の割合が高い。「転倒」においては「自宅」(36.9%)、「道路・歩道」(31.3%)の割合が高くなっている。

「転落」においては「自宅」(73.9%)の割合が高い。

◆表 ケガの原因別◆

(%)

	合計 (件)	問6. ケガをした場所											
		自宅	学校	勤務先	農地・林地	公園	駅・バス停	娯楽施設・飲食・	スポーツ施設	道路・歩道	その他	無回答	
全体 (件)	445 100.0	163 36.6	8 1.8	38 8.5	11 2.5	8 1.8	2 0.4	16 3.6	13 2.9	127 28.5	40 9.0	19 4.3	
問4 ケガの原因	交通事故	50	-	-	-	-	-	-	-	98.0	2.0	-	
	転倒	195	36.9	1.5	5.6	3.1	3.6	0.5	5.1	2.6	31.3	9.2	0.5
	転落	23	73.9	-	8.7	-	-	-	-	-	-	17.4	-
	接触・衝突	33	18.2	6.1	27.3	-	-	-	6.1	12.1	27.3	3.0	-
	はさまれた	15	33.3	6.7	20.0	6.7	-	-	13.3	-	6.7	13.3	-
	モノの落下	14	64.3	-	21.4	-	-	-	-	-	-	14.3	-
	虫等にさされた	8	62.5	-	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5	12.5
	暴行	2	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	その他	82	56.1	2.4	11.0	2.4	-	1.2	2.4	4.9	4.9	13.4	1.2
	無回答	23	13.0	-	4.3	4.3	4.3	-	-	-	4.3	-	69.6

(7) ケガをした状況

問7. ケガをした状況を簡単に記入してください。

ケガをした状況を記入してもらえると、『転倒でのケガ』が最も多く、その中でも、何かに「つまづいて転んだ」が48件と最も多い。次いで、『交通事故でのケガ』、『転落でのケガ』がそれぞれ多い。

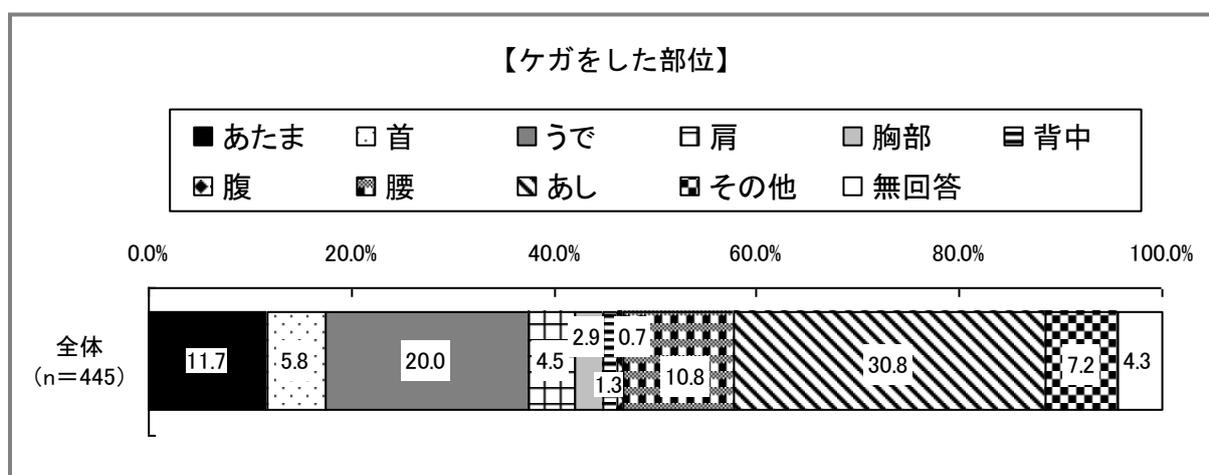
以下、回答の内容を分類し、それぞれで記入の多かった上位3項目をまとめた。

◆表 ケガをした状況・分類◆

①転倒でのケガ		件数	内容
1	つまづいて転んだ	48	・散歩中に石につまづいた。 ・階段につまづいて転んで足をくじいた。 ・段差につまづいて転倒して骨折した。
2	滑って転んだ	28	・雨の日にバスの中で滑った。 ・風呂場で滑って転倒した。 ・階段で足を滑らせて捻挫した。
3	バランスを崩して転んだ	24	・布団から出る時によろけた。 ・歩いている時にふらっとした。 ・上の物を取ろうとしてバランスを崩した。
②交通事故でのケガ		件数	内容
1	自動車乗車中の事故	31	・停車中に後ろから衝突された。 ・交差点で接触事故を起こした。 ・出会い頭に衝突した。
2	自転車乗車中の事故	14	・歩行者を避けきれずにぶつかった。 ・自転車同士でぶつかった。 ・出会い頭に衝突した。
3	バイク乗車中の事故	13	・自動車に巻き込まれて事故になった。 ・田んぼ道でスリップした。 ・カーブで転倒した。
③転落でのケガ		件数	内容
階段などからの転落		20	・階段を踏み外して転落。 ・脚立から転落した。 ・ベッドから落ちた。

(8) ケガをした部位

問8. ケガをした部位（からだの場所）はどこですか。（○はひとつ）

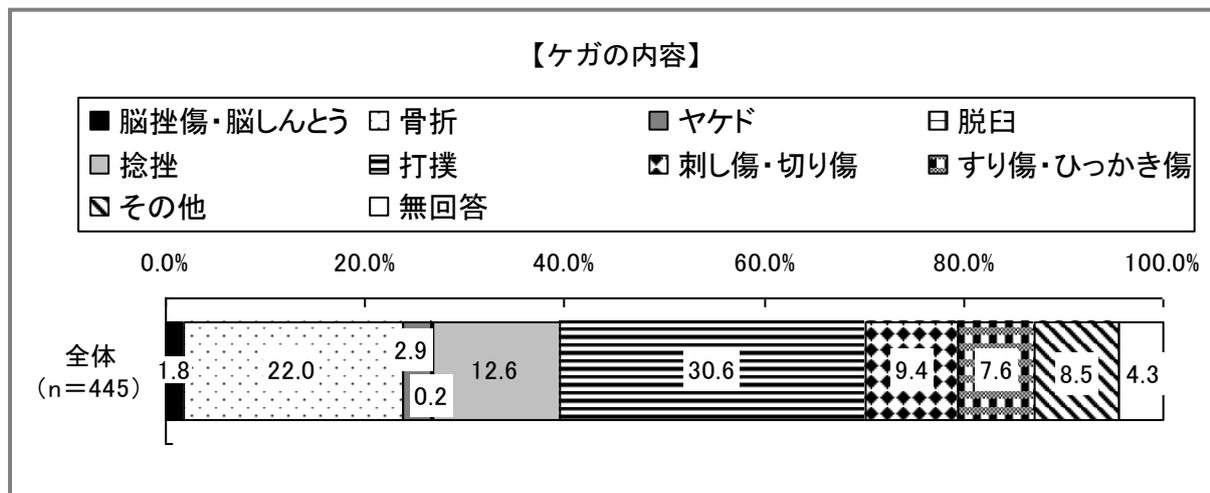


ケガをした部位については、「あし（足、足首、ひざ等）」（30.8%）が約3割を占めて最も多く、次いで「うで（手、手首、ひじ等）」（20.0%）、「あたま（顔、目、鼻、耳等）」（11.7%）となっている。

IV. 調査結果の詳細

(9) ケガの内容

問9. どのようなケガでしたか。(○はひとつ)



ケガの内容については、「打撲」(30.6%)が約3割を占めて最も多く、次いで「骨折」(22.0%)、「捻挫」(12.6%)となっている。

【属性別特徴】

年代別にみると、70歳代以上において「骨折」(35.6%)の割合が3割台半ばを占めており、他に比べて高い。

◆表 年代別◆

(%)

		合計 (件)	脳挫傷・ 脳しんとう	骨折	ヤケド	脱臼	捻挫	打撲	刺し傷・ 切り傷	すり傷・ ひっかき傷	その他	無 回 答
全体 (件)		445	8	98	13	1	56	136	42	34	38	19
		100.0	1.8	22.0	2.9	0.2	12.6	30.6	9.4	7.6	8.5	4.3
年代別	20歳代	34	-	8.8	-	-	11.8	29.4	14.7	8.8	26.5	-
	30歳代	56	-	14.3	-	-	17.9	39.3	8.9	7.1	10.7	1.8
	40歳代	54	-	14.8	11.1	-	20.4	24.1	16.7	3.7	7.4	1.9
	50歳代	68	-	11.8	2.9	-	13.2	23.5	16.2	8.8	14.7	8.8
	60歳代	84	4.8	22.6	2.4	1.2	19.0	33.3	4.8	7.1	1.2	3.6
	70歳代以上	135	3.0	35.6	2.2	-	3.7	31.9	5.2	8.9	5.2	4.4
	無回答	14	-	28.6	-	-	7.1	28.6	7.1	7.1	7.1	14.3

【「ケガの内容」と「問4.ケガの原因」との関係】

ケガの内容をケガの原因別にみると、交通事故のときは「打撲」(54.0%)の割合が過半数を占めており、他に比べて高い。また、70歳代以上の高齢者でのケガの原因のうち、特に割合が高かった転倒では、「打撲」(34.4%)、「骨折」(27.7%)の割合が3割前後を占めている。

◆表 ケガの原因別◆

(%)

	合計 (件)	問9. ケガの内容										
		脳挫傷・ 脳しんとう	骨折	ヤケド	脱臼	捻挫	打撲	刺し傷・ 切り傷	すり傷・ ひっかき傷	その他	無回答	
全体 (件)	445 100.0	8 1.8	98 22.0	13 2.9	1 0.2	56 12.6	136 30.6	42 9.4	34 7.6	38 8.5	19 4.3	
問4 ケガの原因	交通事故	50	-	8.0	-	-	18.0	54.0	2.0	4.0	14.0	-
	転倒	195	3.1	27.7	-	0.5	14.4	34.4	4.1	12.3	2.1	1.5
	転落	23	-	34.8	-	-	8.7	39.1	4.3	4.3	4.3	4.3
	接触・衝突	33	3.0	9.1	3.0	-	12.1	39.4	15.2	9.1	9.1	-
	はさまれた	15	-	26.7	-	-	-	33.3	6.7	6.7	20.0	6.7
	モノの落下	14	-	35.7	-	-	-	28.6	28.6	-	7.1	-
	虫等にさされた	8	-	-	-	-	-	12.5	25.0	-	50.0	12.5
	暴行	2	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	82	1.2	19.5	11.0	-	13.4	8.5	23.2	1.2	17.1	4.9
	無回答	23	-	8.7	13.0	-	8.7	13.0	4.3	8.7	4.3	39.1

【「ケガの内容」と「問8.ケガをした部位」との関係】

ケガの内容をケガの部位別にみると、腰のケガは、「打撲」(43.8%)、「骨折」(37.5%)の割合が他より高い。70歳代以上の高齢者でのケガの内容のうち、割合が高かった「骨折」では、腰、背中、腹といった体の中心に近い部分のケガが多い。また、首、あしのケガは、「捻挫」(首:46.2%、あし:21.9%)の割合が他より高い。

◆表 ケガをした部位別◆

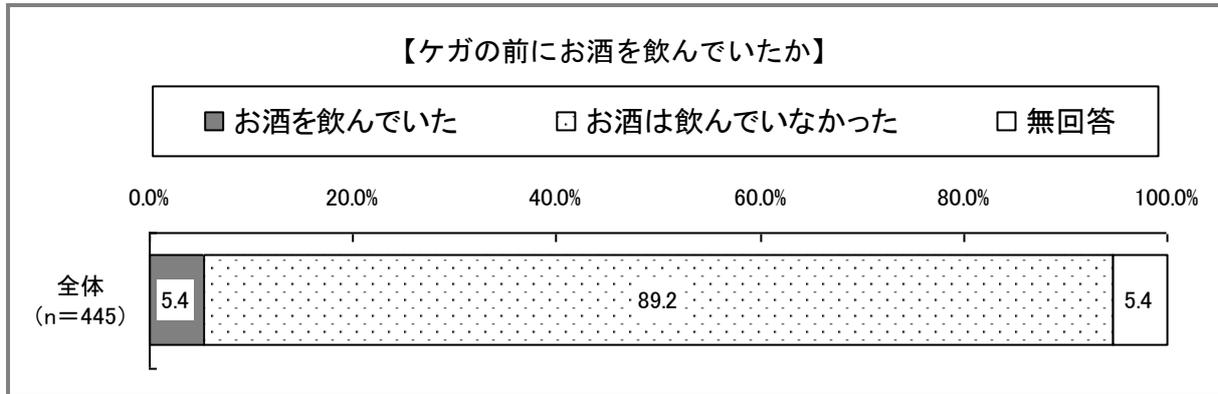
(%)

	合計 (件)	問9. ケガの内容										
		脳挫傷・ 脳しんとう	骨折	ヤケド	脱臼	捻挫	打撲	刺し傷・ 切り傷	すり傷・ ひっかき傷	その他	無回答	
全体 (件)	445 100.0	8 1.8	98 22.0	13 2.9	1 0.2	56 12.6	136 30.6	42 9.4	34 7.6	38 8.5	19 4.3	
問8 ケガをした部位	あたま	52	11.5	9.6	3.8	-	-	38.5	17.3	11.5	5.8	1.9
	首	26	3.8	-	-	-	46.2	23.1	-	-	26.9	-
	うで	89	-	20.2	7.9	-	9.0	24.7	21.3	7.9	9.0	-
	肩	20	-	35.0	-	5.0	5.0	45.0	-	-	5.0	5.0
	胸部	13	-	30.8	-	-	7.7	46.2	7.7	7.7	-	-
	背中	6	-	50.0	-	-	-	33.3	-	-	16.7	-
	腹	3	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	腰	48	-	37.5	-	-	6.3	43.8	-	2.1	8.3	2.1
	あし	137	-	22.6	0.7	-	21.9	32.1	5.1	12.4	4.4	0.7
	その他	32	3.1	28.1	6.3	-	-	15.6	18.8	3.1	21.9	3.1
無回答	19	-	-	5.3	-	5.3	5.3	-	5.3	5.3	73.7	

IV. 調査結果の詳細

(10) ケガをする前にお酒を飲んでいたら

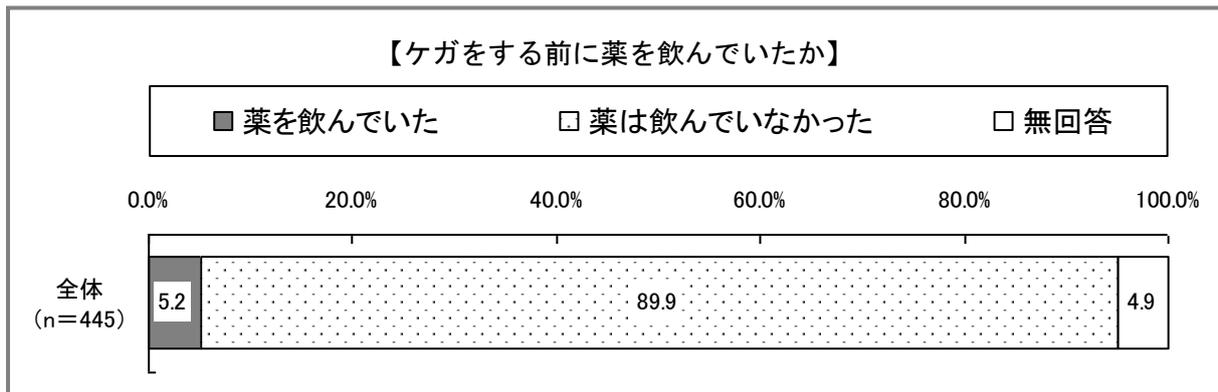
問 10. ケガの前に、お酒を飲んでいましたか。(○はひとつ)



ケガの前にお酒を飲んでいたらについては、「お酒は飲んでいなかった」(89.2%)が約9割を占めており、「お酒を飲んでいたら」(5.4%)を大きく上回っている。

(11) ケガをする前に薬を飲んでいたら

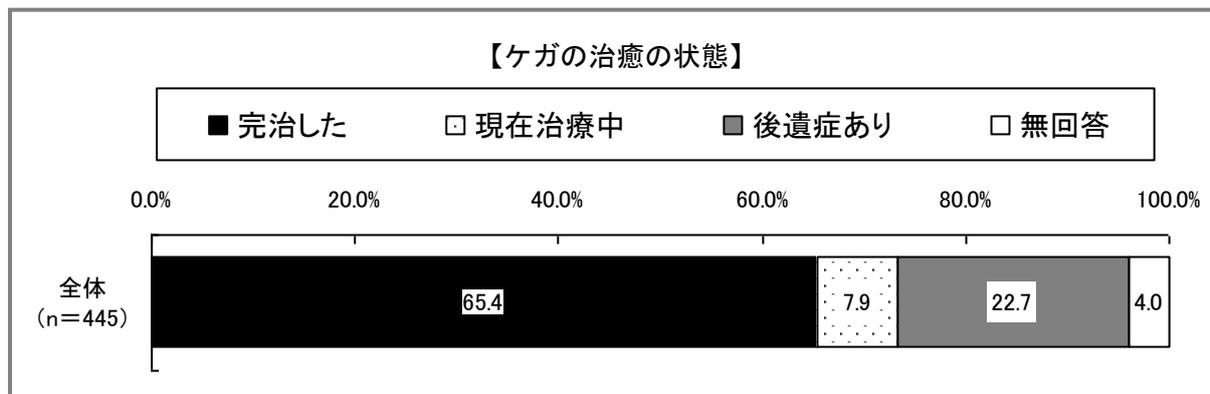
問 11. ケガの前に、薬(例:風邪薬、鎮痛剤など)を飲んでいましたか。(○はひとつ)



ケガの前に薬を飲んでいたらについては、「薬は飲んでいなかった」(89.9%)が約9割を占めており、「薬を飲んでいたら」(5.2%)を大きく上回っている。

(12) 現在のケガの治癒の状態

問 12. 現在どんな状態ですか。(〇はひとつ)



ケガの治癒の状態については、「完治した」(65.4%)が6割台半ばを占めて最も多く、次いで「後遺症あり」(22.7%)、「現在治療中」(7.9%)となっている。

【属性別特徴】

年代別にみると、70歳代以上において「現在治療中」(14.1%)の割合が1割台半ばを占めており、他に比べて高い。また、「後遺症あり」の割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向にある。

◆表 年代別◆

(%)

		合計 (件)	完治した	現在治療中	後遺症あり	無回答
全体 (件)		445 100.0	291 65.4	35 7.9	101 22.7	18 4.0
年代別	20歳代	34	79.4	8.8	11.8	-
	30歳代	56	78.6	5.4	14.3	1.8
	40歳代	54	74.1	9.3	16.7	-
	50歳代	68	70.6	4.4	16.2	8.8
	60歳代	84	67.9	2.4	(↑) 27.4	2.4
	70歳代以上	135	51.1	14.1	28.9	5.9
	無回答	14	42.9	-	50.0	7.1

IV. 調査結果の詳細

【「ケガの治癒の状態」と「問8.ケガをした部位」との関係】

ケガの治癒の状態をケガの部位別にみると、首、肩、腰のケガは、「後遺症あり」（首：30.8%、肩：35.0%、腰：35.4%）の割合が3割を超えて高く、完治率が低いことが分かる。また、背中
のケガも「後遺症あり」（50.0%）が5割を占めている。

◆表 ケガをした部位別◆

(%)

		合計（件）	問12. ケガの治癒の状態			
			完治した	現在治療中	後遺症あり	無回答
全体（件）		445 100.0	291 65.4	35 7.9	101 22.7	18 4.0
問8 ケガをした部位	あたま	52	71.2	3.8	21.2	3.8
	首	26	69.2	-	30.8	-
	うで	89	80.9	5.6	13.5	-
	肩	20	55.0	10.0	35.0	-
	胸部	13	53.8	15.4	30.8	-
	背中	6	16.7	16.7	50.0	16.7
	腹	3	100.0	-	-	-
	腰	48	39.6	22.9	35.4	2.1
	あし	137	70.1	7.3	21.2	1.5
	その他	32	71.9	3.1	25.0	-
	無回答	19	21.1	5.3	10.5	63.2

【「ケガの治癒の状態」と「問9.ケガの内容」との関係】

ケガの治癒の状態をケガの内容別にみると、脳挫傷・脳しんとう、骨折は、「後遺症あり」（脳挫傷・脳しんとう：37.5%、骨折：39.8%）の割合が3割台後半を占めて高い。

◆表 ケガをした内容別◆

(%)

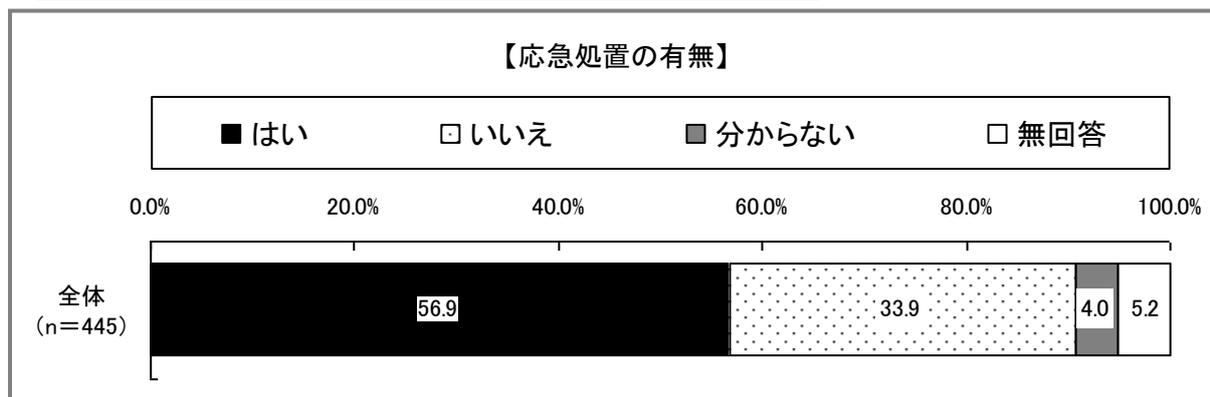
		合計（件）	問12. ケガの治癒の状態			
			完治した	現在治療中	後遺症あり	無回答
全体（件）		445 100.0	291 65.4	35 7.9	101 22.7	18 4.0
問9 ケガの内容	脳挫傷・脳しんとう	8	62.5	-	37.5	-
	骨折	98	48.0	11.2	39.8	1.0
	ヤケド	13	100.0	-	-	-
	脱臼	1	-	-	100.0	-
	捻挫	56	73.2	7.1	19.6	-
	打撲	136	71.3	7.4	21.3	-
	刺し傷・切り傷	42	85.7	4.8	9.5	-
	すり傷・ひっかき傷	34	76.5	11.8	2.9	8.8
	その他	38	60.5	10.5	26.3	2.6
	無回答	19	15.8	-	15.8	68.4

※高齢者では、腰や背中などの体の中心に近い部分を骨折する機会が多いことが44・45頁で明らかになったが、腰や背中などのケガは「後遺症あり」の割合が高いことが上記から分かる。また、高齢者では骨折自体が他の年代に比べて多く、骨折の「後遺症あり」の割合は高い。

高齢者のケガの完治率の低さは、体の中心に近い部分を骨折してしまう人が多いことが一因である可能性がある。

(13) 応急処置の有無

問 13. ケガの時、応急処置はなされましたか。(○はひとつ)



ケガの時、応急処置をしたかについては、「はい」(56.9%)が5割台半ばを占めており、「いいえ」(33.9%)を上回っている。

【属性別特徴】

性別にみると、男性において「いいえ」(43.9%)、女性において「はい」(62.4%)の割合が高く、男性よりも女性の方が、ケガをした時に応急処置をしていることが分かる。

◆表 性別◆

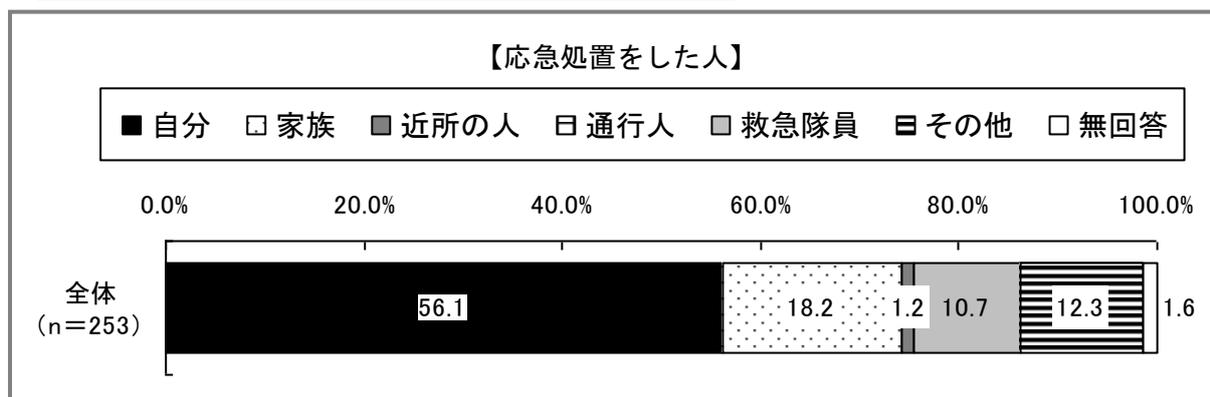
(%)

		合計 (件)	はい	いいえ	分からない	無回答
全体 (件)		445 100.0	253 56.9	151 33.9	18 4.0	23 5.2
性別	男性	164	47.0	43.9	4.9	4.3
	女性	274	62.4	28.5	3.6	5.5
	無回答	7	71.4	14.3	-	14.3

IV. 調査結果の詳細

(14) 応急処置をした人

問 13-1. 応急処置は誰が行いましたか。(○はひとつ)



ケガの時、応急処置をしたと回答した人に、応急処置は誰が行ったかを尋ねたところ、「自分」(56.1%)が5割台半ばを占めて最も多く、次いで「家族」(18.2%)、「救急隊員」(10.7%)となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「病院の関係者」、「知人」などが挙げられた。

【属性別特徴】

性別にみると、女性において「自分」(63.7%)の割合が男性に比べて高い。

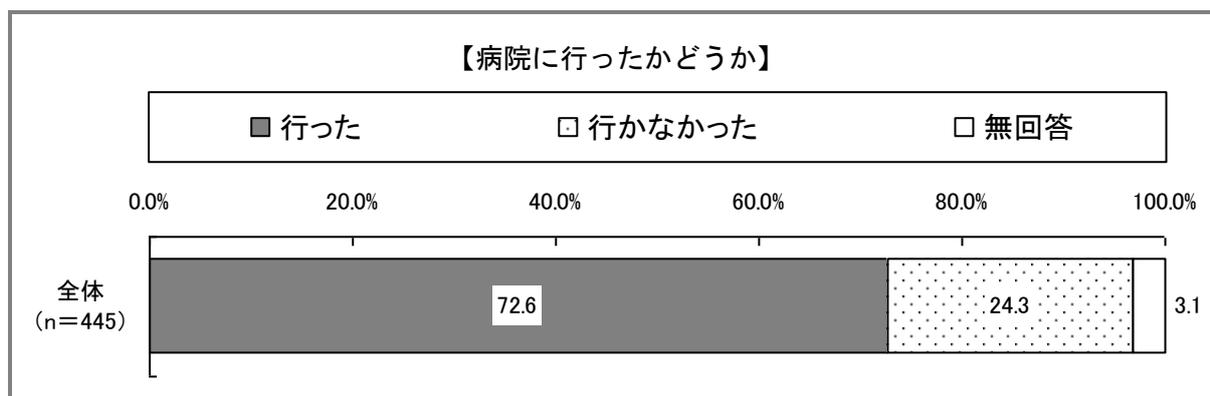
また、年代別にみると、70歳代以上において「家族」(35.4%)の割合が3割台半ばを占めており、他に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

		(%)							
		合計 (件)	自分	家族	近所 の人	通 行人	救 急 隊 員	そ の 他	無 回 答
全体 (件)		253 100.0	142 56.1	46 18.2	3 1.2	- -	27 10.7	31 12.3	4 1.6
性別	男性	77	39.0	27.3	1.3	-	18.2	11.7	2.6
	女性	171	63.7	14.0	1.2	-	7.0	12.9	1.2
	無回答	5	60.0	20.0	-	-	20.0	-	-
年代別	20歳代	17	76.5	-	-	-	5.9	17.6	-
	30歳代	30	70.0	10.0	-	-	10.0	10.0	-
	40歳代	27	77.8	3.7	7.4	-	7.4	3.7	-
	50歳代	38	76.3	13.2	-	-	5.3	5.3	-
	60歳代	51	56.9	13.7	2.0	-	17.6	9.8	-
	70歳代以上	79	31.6	35.4	-	-	7.6	20.3	5.1
	無回答	11	36.4	18.2	-	-	36.4	9.1	-

(15) 病院へ行ったかどうか

問 14. ケガが原因で、病院には行きましたか。(〇はひとつ)



ケガが原因で病院に行ったかについては、「行った」(72.6%)が7割を超えており、「行かなかった」(24.3%)を上回っている。

【属性別特徴】

年代別にみると、70歳代以上において「行った」(81.5%)の割合が8割を超えており、他に比べて高い。

また、30歳代から50歳代で「行かなかった」の割合が3割を超えており、他に比べて高い。

◆表 年代別◆

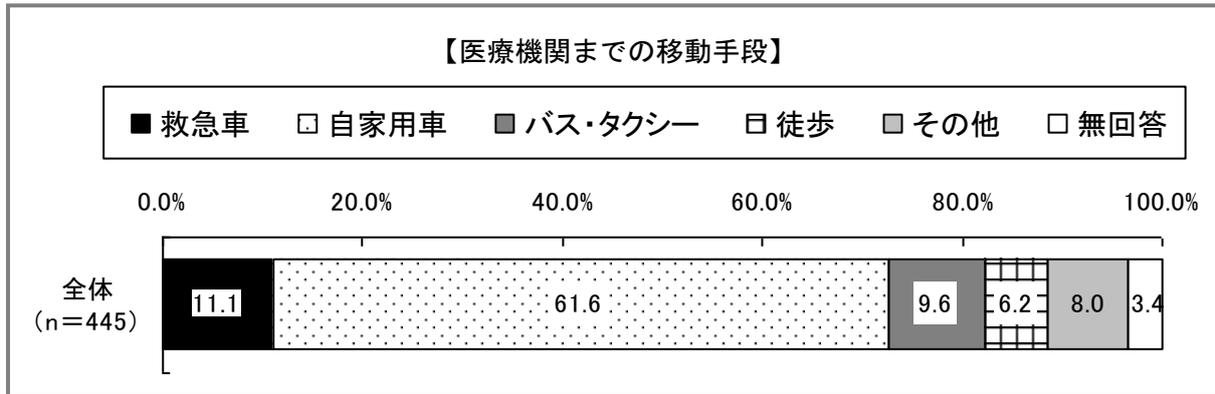
(%)

		合計 (件)	行 っ た	行 か な か っ た	無 回 答
全体 (件)		445 100.0	323 72.6	108 24.3	14 3.1
年 代 別	20歳代	34	82.4	17.6	-
	30歳代	56	66.1	33.9	-
	40歳代	54	68.5	31.5	-
	50歳代	68	58.8	32.4	8.8
	60歳代	84	70.2	26.2	3.6
	70歳代以上	135	81.5	15.6	3.0
	無回答	14	85.7	7.1	7.1

IV. 調査結果の詳細

(16) 医療機関までの移動手段

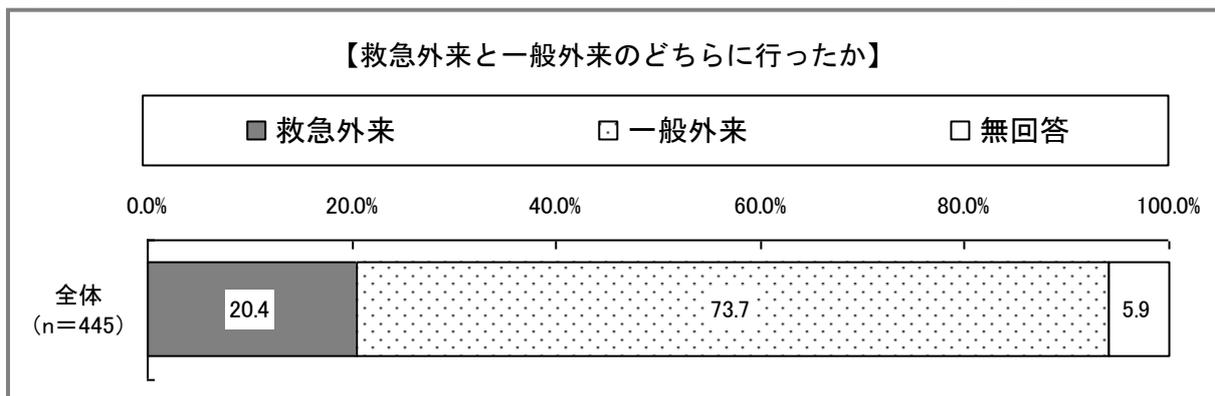
問 14-1. 医療機関までどのような手段で行きましたか。(〇はひとつ)



ケガが原因で病院に行くと回答した人に、医療機関までの移動手段について尋ねたところ、「自家用車」(61.6%)が6割を超えて最も多く、次いで「救急車」(11.1%)、「バス・タクシー」(9.6%)となっている。

(17) 救急外来と一般外来のどちらに行ったか

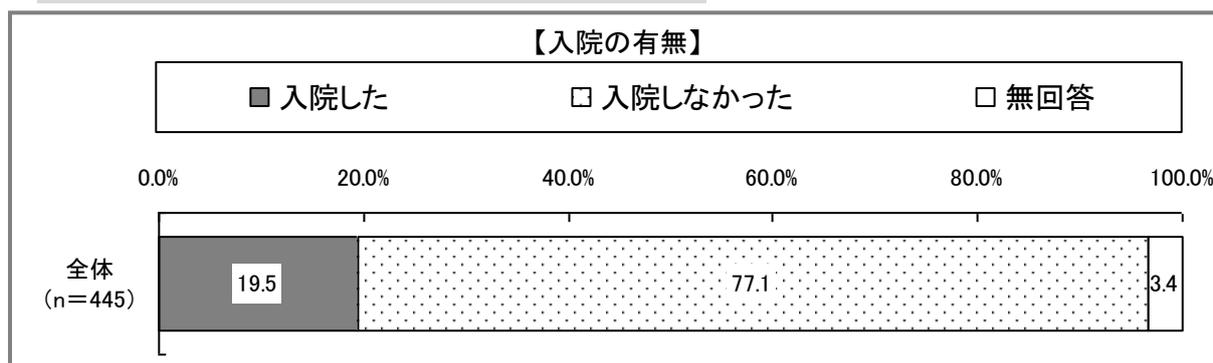
問 14-2. 救急外来に行きましたか、一般外来に行きましたか。(〇はひとつ)



ケガが原因で病院に行くと回答した人に、救急外来と一般外来のどちらに行ったか尋ねたところ、「一般外来」(73.7%)が7割台半ばを占めており、「救急外来」(20.4%)は約2割となっている。

(18) 入院の有無

問 14-3. その時、入院されましたか。(○はひとつ)



ケガが原因で病院に行くと回答した人に、入院したか尋ねたところ、「入院しなかった」(77.1%) が約8割を占めており、「入院した」(19.5%) を上回っている。

【属性別特徴】

年代別にみると、70歳代以上において「入院した」(32.7%) の割合が他に比べて高い。

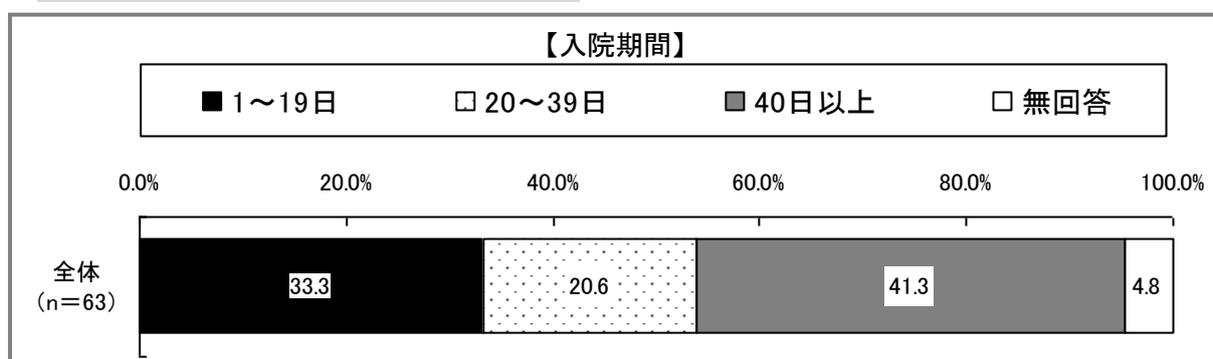
◆表 年代別◆

(%)

		合計 (件)	入院した	入院しなかった	無回答
全体 (件)		445 100.0	63 19.5	249 77.1	11 3.4
年代別	20歳代	28	7.1	92.9	-
	30歳代	37	5.4	91.9	2.7
	40歳代	37	13.5	86.5	-
	50歳代	40	7.5	92.5	-
	60歳代	59	18.6	81.4	-
	70歳代以上	110	32.7	59.1	8.2
	無回答	12	33.3	58.3	8.3

(19) 入院期間

問 14-4. 入院期間はどのくらいでしたか。



入院したと回答した人に、入院期間を尋ねたところ、「40日以上」(41.3%) が4割を超えて最も多く、次いで「1～19日」(33.3%)、「20～39日」(20.6%) となっている。

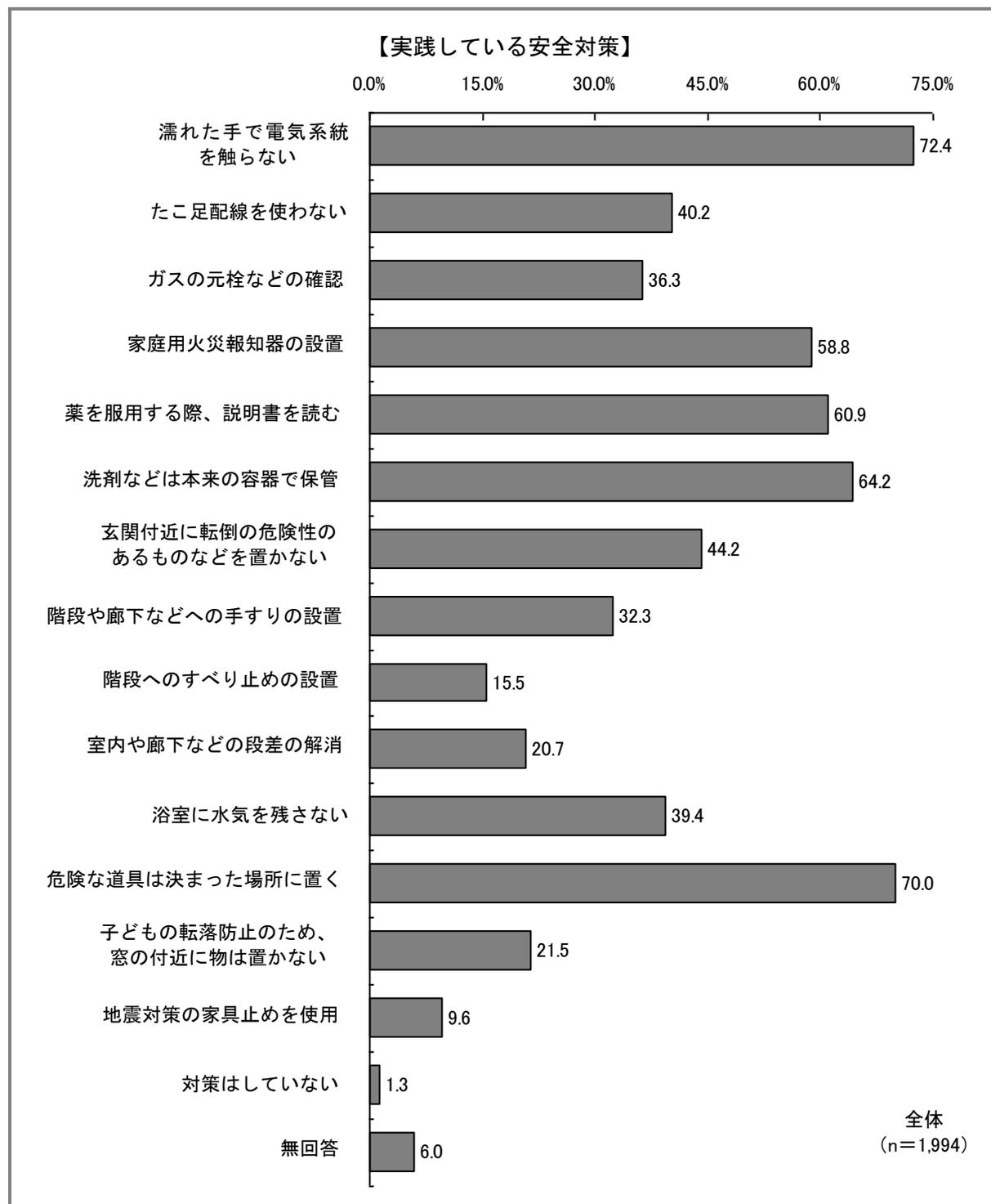
入院期間の平均は、58.2日であった。

2. 「家庭内の安全対策」に関する考え方について

(1) 家庭内で実践している安全対策

問 15. あなたの普段の家庭内の安全対策に関する質問です。

以下の選択肢の中で、実践している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



家庭内で実践している安全対策については、「濡れた手で電気システムを触らない」(72.4%)が7割を超えて最も多く、次いで「危険な道具は決まった場所に置く」(70.0%)、「洗剤などは本来の容器で保管」(64.2%)となっている。

【属性別特徴】

性別にみると、多くの項目で、男性よりも女性の方が実践度が高い。

年代別にみると、各項目とも、年代が上がるにつれて実践度が高くなる傾向がある。

◆表 性別・年代別◆

(%)

	合計 (件)	濡れた手で 電気系統を 触らない	たこ足配線 を使わない	ガスの元栓 などの確認	家庭用火災 報知器の設 置	薬を服用す る際、説明書 を読む	洗剤などは 本来の容器で 保管	玄関付近に 転倒の危険性 のあるものを 置かない	階段や廊下 などへの手す りの設置
全体 (件)	1994 100.0	1444 72.4	802 40.2	724 36.3	1173 58.8	1214 60.9	1281 64.2	881 44.2	644 32.3
性別	男性	821 74.3	40.9 40.9	36.2 36.2	62.5 62.5	58.8 58.8	61.3 61.3	42.6 42.6	32.4 32.4
	女性	1077 75.5	42.3 42.3	38.2 38.2	59.4 59.4	66.0 66.0	70.7 70.7	47.7 47.7	34.1 34.1
	無回答	96 21.9	10.4 10.4	16.7 16.7	20.8 20.8	20.8 20.8	17.7 17.7	17.7 17.7	11.5 11.5
年代別	20歳代	175 68.6	29.1 29.1	26.9 26.9	54.3 54.3	49.1 49.1	58.9 58.9	30.9 30.9	22.3 22.3
	30歳代	281 75.8	29.2 29.2	27.8 27.8	63.3 63.3	56.2 56.2	68.0 68.0	36.7 36.7	21.0 21.0
	40歳代	270 73.0	36.3 36.3	32.2 32.2	64.1 64.1	60.7 60.7	66.7 66.7	35.9 35.9	28.9 28.9
	50歳代	347 78.1	42.4 42.4	38.0 38.0	59.4 59.4	64.3 64.3	69.5 69.5	41.2 41.2	31.4 31.4
	60歳代	371 80.6	51.2 51.2	42.0 42.0	62.5 62.5	69.3 69.3	71.4 71.4	56.3 56.3	36.4 36.4
	70歳代以上	440 71.4	49.3 49.3	46.1 46.1	60.0 60.0	68.2 68.2	62.0 62.0	57.3 57.3	47.0 47.0
	無回答	110 27.3	15.5 15.5	19.1 19.1	22.7 22.7	23.6 23.6	25.5 25.5	20.9 20.9	15.5 15.5

	階段へのす べり止めの設 置	室内や廊下 などの段差の 解消	浴室に水気 を残さない	危険な道具 は決まった場 所に置く	子どもの近 くに転落防止 のため、窓の 付近に物は置 かない	地震対策の 家具止めを使 用	対策はして いない	無 回 答
全体 (件)	310 15.5	412 20.7	785 39.4	1396 70.0	428 21.5	192 9.6	26 1.3	120 6.0
性別	男性	15.8 15.8	21.6 21.6	42.0 42.0	67.8 67.8	19.6 19.6	1.7 1.7	2.6 2.6
	女性	15.7 15.7	21.3 21.3	40.0 40.0	76.0 76.0	24.1 24.1	1.0 1.0	3.1 3.1
	無回答	11.5 11.5	6.3 6.3	9.4 9.4	21.9 21.9	7.3 7.3	1.0 1.0	68.8 68.8
年代別	20歳代	7.4 7.4	10.9 10.9	38.9 38.9	57.7 57.7	12.6 12.6	4.6 4.6	1.7 1.7
	30歳代	7.1 7.1	16.4 16.4	39.9 39.9	69.0 69.0	26.7 26.7	8.2 8.2	0.7 0.7
	40歳代	17.0 17.0	21.9 21.9	39.6 39.6	72.6 72.6	22.6 22.6	14.8 14.8	1.5 1.5
	50歳代	19.0 19.0	20.7 20.7	36.6 36.6	70.3 70.3	12.1 12.1	8.6 8.6	0.9 0.9
	60歳代	17.0 17.0	23.5 23.5	43.4 43.4	80.6 80.6	27.0 27.0	10.0 10.0	1.3 1.3
	70歳代以上	20.7 20.7	26.8 26.8	44.8 44.8	75.9 75.9	26.4 26.4	10.7 10.7	0.7 0.7
	無回答	10.0 10.0	10.0 10.0	11.8 11.8	25.5 25.5	10.9 10.9	2.7 2.7	- -

IV. 調査結果の詳細

・(2) 家庭内での事故やケガの防止の工夫

問 16. その他、ご家庭で事故やケガの防止のために、工夫していることがありましたら、記入してください。

事故やケガの防止の工夫を記入してもらくと、「階段や廊下には家具や物を置かない」、「つまづきそうな所に荷物を置かない」、「床に滑りやすいものを置きっぱなしにしない」などの『整理整頓』が 63 件と最も多い。次いで、「家族に注意を呼びかける」、「落ち着いて行動する」、「慌てない」などの『注意喚起』が 44 件、「危険な物は、子どもの手の届かない所にしまう」、「柵を設置する」、「風呂に水を貯め置かない」などの『子どもの事故防止のための配慮』が 32 件となっている。

以下、回答の内容を分類し、記入の多かった上位 5 項目をまとめた。

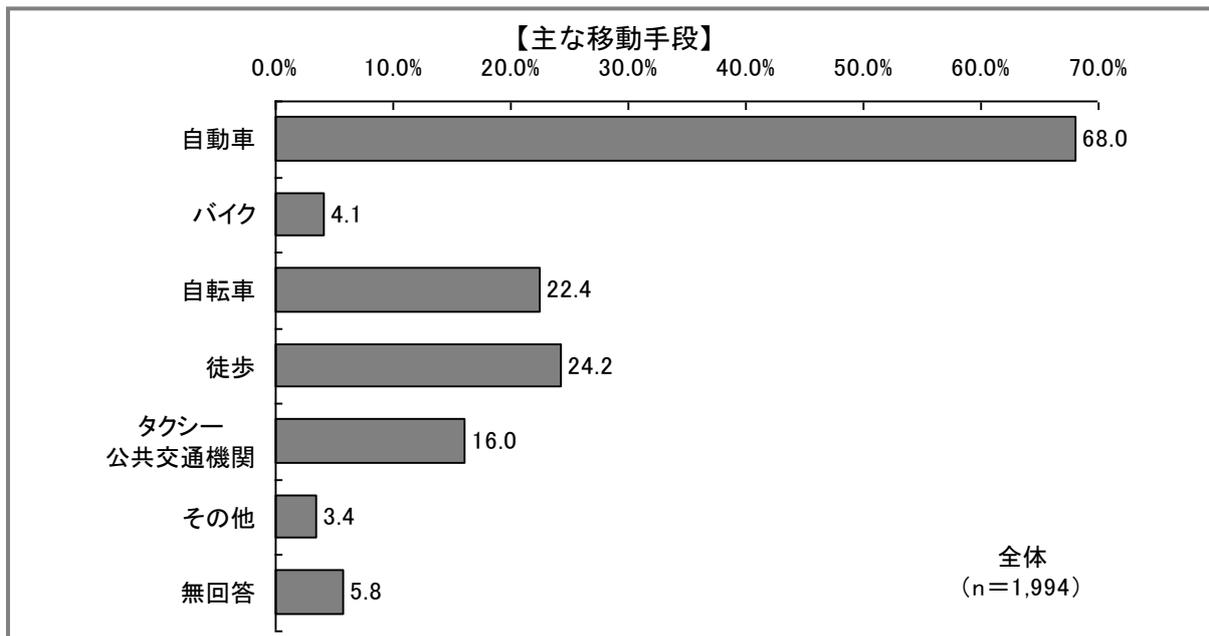
◆表 事故やケガの防止の工夫・分類◆

1	整理整頓	63	<ul style="list-style-type: none"> ・ 階段や廊下には家具や物を置かない。 ・ 家の内外で、つまづきそうな所に荷物を置かない。 ・ 床に滑りやすいものを置きっぱなしにしない。 ・ 刃物などの管理保管には、特に注意している。 ・ 足元になるべく物を置かない。
2	注意喚起	44	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族に注意を呼びかける。 ・ 日常、落ちついて行動するよう気をつける。 ・ 何事にも慌てない。 ・ 室内外で転ばないようにゆっくり歩く。
3	子どもの事故防止のための配慮	32	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険な物は、子どもの手の届かない所にしまう。 ・ 子どもが階段をのぼらないように柵をしている。 ・ お風呂の水を貯め置きしない。 ・ 子どもの手が届かない位置にカギを付ける。
4	コンセント、ガス等に対する注意	27	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンセントにホコリをつけない。 ・ 使わないコンセントは、必ず抜く。 ・ ガスの元栓は、使用後に止めたことを確認する。 ・ 家庭用消火器をキッチンに設置。
5	バリアフリーへの配慮	23	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関から、トイレ・浴室に至るまで手すりを設置。 ・ 階段や廊下、浴室などに手すりを設置している。 ・ 家をバリアフリー仕様でリフォームした。 ・ 車イス生活でも転倒しないように工夫している。

3. 「交通安全」について

(1) 主な移動手段

問 17. あなたの主な移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



【属性別特徴】

性別にみると、男性において「自動車」(81.0%)の割合が女性に比べて高い。一方、女性において「徒歩」(29.2%)、「タクシー・公共交通機関」(20.2%)の割合が男性に比べて高い。

年代別にみると、30歳代～60歳代においては「自動車」(30歳代:90.0%、40歳代:88.1%、50歳代:75.8%、60歳代:75.2%)の割合が高く、20歳代、60歳代においては「自転車」(20歳代:30.9%、60歳代:28.3%)の割合が他に比べて高い。

また、20歳代を除くと年代が上がるにつれて「徒歩」、「タクシー・公共交通機関」の割合が高くなる傾向がある。

◆表 性別・年代別◆

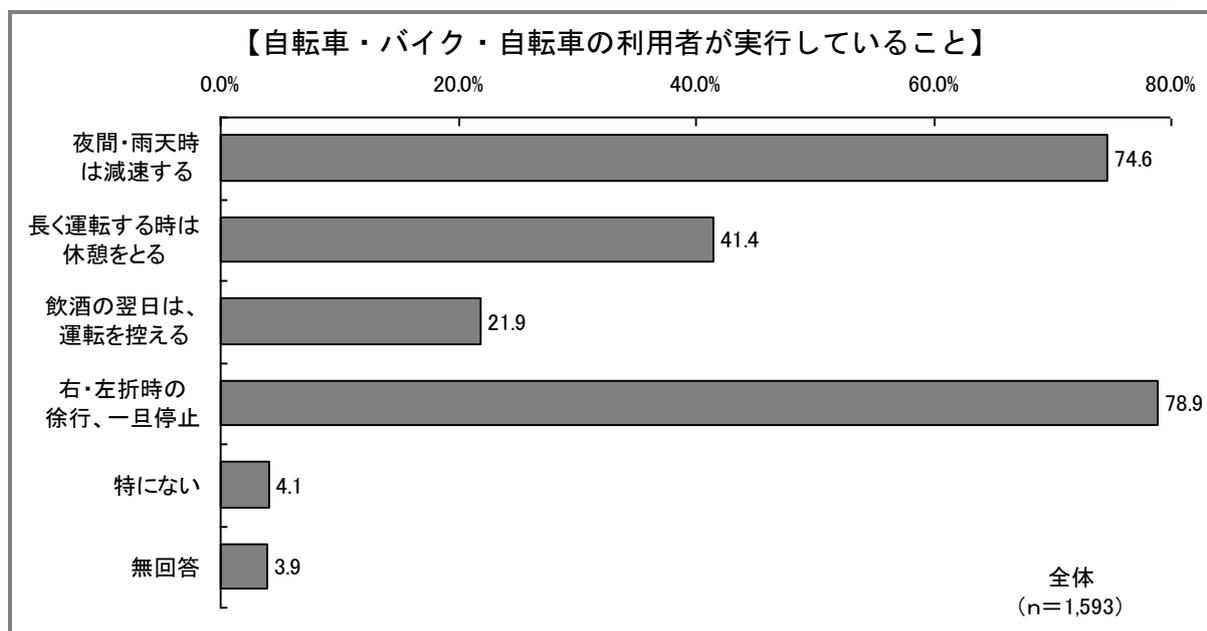
(%)

		合計 (件)	自動車	バイク	自転車	徒歩	タクシー・ 公共交通機関	その他	無回答
全体 (件)		1994	1356	82	447	483	320	67	116
		100.0	68.0	4.1	22.4	24.2	16.0	3.4	5.8
性別	男性	821	81.0	6.6	23.6	19.0	11.3	1.3	2.4
	女性	1077	62.5	2.5	23.0	29.2	20.2	5.1	3.4
	無回答	96	18.8	1.0	5.2	12.5	9.4	1.0	61.5
年代別	20歳代	175	68.6	10.9	30.9	27.4	18.9	0.6	1.1
	30歳代	281	90.0	3.6	17.8	16.0	9.3	0.4	1.1
	40歳代	270	88.1	3.0	21.5	17.8	12.6	0.7	-
	50歳代	347	75.8	2.9	21.0	19.9	15.9	1.7	1.7
	60歳代	371	75.2	5.7	28.3	(+) 27.2	(+) 11.3	2.2	2.4
	70歳代以上	440	40.5	2.7	21.8	36.1	27.0	10.5	8.4
	無回答	110	22.7	1.8	10.0	11.8	10.0	2.7	53.6

IV. 調査結果の詳細

(2) 自動車・バイク・自転車の利用者が実行していること

問17-1. 問17で「1. 自動車」～「3. 自転車」と回答された方、全員にお尋ねします。
次の項目のうち、実行している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



主な移動手段のうち、自動車・バイク・自転車と答えた人に、実行していることを尋ねたところ、「右・左折時の徐行、一旦停止」(78.9%)が約8割を占めて最も多く、次いで「夜間・雨天時は減速する」(74.6%)、「長く運転する時は休憩をとる」(41.4%)となっている。

【属性別特徴】

性別にみると、男性において「長く運転する時は休憩をとる」(48.1%)の割合が女性に比べて高い。

年代別にみると、50歳代において「夜間・雨天時は減速する」(80.3%)の割合が他に比べて高い。また、「60歳代」において「長く運転する時は休憩をとる」(49.2%)の割合が他に比べて高く、20歳代においては28.0%と3割を下回り、低い傾向にある。

さらに、年代が上がるにつれて「飲酒の翌日は、運転を控える」の割合が高くなっている。

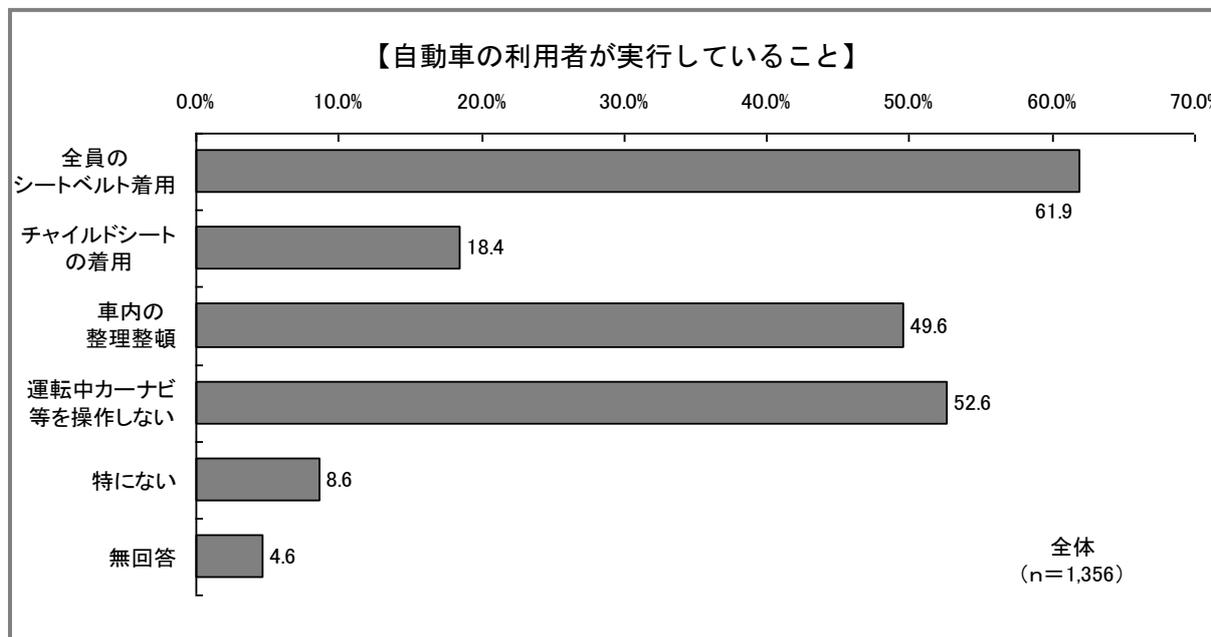
◆表 性別・年代別◆

		合計 (件)	減夜 速間 する・雨 天時は	時長 はく 運 転 を す と る	運飲 転酒 をの 控翌 え日 るは、	徐右 行・左 一折 旦時 停の 止	特 に な い	無 回 答
全体 (件)		1593	1189	659	349	1257	66	62
性別	男性	749	74.2	48.1	27.9	76.5	5.2	2.0
	女性	822	74.7	35.3	16.7	81.4	3.3	5.6
	無回答	22	86.4	40.9	13.6	68.2	-	4.5
年代別	20歳代	157	70.7	28.0	19.1	72.0	7.6	2.5
	30歳代	268	72.8	41.4	20.9	78.7	4.9	1.1
	40歳代	258	76.7	36.4	20.2	80.2	3.5	2.7
	50歳代	299	80.3	44.8	21.4	80.9	5.0	1.7
	60歳代	329	76.6	49.2	22.8	81.8	2.1	4.3
	70歳代以上	249	67.1	40.2	27.3	77.1	4.0	10.4
	無回答	33	78.8	42.4	12.1	69.7	-	9.1

(3) 自動車の利用者が実行していること

問 17-2. 問 17 で「1. 自動車」と回答された方にお尋ねします。

次の項目のうち、実行している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



主な移動手段のうち、自動車と答えた人に、実行していることを尋ねたところ、「全員のシートベルト着用」(61.9%)が6割を超えて最も多く、次いで「運転中、カーナビ等を操作しない」(52.6%)、「車内の整理整頓」(49.6%)となっている。

【属性別特徴】

年代別にみると、30歳代において「チャイルドシートの着用」(45.1%)の割合が他に比べて高い。また、概ね年代が上がるにつれて「全員のシートベルト着用」や「運転中、カーナビ等を操作しない」の割合が高くなっている。

20歳代においては「特にない」(20.8%)の割合が他に比べて高い傾向がある。

◆表 性別・年代別◆

(%)

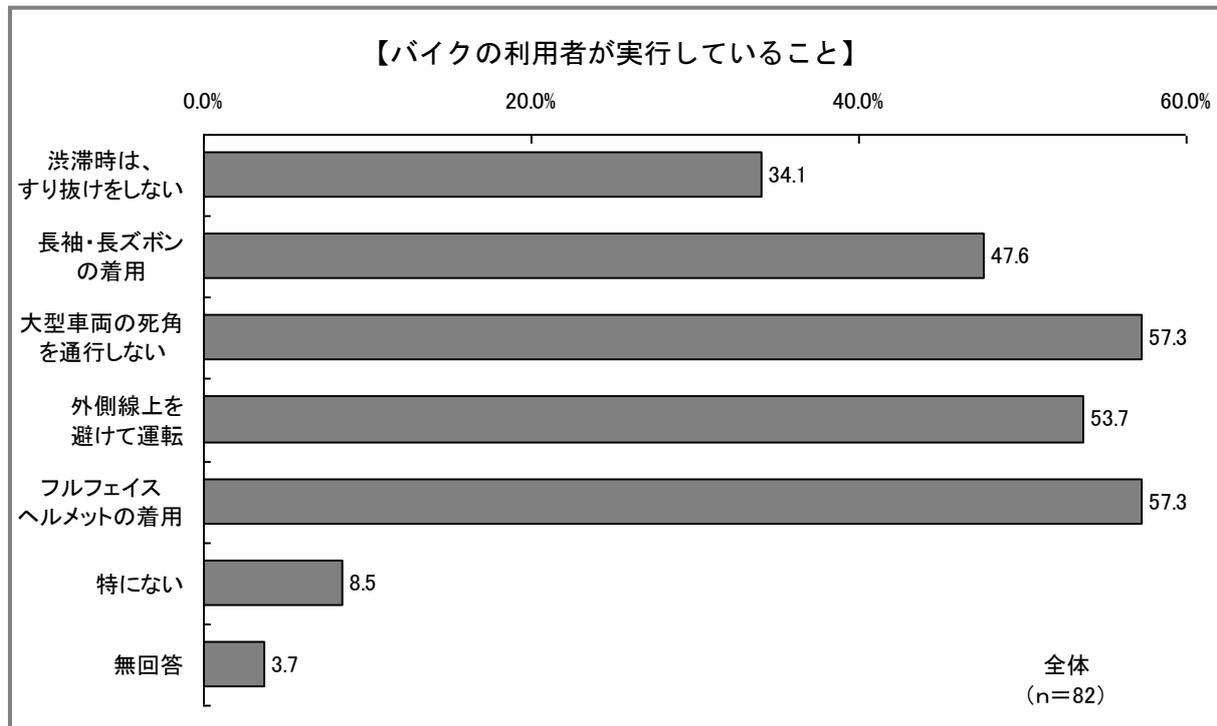
		合計 (件)	全員の シート ベルト 着用	チャ イル ド シ ー ト の 着 用	車 内 の 整 理 整 頓	運 転 中 、 カ ー ナ ビ 等 を 操 作 し な い	特 に な い	無 回 答
全体 (件)		1356 100.0	839 61.9	249 18.4	673 49.6	713 52.6	117 8.6	63 4.6
年代 別	20歳代	120	48.3	17.5	34.2	36.7	20.8	2.5
	30歳代	253	54.2	45.1	43.5	45.8	9.9	2.0
	40歳代	238	56.7	12.6	50.4	52.1	10.5	3.8
	50歳代	263	64.3	7.6	50.2	51.3	6.8	6.1
	60歳代	279	(+) 69.2	12.9	57.0	(+) 60.9	4.7	3.9
	70歳代以上	178	71.3	13.5	54.5	62.9	5.6	9.6
	無回答	25	80.0	16.0	56.0	48.0	4.0	8.0

IV. 調査結果の詳細

(4) バイクの利用者が実行していること

問 17-3. 問 17 で「2. バイク」と回答された方にお尋ねします。

次の項目のうち、実行している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

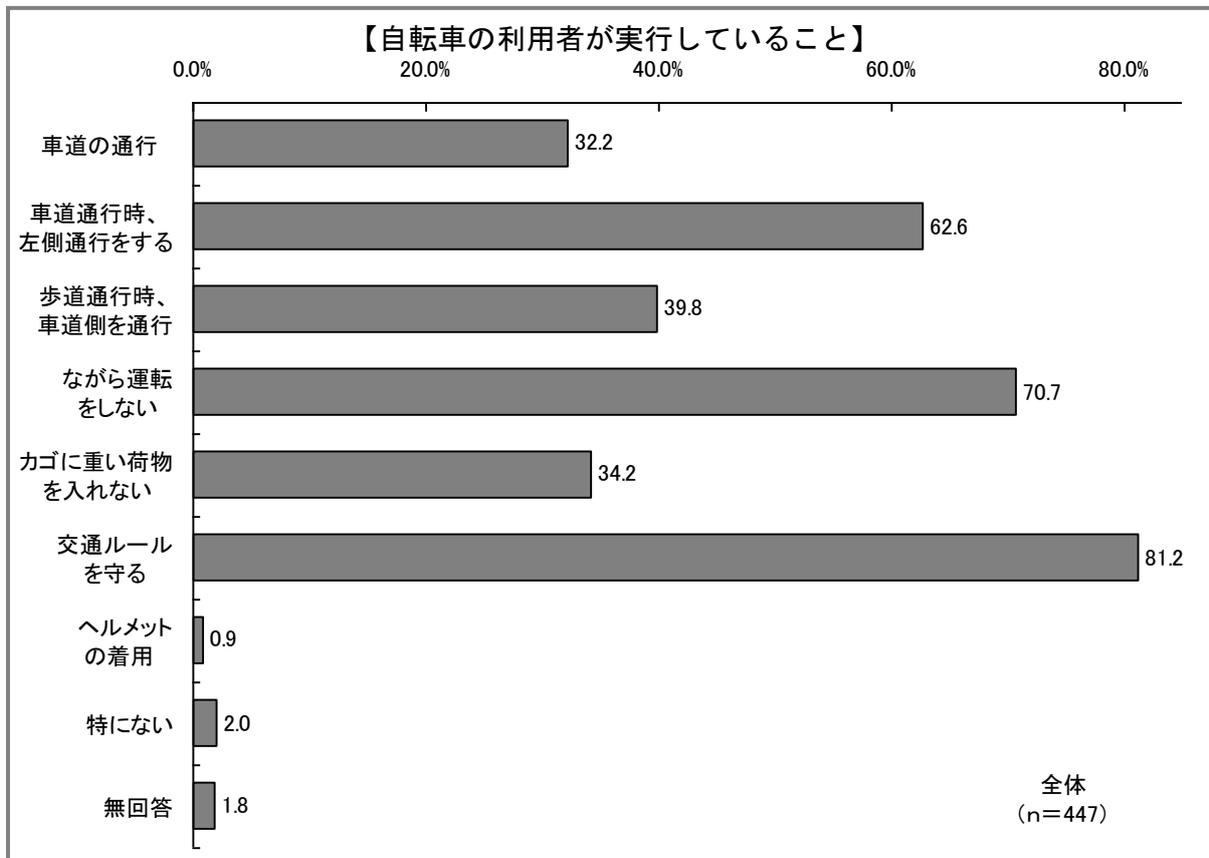


主な移動手段のうち、バイクと答えた人に、実行していることを尋ねたところ、「大型車両の死角を通行しない」「フルフェイスヘルメットの着用」(いずれも 57.3%) が共に約 6 割を占めて最も多く、次いで「外側線上を避けて運転」(53.7%) となっている。

(5) 自転車の利用者が実行していること

問 17-4. 問 17 で「3. 自転車」と回答された方にお尋ねします。

次の項目のうち、実行している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



主な移動手段のうち、自転車と答えた人に、実行していることを尋ねたところ、「交通ルールを守る」(81.2%)が8割を超えて最も多く、次いで「ながら運転をしない」(70.7%)、「車道通行時、左側通行をする」(62.6%)となっている。

【属性別特徴】

年代別にみると、ほとんどの項目で60歳代が実行している割合が最も高い。

◆表 年代別◆

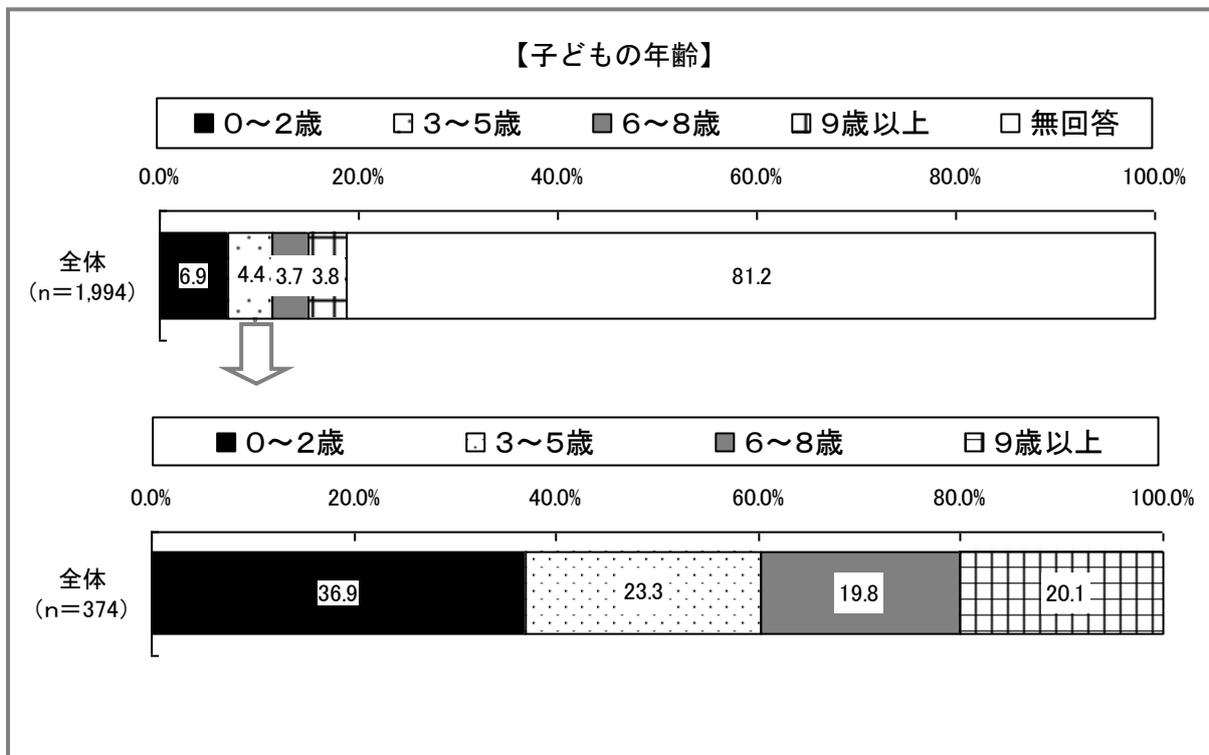
(%)

	合計 (件)	車道の通行	左側通行時、車道側を通行	歩道通行時、車道側を通行	ながら運転をしない	カゴに重い荷物を入れない	交通ルールを守る	ヘルメットの着用	特にない	無回答	
全体 (件)	447	144	280	178	316	153	363	4	9	8	
	100.0	32.2	62.6	39.8	70.7	34.2	81.2	0.9	2.0	1.8	
年代別	20歳代	54	37.0	57.4	31.5	53.7	22.2	72.2	1.9	3.7	-
	30歳代	50	20.0	42.0	36.0	72.0	24.0	66.0	4.0	8.0	-
	40歳代	58	34.5	67.2	43.1	77.6	22.4	77.6	1.7	1.7	1.7
	50歳代	73	34.2	65.8	35.6	75.3	28.8	80.8	-	1.4	1.4
	60歳代	105	37.1	69.5	49.5	80.0	45.7	91.4	-	-	1.0
	70歳代以上	96	29.2	65.6	37.5	64.6	44.8	87.5	-	1.0	3.1
	無回答	11	18.2	45.5	36.4	45.5	36.4	63.6	-	-	18.2

4. 「幼児・児童と保護者の状況」について

(1) 子どもの年齢

問 18. お子さんの年齢（平成 23 年 9 月 1 日時点）をご記入下さい。

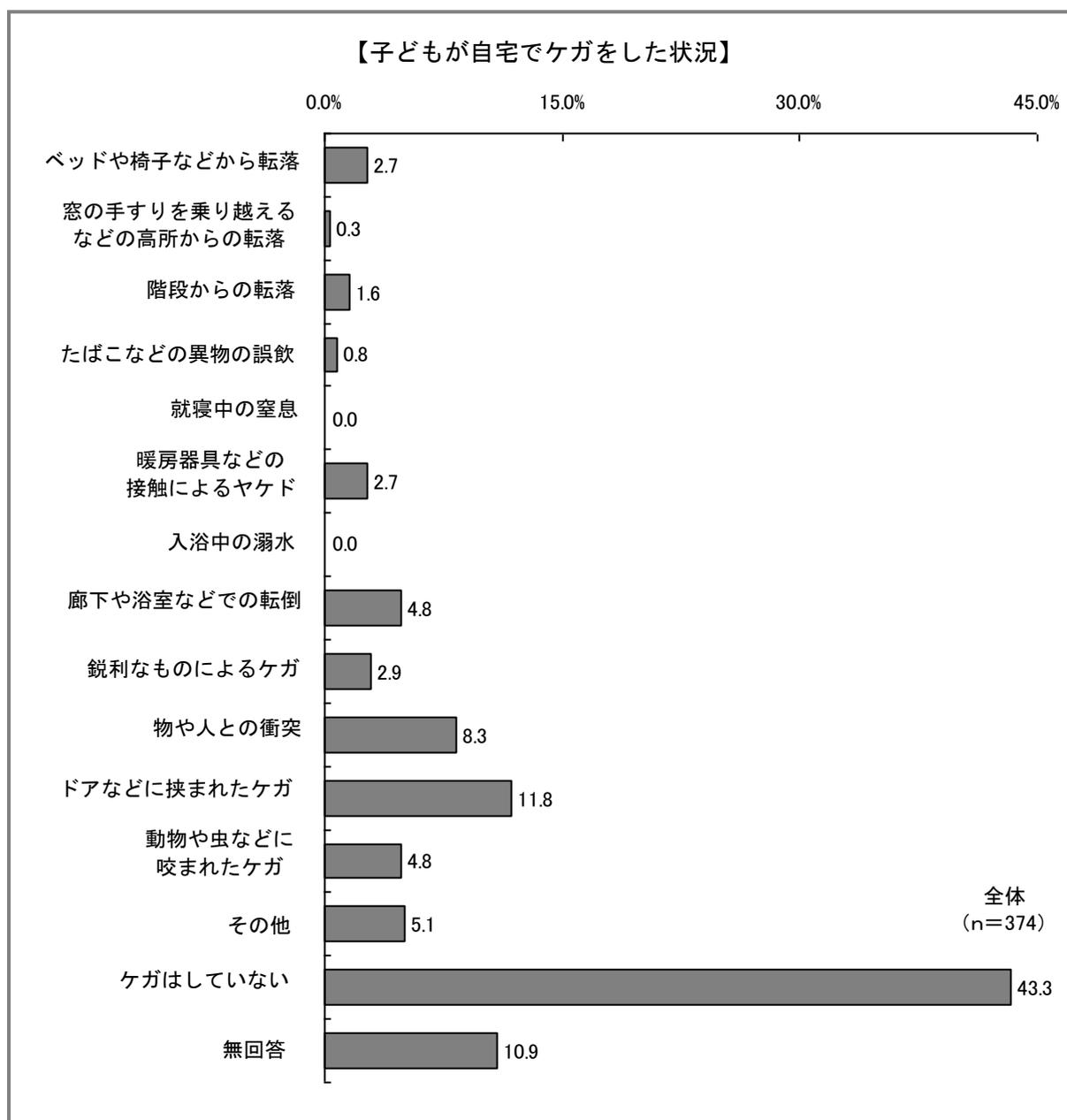


家族の中で0～11歳までの子どもがいる場合に、子どもの年齢を答えてもらうと、全体の18.8%の人から回答があった。

回答のあった中で、「0～2歳」(36.9%)が3割台半ばを占めて最も多く、次いで「3～5歳」(23.3%)、「9歳以上」(20.1%)、「6～8歳」(19.8%)となっている。

(2) 子どもが自宅でケガをした状況（過去3年間）

問 19. 過去3年間に、お子さんが自宅で、ケガをした状況についてお答え下さい。
その際、周りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。（あてはまるものすべてに○）
○子どもがケガをした状況



子どもの自宅でのケガの状況については、「ケガはしていない」(43.3%)が4割台半ばを占めて最も多く、次いで「ドアなどに挟まれたケガ」(11.8%)、「物や人との衝突」(8.3%)となっている。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

子どもの年齢区別にみると、概ね年齢が上がるにつれて、自宅で「ケガはしていない」の割合が高くなる傾向にある。

また、子どもの年齢が幼いほど、「ドアなどに挟まれたケガ」の割合が高くなっている。

◆表 子どもの年齢区分別◆

(%)

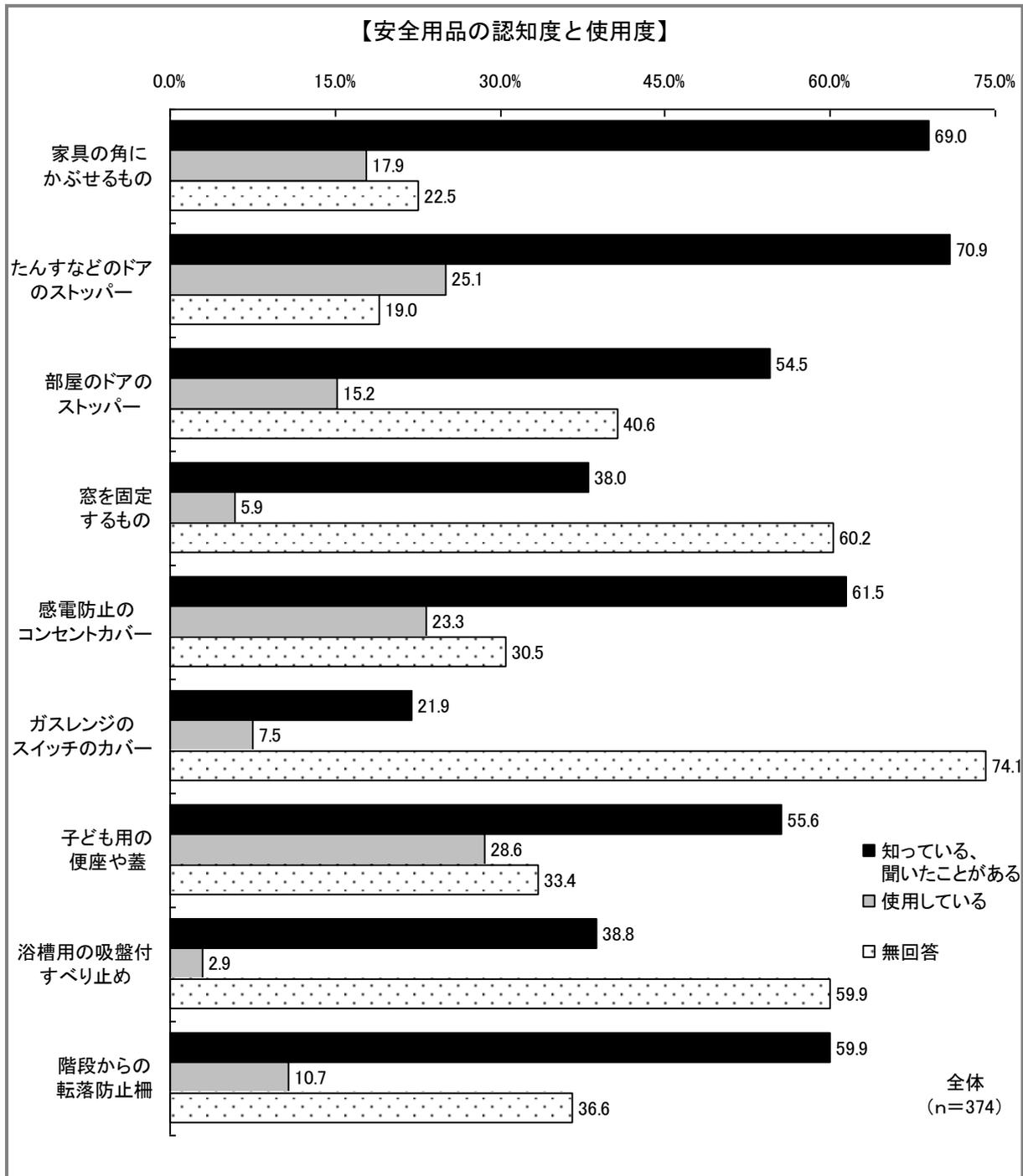
		合計（件）	ペットや椅子などから転落	窓の手すりを乗り越えるなどの高所からの転落	階段からの転落	タバコなどの異物の誤飲	就寝中の窒息	暖房器具などの接触によるヤケド	入浴中の溺水	廊下や浴室などでの転倒	鋭利なものによるケガ	物や人との衝突	ドアなどに挟まれたケガ	動物や虫などに咬まれたケガ	その他	ケガはしていない	無回答	
全体（件）		374	10	1	6	3	-	10	-	18	11	31	(+)	44	18	19	162	41
		100.0	2.7	0.3	1.6	0.8	-	2.7	-	4.8	2.9	8.3	↑	11.8	4.8	5.1	43.3	10.9
子どもの年齢区分	0~2歳	138	2.2	-	3.6	1.4	-	0.7	-	6.5	2.2	8.7	↑	18.1	5.8	2.2	(+) 35.5	13.0
	3~5歳	87	4.6	-	1.1	1.1	-	5.7	-	8.0	3.4	11.5	↑	14.9	4.6	9.2	26.4	9.2
	6~8歳	74	1.4	1.4	-	-	-	2.7	-	1.4	2.7	9.5	↑	5.4	4.1	2.7	59.5	10.8
	9歳以上	75	2.7	-	-	-	-	2.7	-	1.3	4.0	2.7	↑	2.7	4.0	8.0	61.3	10.7
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

○子どもが自宅でケガをした状況のうち、周りに大人がいた場合・医療機関に行った場合

【周りに大人がいた場合・医療機関に行った場合】 (%)					
	全体 (件)	ケガをした 状況 (件)	大人が いた	医療 機関に 行った	無 回答
ベットや椅子などから転落	374 100.0	10 2.7	90.0	80.0	-
手すりを乗り越えるなどの高所からの転落	374 100.0	1 0.3	100.0	100.0	-
階段からの転落	374 100.0	6 1.6	83.3	50.0	-
タバコなどの異物の誤飲	374 100.0	3 0.8	100.0	33.3	-
就寝中の窒息	374 100.0	- -	-	-	-
暖房器具などの接触によるヤケド	374 100.0	10 2.7	90.0	50.0	10.0
入浴中の溺水	374 100.0	- -	-	-	-
廊下や浴室などでの転倒	374 100.0	18 4.8	88.9	27.8	11.1
鋭利なものによるケガ	374 100.0	11 2.9	90.9	27.3	-
物や人との衝突	374 100.0	31 8.3	93.5	19.4	6.5
ドアなどに挟まれたケガ	374 100.0	44 11.8	97.7	22.7	-
動物や虫などに咬まれたケガ	374 100.0	18 4.8	88.9	44.4	-
その他	374 100.0	19 5.1	84.2	63.2	-
ケガはしていない	374 100.0	162 43.3	-	-	-

(3) 安全用品の認知度と使用度

問 20. 各種安全用品に関する説明です。
 知っていたり、聞いたことがある安全用品の欄に○をつけてください。
 また、そのうち使用しているものに○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



安全用品について、「知っている、聞いたことがある」かどうか（認知度）と、「使用している」かどうか（使用度）を尋ねた。

各種安全用品の認知度は、「たんすなどのストッパー」（70.9%）が約7割と最も高く、次いで「家具の角にかぶせるもの」（69.0%）、「感電防止のコンセントカバー」（61.5%）となっている。
 また、使用度は、「子ども用の便座や蓋」（28.6%）が約3割と最も高く、次いで「たんすなどのドアのストッパー」（25.1%）、「感電防止のコンセントカバー」（23.3%）となっている。
 安全用品の認知度と使用度には差があり、認知度の高いものでも使用度は低いことがわかる。

【属性別特徴】

安全用品の認知度は、子どもの年齢区別にみても大きな違いは見られないが、使用度は、0～2歳において「家具の角にかぶせるもの」(28.3%)、「たんすなどのドアのストッパー」(42.0%)、「感電防止のコンセントカバー」(38.4%)、「子ども用の便座や蓋」(44.9%)、「階段からの転落防止柵」(18.1%)の使用度が他に比べて高い。

使用者の多い安全用品では、子どもの年齢が若いほど使用度が高くなっている。

◆表 子どもの年齢区分別◆

－認知度－ (％)

	合計 (件)	か家具の角にかぶせるもの	たんすなどのドアのストッパー	部屋のドアのストッパー	窓を固定するもの	感電防止のコンセントカバー	ガスレンジのスイッチのストッパー	子ども用の便座や蓋	浴槽用の吸盤付すべり止め	階段からの転落防止柵	
全体 (件)	374 100.0	258 69.0	265 70.9	204 54.5	142 38.0	230 61.5	82 21.9	208 55.6	145 38.8	224 59.9	
子どもの年齢区分	0～2歳	138	71.0	65.9	55.1	37.0	63.0	21.7	53.6	35.5	65.2
	3～5歳	87	65.5	67.8	50.6	36.8	59.8	19.5	56.3	33.3	55.2
	6～8歳	74	75.7	82.4	56.8	36.5	62.2	24.3	55.4	44.6	54.1
	9歳以上	75	62.7	72.0	56.0	42.7	60.0	22.7	58.7	45.3	61.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

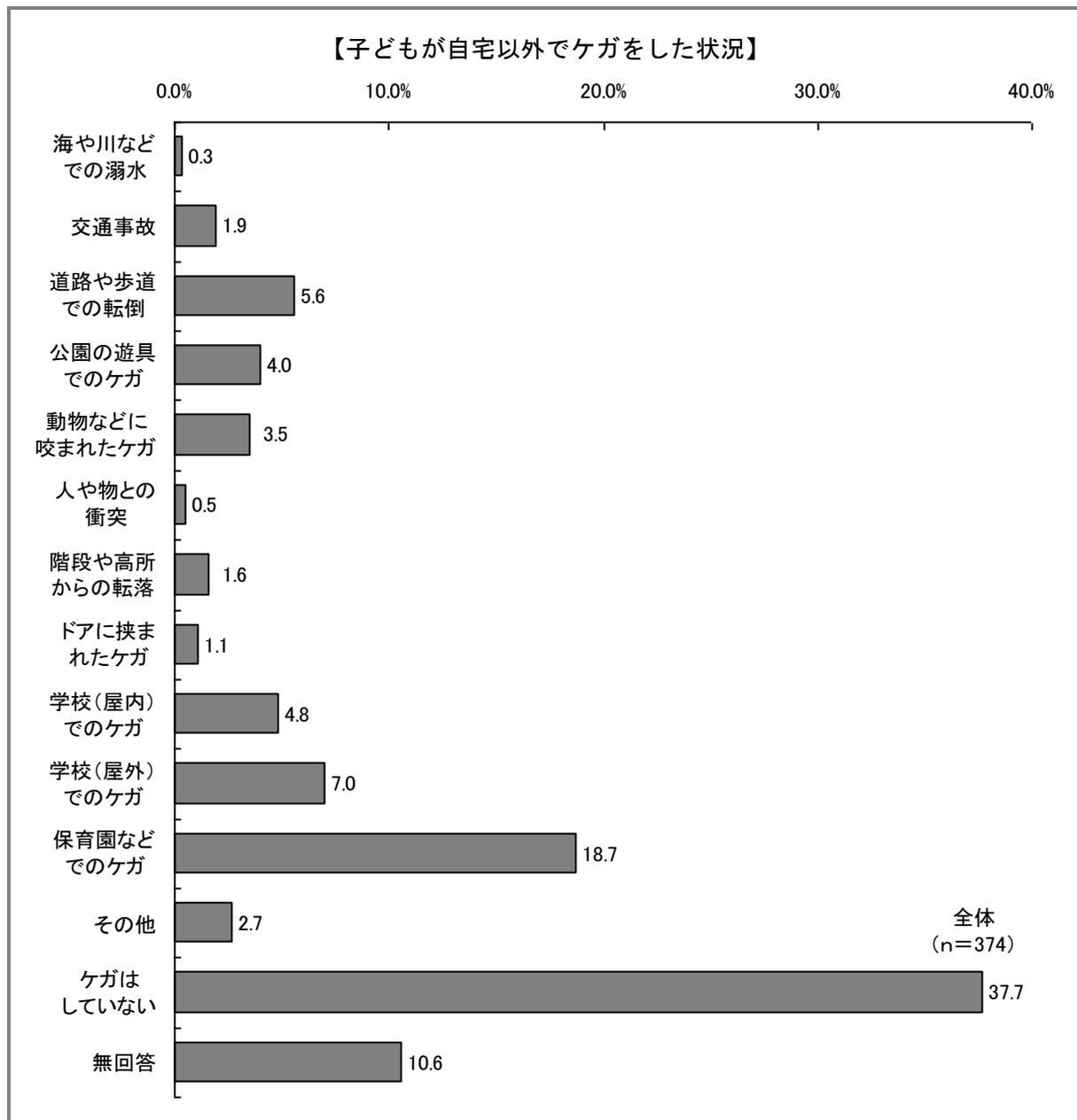
－使用度－ (％)

	合計 (件)	か家具の角にかぶせるもの	たんすなどのドアのストッパー	部屋のドアのストッパー	窓を固定するもの	感電防止のコンセントカバー	ガスレンジのスイッチのストッパー	子ども用の便座や蓋	浴槽用の吸盤付すべり止め	階段からの転落防止柵
全体 (件)	374 100.0	67 (+) 17.9	94 (+) 25.1	57 15.2	22 5.9	87 (+) 23.3	28 7.5	107 (+) 28.6	11 2.9	40 10.7
子どもの年齢区分	0～2歳	138	↑ 28.3	↑ 42.0	15.9	↑ 38.4	11.6	↑ 44.9	2.2	↑ 18.1
	3～5歳	87	↑ 20.7	↑ 25.3	18.4	↑ 20.7	8.0	↑ 33.3	3.4	10.3
	6～8歳	74	↑ 6.8	↑ 12.2	14.9	↑ 16.2	2.7	↑ 17.6	4.1	5.4
	9歳以上	75	↑ 6.7	↑ 6.7	10.7	↑ 5.3	4.0	↑ 4.0	2.7	2.7
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) 子どもが自宅以外でケガをした状況（過去3年間）

問 21. 過去3年間に、お子さんが久留米市内(自宅を除く)で、事故にあったり、ケガをした状況についてお答え下さい。

その際、周りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(あてはまるものすべてに○)



子どもの自宅以外でのケガの状況については、「ケガはしていない」(37.7%)が約4割を占めて最も多く、次いで「保育園などでのケガ」(18.7%)、「学校(屋外)でのケガ」(7.0%)となっている。

【属性別特徴】

0～2歳において、自宅以外で「ケガはしていない」(46.4%)の割合が他に比べて高い。

また、3～5歳においては、「保育園などでのケガ」(37.9%)、一方、9歳以上においては、「学校(屋内)でのケガ」(14.7%)と「学校(屋外)でのケガ」(22.7%)の割合が他に比べて高い。

◆表 子どもの年齢区分別◆

(%)

		合計 (件)	海や川 などでの 溺水	交通 事故	道路 や歩道 での転 倒	公園 の遊具 でのケ ガ	動物 などに 咬まれ たケガ	人や 物との 衝突	階段 や高所 からの 転落	ドア に挟ま れたケ ガ	学校 (屋内) でのケ ガ	学校 (屋外) でのケ ガ	保 育園 など での ケガ	そ の 他	ケ ガ は し て い な い	無 回 答
全体 (件)		374 100.0	1 0.3	7 1.9	21 5.6	15 4.0	13 3.5	2 0.5	6 1.6	4 1.1	18 4.8	26 7.0	70 18.7	3 2.7	141 37.7	14 10.6
年 子 ど も の 区 分	0～2歳	138	-	1.4	5.8	4.3	2.9	-	0.7	2.2	0.7	0.7	15.9	1.4	46.4	18.8
	3～5歳	87	-	-	3.4	4.6	4.6	-	5.7	-	2.3	2.3	37.9	1.1	25.3	13.8
	6～8歳	74	-	-	6.8	4.1	5.4	1.4	-	-	5.4	8.1	17.6	6.8	39.2	10.8
	9歳以上	75	1.3	6.7	6.7	2.7	1.3	1.3	-	1.3	14.7	22.7	2.7	2.7	34.7	9.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

IV. 調査結果の詳細

○子どもが自宅以外でケガをした状況のうち、周りに大人がいた場合・医療機関に行った場合

【周りに大人がいた場合・医療機関に行った場合】 (%)					
	全体 (件)	ケガをした 状況 (件)	大人が いた	医療 機関に 行った	無 回答
海や川などでの溺水	374 100.0	1 0.3	100.0	-	-
交通事故	374 100.0	7 1.9	71.4	85.7	-
道路や歩道での転倒	374 100.0	21 5.6	71.4	4.8	23.8
公園の遊具)でのケガ	374 100.0	15 4.0	66.7	20.0	26.7
動物などに咬まれたケガ	374 100.0	13 3.5	92.3	46.2	7.7
人や物との衝突	374 100.0	2 0.5	-	50.0	50.0
階段や高所からの転落	374 100.0	6 1.6	83.3	33.3	16.7
ドアに挟まれたケガ	374 100.0	4 1.1	75.0	25.0	25.0
学校(屋内)でのケガ	374 100.0	18 4.8	22.2	61.1	38.9
学校(屋外)でのケガ	374 100.0	26 7.0	50.0	50.0	34.6
保育園などでのケガ	374 100.0	70 18.7	88.6	30.0	7.1
その他	374 100.0	10 2.7	80.0	60.0	-
ケガはしていない	374 100.0	141 37.7	-	-	-

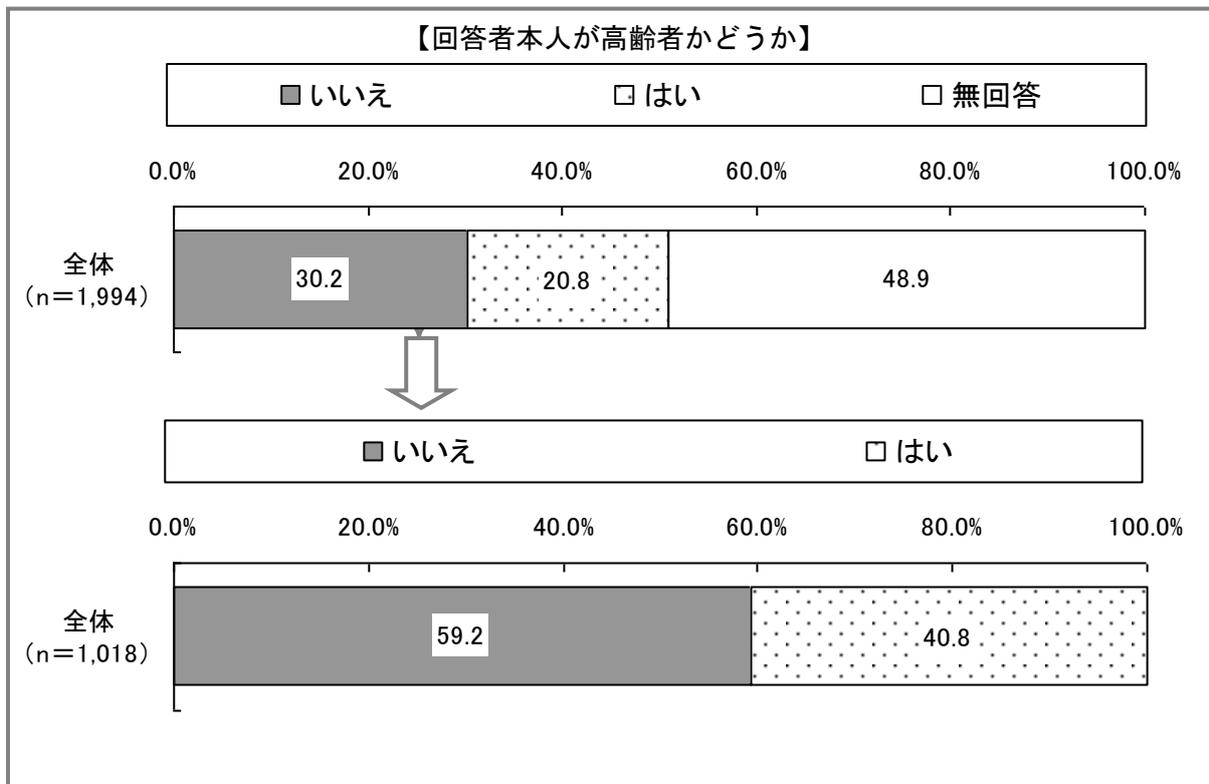
子供が自宅以外でケガをした時、周りに大人がいたかどうか・医療機関に行ったかどうかを尋ねた。

それぞれの状況で、自宅以外でのケガの状況同様、ケガをした全体数は少ないが、「大人がいた」の割合は自宅以外でのケガの時よりも比較的低い。特に、学校(屋内)でのケガでは「大人がいた」(22.2%)が3割に満たない。一方、「医療機関に行った」(4.8%)の割合は道路や歩道での転倒で1割に満たない。

5. 「高齢者の状況」について

(1) 回答者本人が高齢者かどうか

問 22. 対象となる高齢者の方は宛名のご本人ですか。(〇はひとつ)



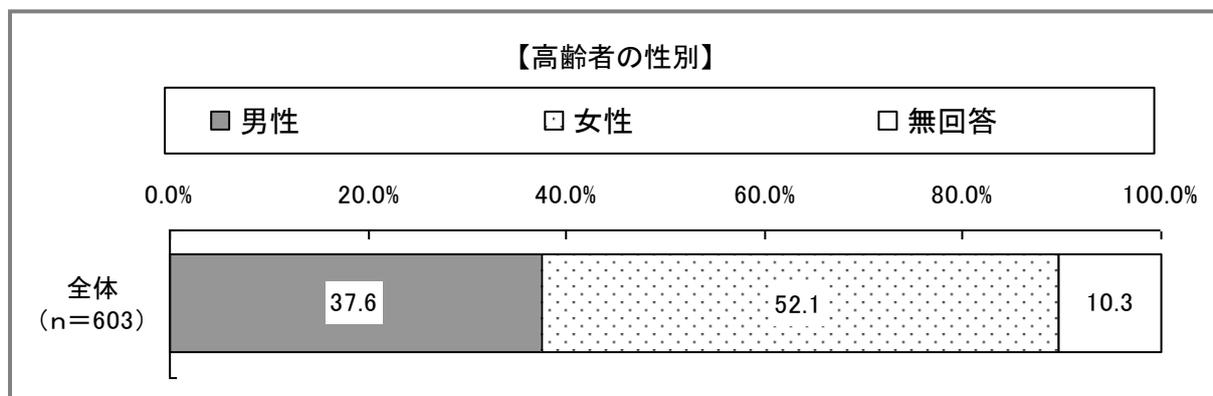
家族の中で65歳以上の高齢者がいる場合（本人が高齢者の場合も含む）に、回答者本人が高齢者かどうか尋ねたところ、全体の51.0%の人から回答があった。

回答のあった中で、「いいえ」（回答者本人は高齢者ではない）（59.2%）が約6割であり、「はい」（回答者本人が高齢者である）（40.8%）は約4割である。

(2) 対象となる高齢者の属性

高齢者の属性—①性別

問 22-1. 対象となる高齢者の方の性別は。(〇はひとつ)

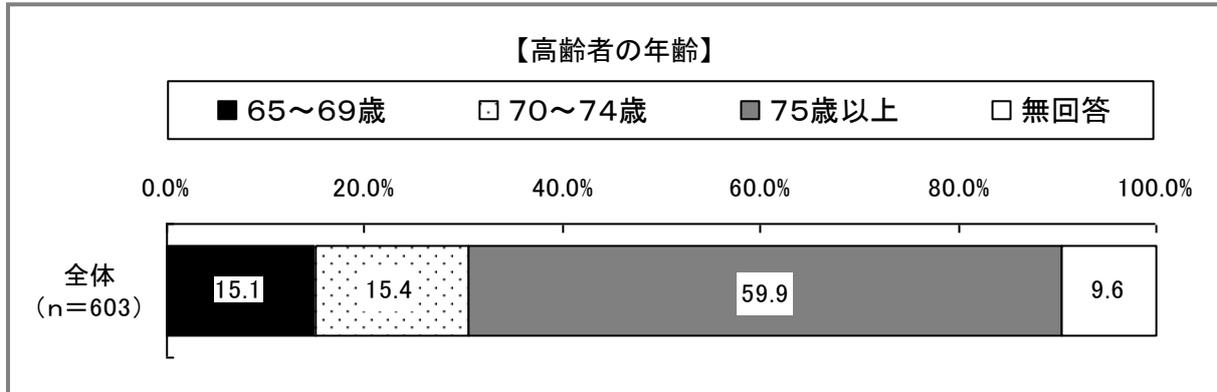


対象となる高齢者の性別については、「女性」（52.1%）が5割を超えており、「男性」（37.6%）を上回っている。

IV. 調査結果の詳細

高齢者の属性—②年齢

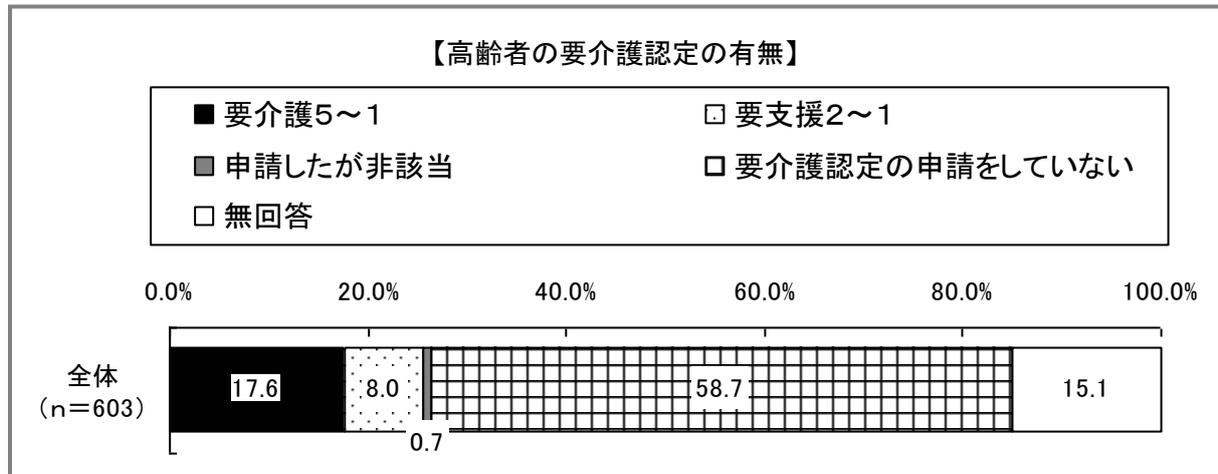
問 22-2. 対象となる高齢者の方の年齢（平成 23 年 9 月 1 日時点）は。



高齢者の年齢については、「75歳以上」（59.9%）が約6割を占めて最も多く、次いで「70～74歳」（15.4%）、「65～69歳」（15.1%）となっている。

高齢者の属性—③要介護認定の有無

問 22-3. 対象となる高齢者の方は、要介護認定をお持ちですか。（○はひとつ）



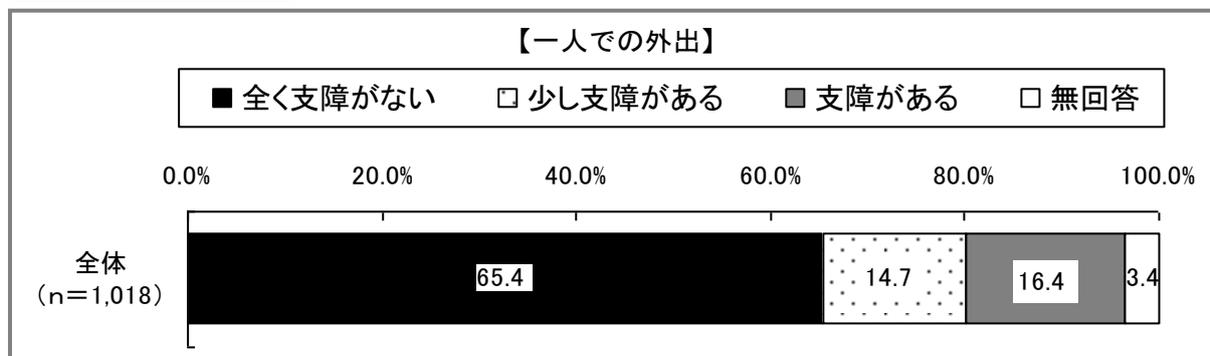
高齢者の要介護認定の有無については、「要介護認定の申請をしていない」（58.7%）が約6割を占めて最も多く、次いで「要介護5～1」（17.6%）、「要支援2～1」（8.0%）となっている。

この要介護認定の有無に関する設問は回答者が限定されているため、以下の調査結果において、要介護認定別に特徴をみている部分は、要介護認定の有無に関する設問に回答した人の中での傾向を述べている。

(3) 高齢者の日常生活にかかわる動作について

問 23. 対象となる高齢者の方の普段の日常生活にかかわる動作についてお尋ねします。
次の問 23.1～問 23.11 の動作について、支障なく行うことが出来ていますか。

高齢者の日常生活動作—①一人での外出



高齢者の日常生活動作について、一人での外出を支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(65.4%)が6割台半ばを占めて最も多く、次いで「支障がある」(16.4%)、「少し支障がある」(14.7%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「少し支障がある」(19.3%)、「支障がある」(18.3%)の割合が男性に比べて高い。

高齢者の年齢区分別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(21.4%)、「支障がある」(21.6%)の割合が他に比べて高い。

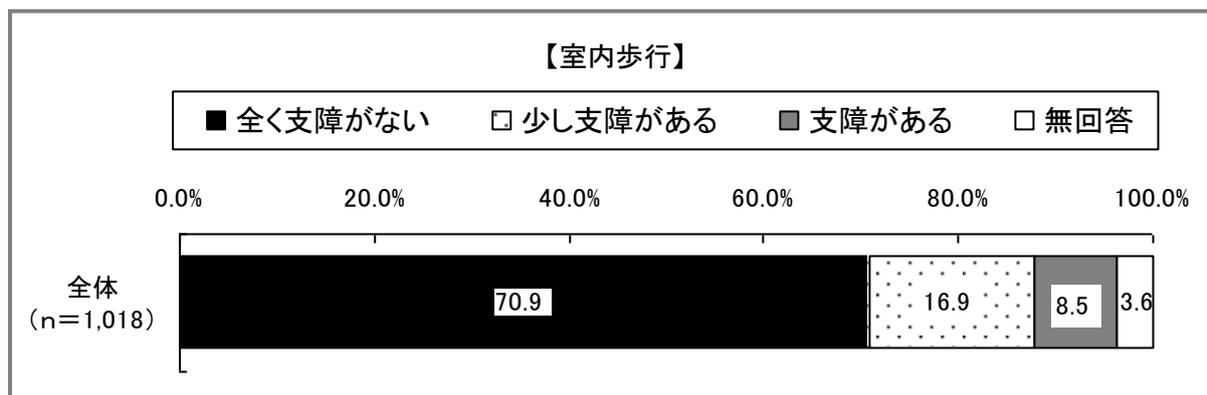
要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(67.0%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(41.7%)と「支障がある」(45.8%)が共に4割を超えている。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支 障 が あ る	無 回 答
全体 (件)		1018 100.0	666 65.4	150 14.7	167 16.4	35 3.4
の 高 性 別 者	男性	307	70.0	12.1	15.3	2.6
	女性	398	60.1	19.3	18.3	2.3
	無回答	313	67.7	11.5	15.0	5.8
年 高 齢 区 分 の	65～69歳	146	74.7	10.3	13.0	2.1
	70～74歳	145	77.2	9.7	9.7	3.4
	75歳以上	402	55.0	21.4	21.6	2.0
	無回答	325	68.9	10.8	14.5	5.8
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	14.2	16.0	67.0	2.8
	要支援2～1	48	10.4	41.7	45.8	2.1
	申請したが非該当	4	50.0	25.0	25.0	-
	申請していない	354	76.0	17.5	4.5	2.0
	無回答	506	74.1	9.9	11.3	4.7

IV. 調査結果の詳細

高齢者の日常生活動作—②室内歩行



高齢者の日常生活動作について、室内歩行を支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(70.9%)が約7割を占めて最も多く、次いで「少し支障がある」(16.9%)、「支障がある」(8.5%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「少し支障がある」(20.6%)、「支障がある」(10.1%)の割合が男性に比べて高い。

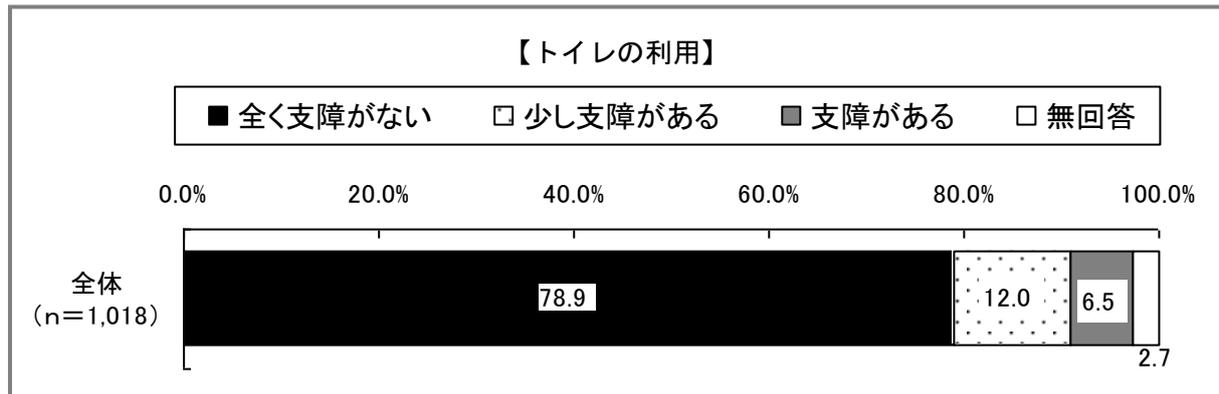
高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(24.4%)、「支障がある」(10.7%)の割合が他に比べて高い。

要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(43.4%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(52.1%)が5割を超えている。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	全く 支障が ない	少し 支障が ある	支障 がある	無 回 答
全体 (件)		1018	722	172	87	37
		100.0	70.9	16.9	8.5	3.6
の 高 性 齢 別 者	男性	307	75.6	14.3	6.8	3.3
	女性	398	67.1	20.6	10.1	2.3
	無回答	313	71.2	14.7	8.3	5.8
年 高 齢 区 分 の	65～69歳	146	78.8	12.3	6.2	2.7
	70～74歳	145	83.4	8.3	4.8	3.4
	75歳以上	402	62.7	24.4	10.7	2.2
	無回答	325	72.0	13.5	8.6	5.8
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	21.7	33.0	43.4	1.9
	要支援2～1	48	25.0	52.1	18.8	4.2
	申請したが非該当	4	50.0	25.0	25.0	-
	申請していない	354	82.8	14.7	0.6	2.0
	無回答	506	77.5	11.7	5.7	5.1

高齢者の日常生活動作—③トイレの利用



高齢者の日常生活動作について、トイレの利用を支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(78.9%)が約8割を占めて最も多く、次いで「少し支障がある」(12.0%)、「支障がある」(6.5%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の年齢区分別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(17.7%)、「支障がある」(7.5%)の割合が他に比べて高い。

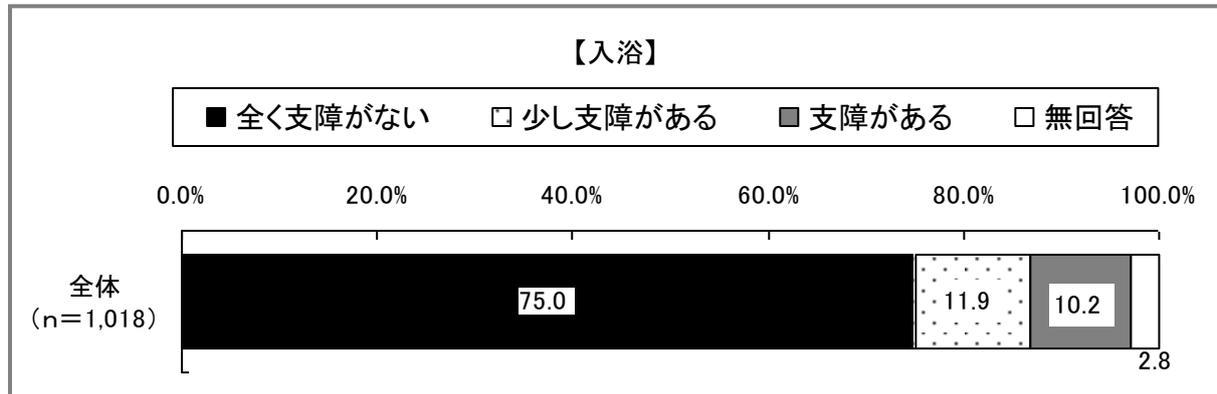
要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(41.5%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(50.0%)が5割を占めている。

◆表 高齢者の年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支 障 が あ る	無 回 答
全体 (件)		1018 100.0	803 78.9	122 12.0	66 6.5	27 2.7
年 高 齢 者 の 区 分	65～69歳	146	83.6	10.3	4.8	1.4
	70～74歳	145	86.2	4.8	5.5	3.4
	75歳以上	402	73.4	17.7	7.5	1.5
	無回答	325	80.3	8.9	6.5	4.3
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	32.1	24.5	41.5	1.9
	要支援2～1	48	43.8	50.0	4.2	2.1
	申請したが非該当	4	100.0	-	-	-
	申請していない	354	89.8	7.6	0.6	2.0
	無回答	506	84.2	8.9	3.6	3.4

IV. 調査結果の詳細

高齢者の日常生活動作—④入浴



高齢者の日常生活動作について、入浴を支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(75.0%)が7割台半ばを占めて最も多く、次いで「少し支障がある」(11.9%)、「支障がある」(10.2%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「少し支障がある」(14.3%)、「支障がある」(13.8%)の割合が男性に比べて高い。

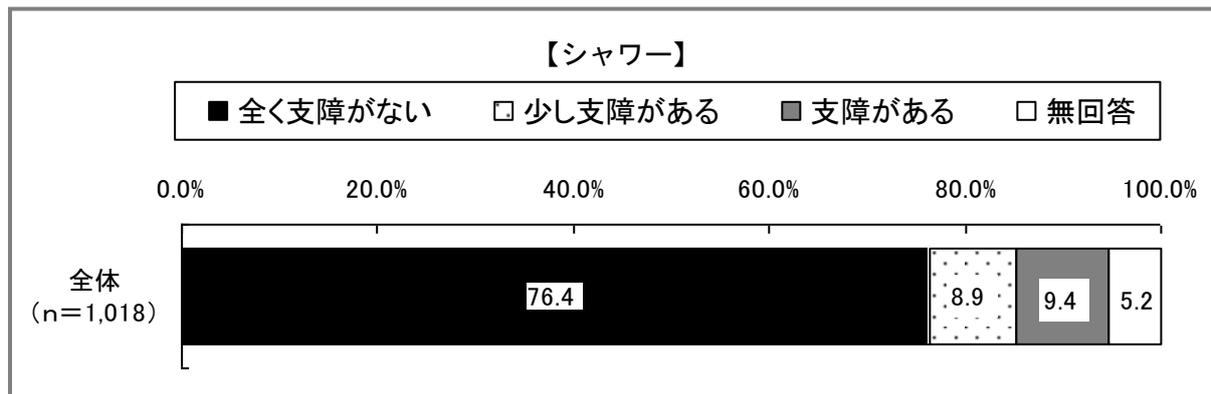
高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(17.7%)、「支障がある」(13.2%)の割合が他に比べて高い。

要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(54.7%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(56.3%)が5割台半ばを占めている。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支 障 が あ る	無 回 答
全体 (件)		1018	764	121	104	29
		100.0	75.0	11.9	10.2	2.8
の高 性 別 者	男性	307	79.8	10.4	7.2	2.6
	女性	398	70.4	14.3	13.8	1.5
	無回答	313	76.4	10.2	8.6	4.8
年 高 齢 者 の 区 分	65～69歳	146	80.8	9.6	8.2	1.4
	70～74歳	145	85.5	6.2	4.8	3.4
	75歳以上	402	67.7	17.7	13.2	1.5
	無回答	325	76.9	8.3	9.8	4.9
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	21.7	21.7	54.7	1.9
	要支援2～1	48	27.1	56.3	14.6	2.1
	申請したが非該当	4	75.0	25.0	-	-
	申請していない	354	88.7	8.5	1.4	1.4
	無回答	506	81.2	7.9	6.7	4.2

高齢者の日常生活動作—⑤シャワー



高齢者の日常生活動作について、シャワーを支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(76.4%)が7割台半ばを占めて最も多く、次いで「支障がある」(9.4%)、「少し支障がある」(8.9%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「少し支障がある」(12.1%)、「支障がある」(12.3%)の割合が男性に比べて高い。

高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(15.4%)、「支障がある」(11.4%)の割合が他に比べて高い。

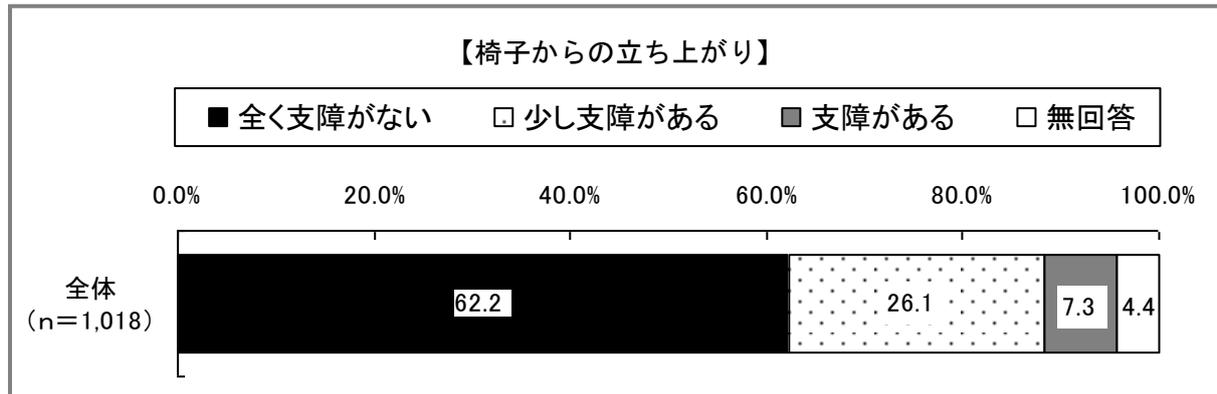
要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(51.9%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(47.9%)が約5割を占めている。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支障 が ある	無 回 答
全体 (件)		1018	778	91	96	53
		100.0	76.4	8.9	9.4	5.2
の高 性 別 者	男性	307	80.8	8.8	6.5	3.9
	女性	398	71.6	12.1	12.3	4.0
	無回答	313	78.3	5.1	8.6	8.0
年 高 齢 者 の 区 分	65～69歳	146	82.9	7.5	7.5	2.1
	70～74歳	145	86.2	3.4	4.8	5.5
	75歳以上	402	69.4	15.4	11.4	3.7
	無回答	325	77.8	4.0	9.8	8.3
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	22.6	17.9	51.9	7.5
	要支援2～1	48	27.1	47.9	14.6	10.4
	申請したが非該当	4	100.0	-	-	-
	申請していない	354	91.5	5.6	0.6	2.3
	無回答	506	81.6	5.7	6.3	6.3

IV. 調査結果の詳細

高齢者の日常生活動作—⑥椅子からの立ち上がり



高齢者の日常生活動作について、椅子からの立ち上りを支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(62.2%)が6割を超えて最も多く、次いで「少し支障がある」(26.1%)、「支障がある」(7.3%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(33.3%)、「支障がある」(9.5%)の割合が他に比べて高い。

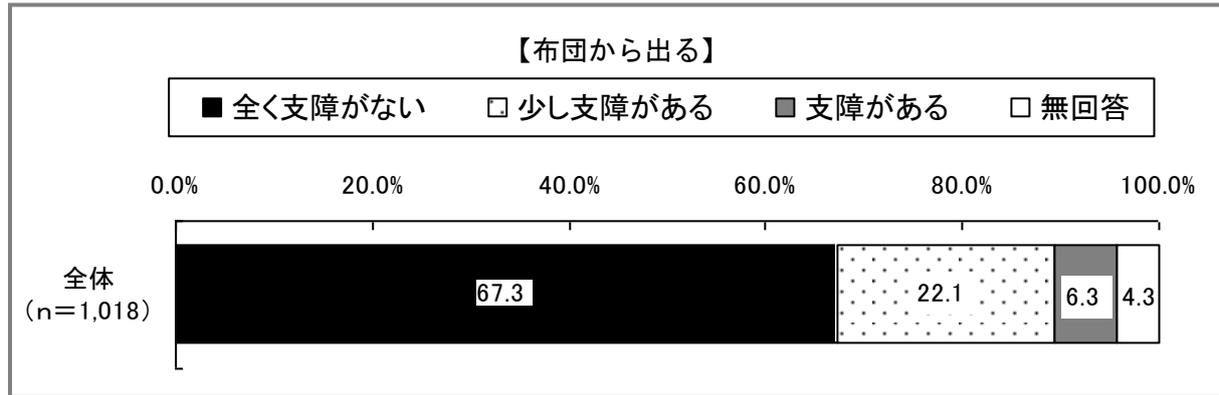
要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(38.7%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(64.6%)が6割台半ばを占めている。

◆表 高齢者の年齢区分別・要介護認定別◆

(%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支障 がある	無 回 答
全体 (件)		1018 100.0	633 62.2	266 26.1	74 7.3	45 4.4
年 高 齢 者 の 区 分	65～69歳	146	75.3	15.8	4.8	4.1
	70～74歳	145	66.9	22.1	5.5	5.5
	75歳以上	402	55.0	33.3	9.5	2.2
	無回答	325	63.1	23.7	6.5	6.8
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	19.8	37.7	38.7	3.8
	要支援2～1	48	14.6	64.6	16.7	4.2
	申請したが非該当	4	50.0	25.0	-	25.0
	申請していない	354	71.5	24.3	0.8	3.4
	無回答	506	69.2	21.3	4.3	5.1

高齢者の日常生活動作—⑦布団から出る



高齢者の日常生活動作について、布団から出る動作を支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(67.3%)が約7割を占めて最も多く、次いで「少し支障がある」(22.1%)、「支障がある」(6.3%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(28.6%)、「支障がある」(7.5%)の割合が他に比べて高い。

要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(37.7%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(52.1%)が5割を超えている。

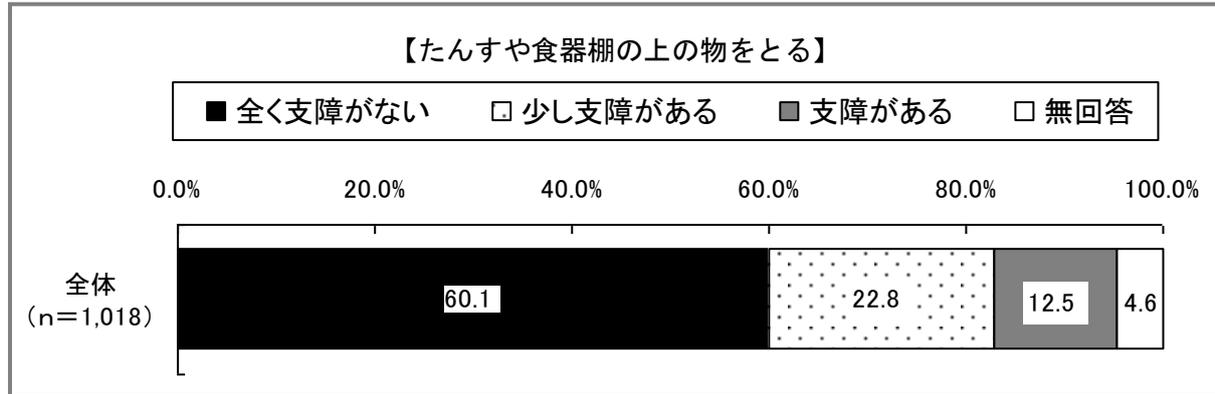
◆表 高齢者の年齢区分別・要介護認定別◆

(%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支障 がある	無 回 答
全体 (件)		1018	685	225	64	44
		100.0	67.3	22.1	6.3	4.3
年 高 齢 者 の 区 分	65～69歳	146	76.7	15.1	4.8	3.4
	70～74歳	145	72.4	16.6	4.8	6.2
	75歳以上	402	61.2	28.6	7.5	2.7
	無回答	325	68.3	19.7	6.2	5.8
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	21.7	35.8	37.7	4.7
	要支援2～1	48	29.2	52.1	14.6	4.2
	申請したが非該当	4	50.0	25.0	-	25.0
	申請していない	354	76.6	19.2	0.6	3.7
	無回答	506	74.1	18.4	3.0	4.5

IV. 調査結果の詳細

高齢者の日常生活動作—⑧たんすや食器棚の上の物をとる



高齢者の日常生活動作について、たんすや食器棚の上の物をとる動作を支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(60.1%)が約6割を占めて最も多く、次いで「少し支障がある」(22.8%)、「支障がある」(12.5%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「少し支障がある」(24.6%)、「支障がある」(16.6%)の割合が男性に比べて高い。

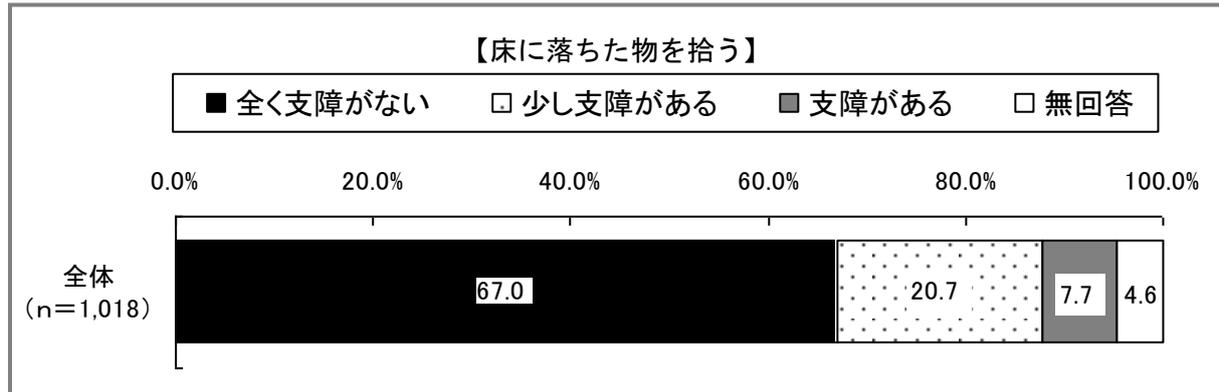
高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(29.9%)、「支障がある」(16.2%)の割合が他に比べて高い。

要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(53.8%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(54.2%)が5割台半ばを占めている。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支 障 が あ る	無 回 答
全体 (件)		1018	612	232	127	47
		100.0	60.1	22.8	12.5	4.6
の高 性 別 者	男性	307	66.1	21.5	8.5	3.9
	女性	398	54.8	24.6	16.6	4.0
	無回答	313	61.0	21.7	11.2	6.1
年 高 齢 者 の 区 分	65～69歳	146	71.9	15.8	8.2	4.1
	70～74歳	145	68.3	18.6	7.6	5.5
	75歳以上	402	51.2	29.9	16.2	2.7
	無回答	325	62.2	19.1	12.0	6.8
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	15.1	27.4	53.8	3.8
	要支援2～1	48	12.5	54.2	29.2	4.2
	申請したが非該当	4	50.0	25.0	-	25.0
	申請していない	354	68.9	23.7	3.1	4.2
	無回答	506	68.0	18.2	8.9	4.9

高齢者の日常生活動作—⑨床に落ちた物を拾う



高齢者の日常生活動作について、床に落ちた物を拾う動作を支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(67.0%)が約7割を占めて最も多く、次いで「少し支障がある」(20.7%)、「支障がある」(7.7%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(30.8%)、「支障がある」(9.0%)の割合が他に比べて高い。

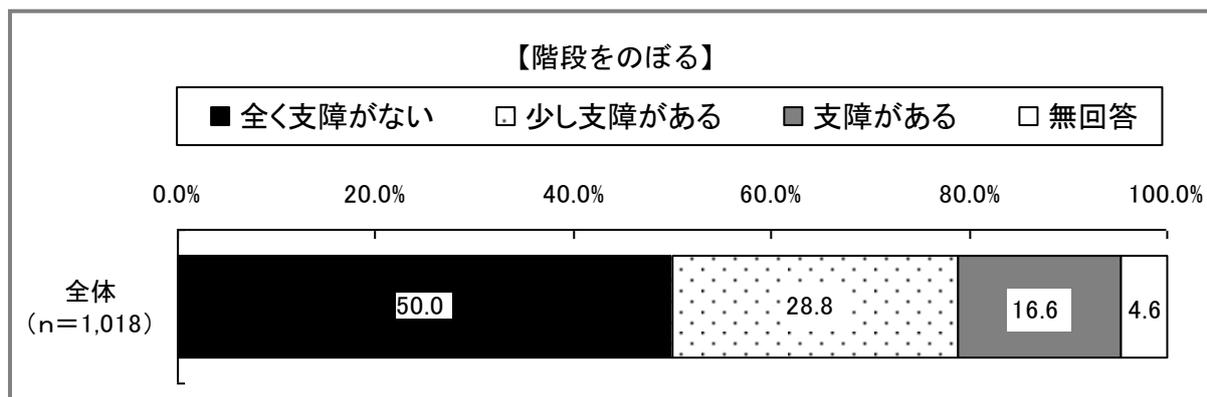
要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(40.6%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(58.3%)が約6割を占めている。

◆表 高齢者の年齢区別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支 障 が あ る	無 回 答
全体 (件)		1018	682	211	78	47
		100.0	67.0	20.7	7.7	4.6
年 高 齢 者 区 分 の	65～69歳	146	76.7	12.3	5.5	5.5
	70～74歳	145	73.1	15.2	4.8	6.9
	75歳以上	402	58.0	30.8	9.0	2.2
	無回答	325	71.1	14.5	8.3	6.2
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	18.9	36.8	40.6	3.8
	要支援2～1	48	22.9	58.3	14.6	4.2
	申請したが非該当	4	50.0	25.0	-	25.0
	申請していない	354	77.1	18.1	0.8	4.0
	無回答	506	74.3	15.6	4.9	5.1

IV. 調査結果の詳細

高齢者の日常生活動作—⑩階段をのぼる



高齢者の日常生活動作について、階段をのぼる動作を支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(50.0%)が5割を占めて最も多く、次いで「少し支障がある」(28.8%)、「支障がある」(16.6%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「少し支障がある」(31.7%)、「支障がある」(20.6%)の割合が男性に比べて高い。

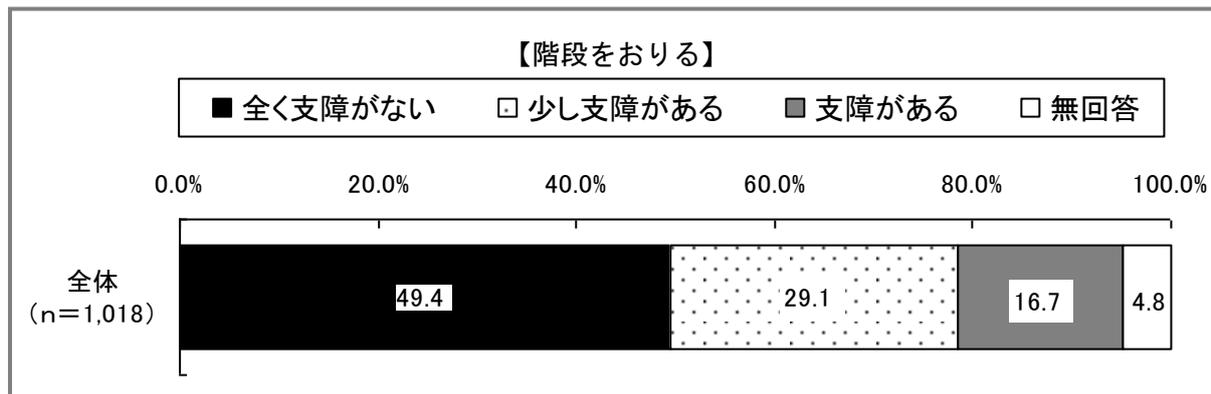
高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(33.8%)、「支障がある」(22.6%)の割合が他に比べて高い。

要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(64.2%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においては「少し支障がある」(41.7%)と「支障がある」(47.9%)が共に4割を超えている。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支 障 が あ る	無 回 答
全体 (件)		1018	509	293	169	47
		100.0	50.0	28.8	16.6	4.6
の高 性 齢 者	男性	307	56.0	26.7	13.4	3.9
	女性	398	43.7	31.7	20.6	4.0
	無回答	313	52.1	27.2	14.7	6.1
年 高 齢 区 分 の	65～69歳	146	58.9	26.0	12.3	2.7
	70～74歳	145	61.4	24.8	8.3	5.5
	75歳以上	402	40.3	33.8	22.6	3.2
	無回答	325	52.9	25.5	14.8	6.8
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	8.5	23.6	64.2	3.8
	要支援2～1	48	8.3	41.7	47.9	2.1
	申請したが非該当	4	25.0	50.0	-	25.0
	申請していない	354	56.8	33.1	6.2	4.0
	無回答	506	58.1	25.5	11.1	5.3

高齢者の日常生活動作—⑪階段をおりる



高齢者の日常生活動作について、階段をおりる動作を支障なく行うことが出来ているか尋ねたところ、「全く支障がない」(49.4%)が約5割を占めて最も多く、次いで「少し支障がある」(29.1%)、「支障がある」(16.7%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「少し支障がある」(30.9%)、「支障がある」(21.1%)の割合が男性に比べて高い。

高齢者の年齢区分別にみると、75歳以上において「少し支障がある」(32.8%)、「支障がある」(22.9%)の割合が他に比べて高い。

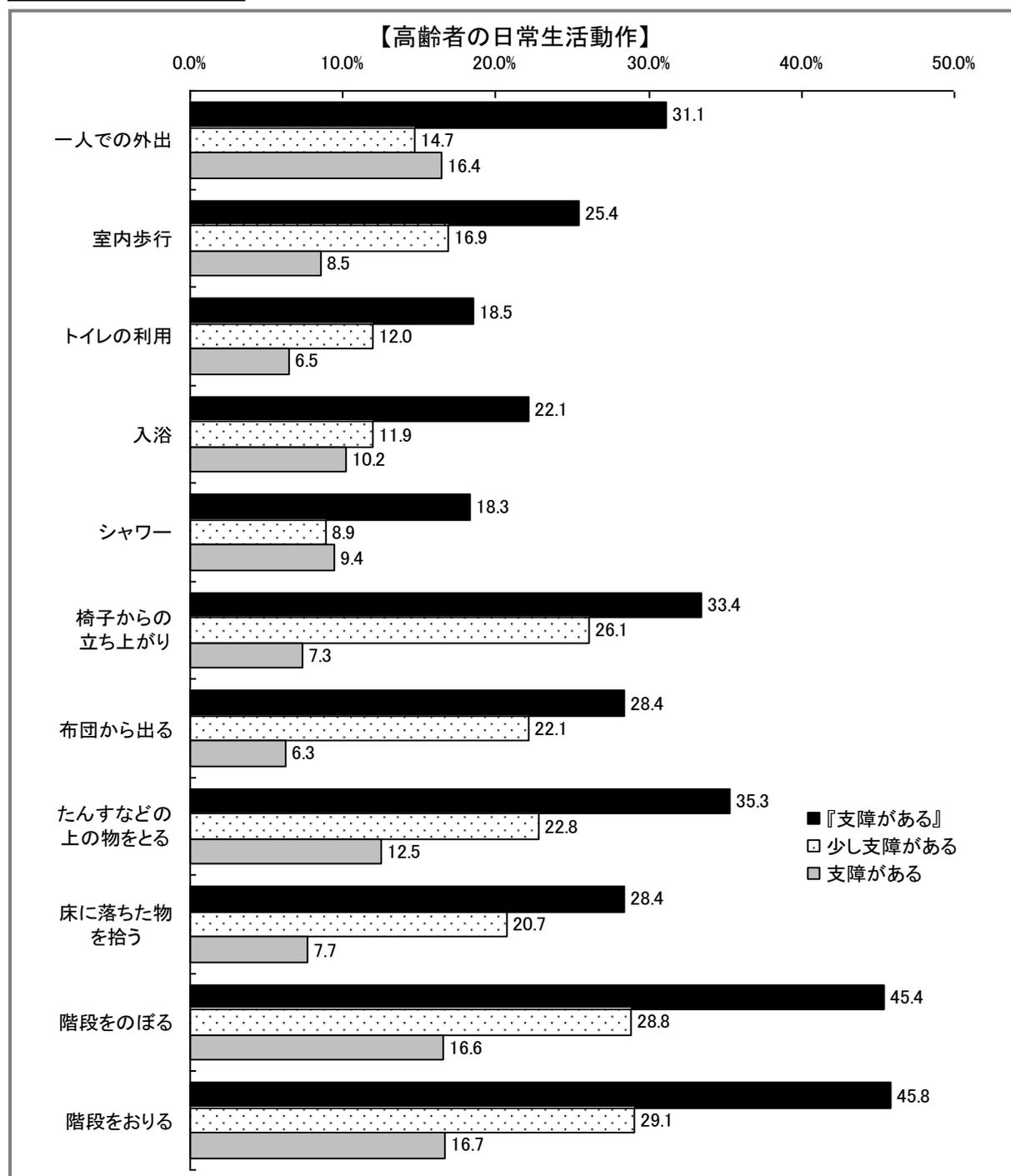
要介護認定別にみると、要介護者において「支障がある」(63.2%)の割合が他に比べて高い。また、要支援者においても「支障がある」(50.0%)が5割を占めている。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	全く 支障 がない	少し 支障 がある	支障 がある	無 回 答
全体 (件)		1018 100.0	503 49.4	296 29.1	170 16.7	49 4.8
の 高 性 齢 者	男性	307	54.7	28.7	12.7	3.9
	女性	398	43.7	30.9	21.1	4.3
	無回答	313	51.4	27.2	15.0	6.4
年 高 齢 者 区 分 の	65～69歳	146	57.5	27.4	12.3	2.7
	70～74歳	145	61.4	25.5	7.6	5.5
	75歳以上	402	40.8	32.8	22.9	3.5
	無回答	325	51.1	26.8	15.1	7.1
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	8.5	22.6	63.2	5.7
	要支援2～1	48	8.3	37.5	50.0	4.2
	申請したが非該当	4	25.0	50.0	-	25.0
	申請していない	354	55.9	34.5	5.6	4.0
	無回答	506	57.5	25.7	11.7	5.1

IV. 調査結果の詳細

高齢者の日常生活動作—まとめ



階段は生活の上での障害となっていることが分かる。階段の昇降動作に次いで、「たんすなどの上のものをとる」(35.3%)となっている。

また、性別にみると全ての項目で女性の方が『支障がある』の割合が高く、年代別にみると75歳以上で『支障がある』の割合が他に比べて高い。

要介護認定別にみると、非認定者→要支援者→要介護者の順に支障度が高くなっていく。「一人での外出」、「階段をのぼる」、「階段をおりる」では、他の項目に比べて要支援者の「支障がある」の割合が高く、4割を超えている。

【高齢者の日常生活動作の支障度】と「問1. 過去3年間にケガをした経験」との関係】

高齢者の日常生活の支障度をケガをした経験別にみると、過去3年間にケガをしたことがある人では、ない人に比べて日常生活の支障度が高くなっている。

特に、①一人での外出、⑩階段をのぼる、⑪階段をおりるの3つの動作は、ケガをしたことがある人では「支障がある」の割合が2割を超えて高い一方、ケガをしたことがない人では1割を切っており、その差が大きい。

◆表 過去3年間にケガをした経験別◆

(%)

		合計 (件)	全く 支障が ない	少し 支障が ある	支障 がある	無 回答
①一人での外出						
全体 (件)		415 100.0	315 75.9	38 9.2	49 11.8	13 3.1
経験 ケガの	ある	101	60.4	13.9	21.8	4.0
	ない	259	81.5	6.2	9.7	2.7
	無回答	55	78.2	14.5	3.6	3.6
②室内歩行						
全体 (件)		415 100.0	330 79.5	46 11.1	25 6.0	14 3.4
経験 ケガの	ある	101	62.4	21.8	11.9	4.0
	ない	259	85.7	6.2	4.6	3.5
	無回答	55	81.8	14.5	1.8	1.8
③トイレの利用						
全体 (件)		415 100.0	358 86.3	35 8.4	15 3.6	7 1.7
経験 ケガの	ある	101	71.3	15.8	9.9	3.0
	ない	259	91.1	5.8	1.9	1.2
	無回答	55	90.9	7.3	-	1.8
④入浴						
全体 (件)		415 100.0	343 82.7	33 8.0	29 7.0	10 2.4
経験 ケガの	ある	101	67.3	13.9	15.8	3.0
	ない	259	87.6	5.8	4.6	1.9
	無回答	55	87.3	7.3	1.8	3.6
⑤シャワー						
全体 (件)		415 100.0	346 83.4	24 5.8	26 6.3	19 4.6
経験 ケガの	ある	101	72.3	10.9	11.9	5.0
	ない	259	86.9	3.9	5.4	3.9
	無回答	55	87.3	5.5	-	7.3
⑥椅子からの立ち上がり						
全体 (件)		415 100.0	291 70.1	94 22.7	17 4.1	13 3.1
経験 ケガの	ある	101	52.5	37.6	6.9	3.0
	ない	259	76.1	18.1	3.5	2.3
	無回答	55	74.5	16.4	1.8	7.3
⑦布団から出る						
全体 (件)		415 100.0	311 74.9	81 19.5	13 3.1	10 2.4
経験 ケガの	ある	101	57.4	35.6	5.0	2.0
	ない	259	81.1	14.7	2.3	1.9
	無回答	55	78.2	12.7	3.6	5.5
⑧たんすなどの上の物をとる						
全体 (件)		415 100.0	287 69.2	76 18.3	40 9.6	12 2.9
経験 ケガの	ある	101	54.5	25.7	17.8	2.0
	ない	259	75.7	14.7	7.3	2.3
	無回答	55	65.5	21.8	5.5	7.3
⑨床に落ちた物を拾う						
全体 (件)		415 100.0	314 75.7	66 15.9	23 5.5	12 2.9
経験 ケガの	ある	101	56.4	28.7	12.9	2.0
	ない	259	83.4	11.2	3.1	2.3
	無回答	55	74.5	14.5	3.6	7.3
⑩階段をのぼる						
全体 (件)		415 100.0	245 59.0	108 26.0	48 11.6	14 3.4
経験 ケガの	ある	101	40.6	35.6	21.8	2.0
	ない	259	66.0	21.6	9.3	3.1
	無回答	55	60.0	29.1	3.6	7.3
⑪階段をおりる						
全体 (件)		415 100.0	241 58.1	109 26.3	51 12.3	14 3.4
経験 ケガの	ある	101	39.6	30.7	26.7	3.0
	ない	259	66.0	22.8	8.5	2.7
	無回答	55	54.5	34.5	3.6	7.3

IV. 調査結果の詳細

【高齢者の日常生活動作の支障度】と「問14-3.入院の有無」との関係】

高齢者の日常生活の支障度を入院の有無別にみると、入院の有無については、回答者数は少ないが、ケガをした時に入院した人では、入院しなかった人に比べて日常生活の支障度が高くなっている。

◆表 入院の有無別◆

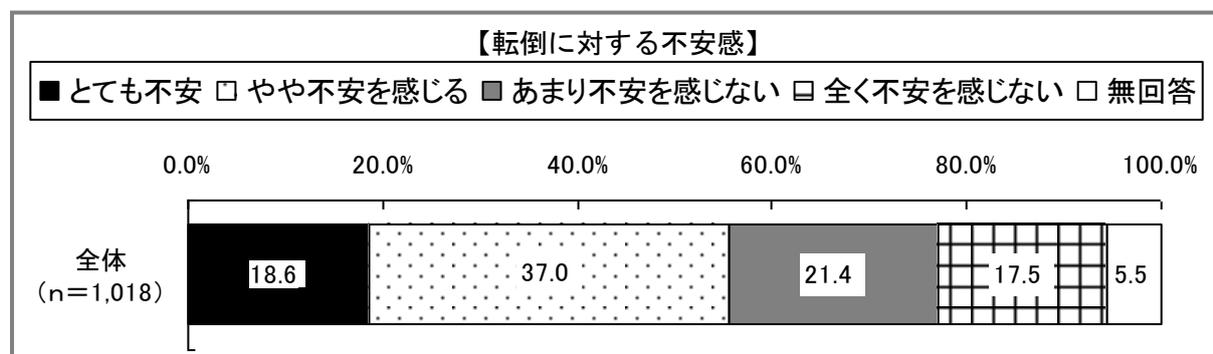
(%)

		合計 (件)	全く 支障が ない	少し 支障が ある	支障 がある	無 回答
①一人での外出						
全体 (件)		415 100.0	315 75.9	38 9.2	49 11.8	13 3.1
有 無 の 入 院 の	した	18	27.8	22.2	50.0	-
	しなかった	57	70.2	8.8	15.8	5.3
	無回答	340	79.4	8.5	9.1	2.9
②室内歩行						
全体 (件)		415 100.0	330 79.5	46 11.1	25 6.0	14 3.4
有 無 の 入 院 の	した	18	33.3	33.3	33.3	-
	しなかった	57	70.2	19.3	5.3	5.3
	無回答	340	83.5	8.5	4.7	3.2
③トイレの利用						
全体 (件)		415 100.0	358 86.3	35 8.4	15 3.6	7 1.7
有 無 の 入 院 の	した	18	38.9	38.9	22.2	-
	しなかった	57	80.7	8.8	7.0	3.5
	無回答	340	89.7	6.8	2.1	1.5
④入浴						
全体 (件)		415 100.0	343 82.7	33 8.0	29 7.0	10 2.4
有 無 の 入 院 の	した	18	38.9	5.6	55.6	-
	しなかった	57	73.7	15.8	7.0	3.5
	無回答	340	86.5	6.8	4.4	2.4
⑤シャワー						
全体 (件)		415 100.0	346 83.4	24 5.8	26 6.3	19 4.6
有 無 の 入 院 の	した	18	38.9	22.2	33.3	5.6
	しなかった	57	80.7	7.0	8.8	3.5
	無回答	340	86.2	4.7	4.4	4.7
⑥椅子からの立ち上がり						
全体 (件)		415 100.0	291 70.1	94 22.7	17 4.1	13 3.1
有 無 の 入 院 の	ある	18	27.8	50.0	22.2	-
	ない	57	61.4	31.6	5.3	1.8
	無回答	340	73.8	19.7	2.9	3.5
⑦布団から出る						
全体 (件)		415 100.0	311 74.9	81 19.5	13 3.1	10 2.4
有 無 の 入 院 の	した	18	27.8	50.0	22.2	-
	しなかった	57	66.7	29.8	1.8	1.8
	無回答	340	78.8	16.2	2.4	2.6
⑧たんすなどの上の物をとる						
全体 (件)		415 100.0	287 69.2	76 18.3	40 9.6	12 2.9
有 無 の 入 院 の	した	18	33.3	16.7	50.0	-
	しなかった	57	61.4	22.8	14.0	1.8
	無回答	340	72.4	17.6	6.8	3.2
⑨床に落ちた物を拾う						
全体 (件)		415 100.0	314 75.7	66 15.9	23 5.5	12 2.9
有 無 の 入 院 の	した	18	33.3	22.2	44.4	-
	しなかった	57	61.4	31.6	5.3	1.8
	無回答	340	80.3	12.9	3.5	3.2
⑩階段をおりる						
全体 (件)		415 100.0	241 58.1	109 26.3	51 12.3	14 3.4
有 無 の 入 院 の	した	18	16.7	22.2	61.1	-
	しなかった	57	47.4	28.1	21.1	3.5
	無回答	340	62.1	26.2	8.2	3.5

(4) 高齢者の転倒について

高齢者の転倒—①転倒に対する不安感

問 24. 対象となる高齢者の方は、普段、転倒（転ぶ・倒れる・転落する）することに対して不安感がありますか。（○はひとつ）



高齢者の転倒に対する不安感については、「やや不安を感じる」(37.0%) が約4割を占めて最も多く、次いで「あまり不安を感じない」(21.4%)、「とても不安」(18.6%) となっている。

『不安を感じる』（「とても不安」＋「やや不安を感じる」）は55.6%と過半数となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、男性において「全く不安を感じない」(24.1%) の割合が女性に比べて高い一方、女性においては「とても不安」(23.4%) の割合が男性に比べて高い。

高齢者の年齢区分別にみると、75歳以上において「とても不安」(23.9%)、「やや不安を感じる」(40.8%) の割合が他に比べて高く、『不安を感じる』(64.7%) が6割台半ばを占めている。75歳以上では、約3人に2人が転倒に対して不安を感じていることが分かる。

要介護認定別にみると、非認定者よりも要介護者、要支援者の方が「とても不安」の割合が高い。（要介護者：65.1%、要支援者：45.8%）

◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆

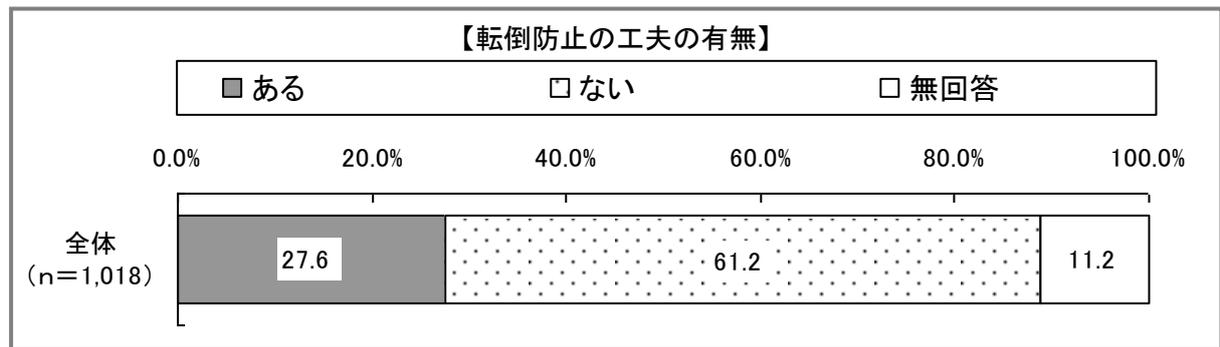
(%)

		合計 (件)	とても不安	やや不安を感じる	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	無回答
全体 (件)		1018 100.0	189 18.6	377 37.0	218 21.4	178 17.5	56 5.5
の高齢者別	男性	307	14.7	34.5	23.1	24.1	3.6
	女性	398	23.4	38.4	19.1	13.1	6.0
	無回答	313	16.3	37.7	22.7	16.6	6.7
の高齢者区別の	65～69歳	146	17.1	31.5	23.3	24.7	3.4
	70～74歳	145	11.7	31.7	28.3	20.7	7.6
	75歳以上	402	23.9	40.8	17.9	12.9	4.5
	無回答	325	15.7	37.2	21.8	18.5	6.8
要介護認定	要介護5～1	106	65.1	19.8	6.6	1.9	6.6
	要支援2～1	48	45.8	45.8	4.2	2.1	2.1
	申請したが非該当	4	-	50.0	25.0	-	25.0
	申請していない	354	10.2	40.4	23.7	22.0	3.7
	無回答	506	12.3	37.4	24.5	19.2	6.7

IV. 調査結果の詳細

高齢者の転倒—②転倒防止の工夫の有無

問 25. 対象となる高齢者の方の転倒防止のために工夫していることがありますか。(○はひとつ)



高齢者の転倒防止の工夫の有無については、「ない」(61.2%)が6割を超えており、「ある」(27.6%)を上回っている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「ある」(32.2%)の割合が男性に比べて高い。

高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「ある」(33.1%)の割合が他に比べて高い。

要介護認定別にみると、非認定者よりも要介護者、要支援者の方が「ある」の割合が高い。(要介護者：55.7%、要支援者：50.0%)

◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	ある	ない	無回答
全体 (件)		1018 100.0	281 27.6	623 61.2	114 11.2
の 高 性 別 者	男性	307	26.7	66.1	7.2
	女性	398	32.2	55.8	12.1
	無回答	313	22.7	63.3	14.1
年 高 齢 区 分 の	65～69歳	146	25.3	64.4	10.3
	70～74歳	145	22.1	65.5	12.4
	75歳以上	402	33.1	57.0	10.0
	無回答	325	24.3	63.1	12.6
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	55.7	31.1	13.2
	要支援2～1	48	50.0	33.3	16.7
	申請したが非該当	4	25.0	25.0	50.0
	申請していない	354	20.9	72.6	6.5
	無回答	506	24.3	62.5	13.2

高齢者の転倒—③転倒防止の工夫の具体的な内容

問 25-1. 転倒防止のために工夫していることを、具体的に記入してください。

転倒防止の工夫を記入してもらくと、「家をバリアフリー仕様で建てた」、「スロープを設置している」、「手すりを設置している」などの『バリアフリーへの配慮』が 125 件と最も多い。次いで、「慎重に行動する」、「慌てない、急がない」などの『注意喚起』が 48 件、「杖を使用する」、「歩行器を使用する」などの『道具の使用』が 36 件となっている。

以下、回答の内容を分類し、記入の多かった上位 5 項目をまとめた。

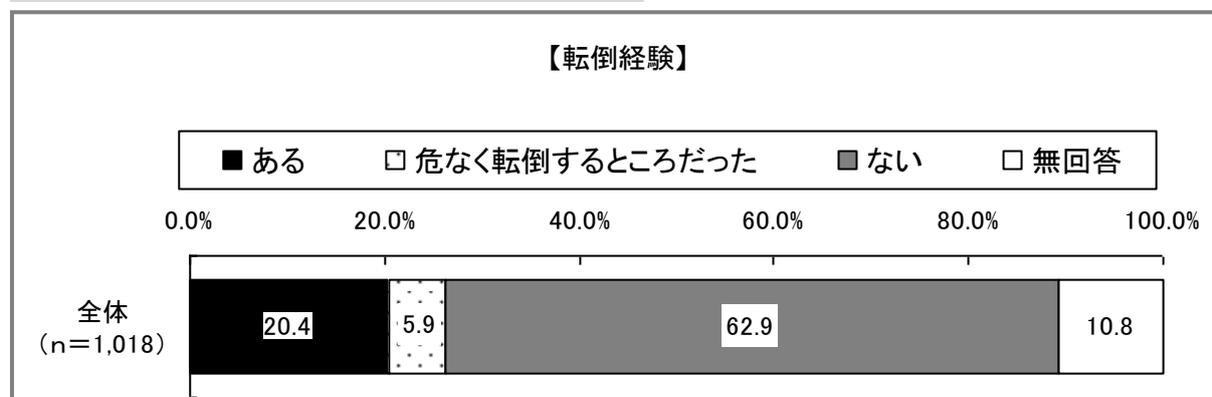
◆表 転倒防止の工夫・分類◆

転倒防止の工夫		(件)	内容
1	バリアフリーへの配慮	125	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅をバリアフリー仕様で建てた。 ・玄関にスロープを設置している。 ・風呂やトイレに手すりを設置している。 ・ベットに補助器具を付けている。 ・階段の段差を低く設定している。
2	注意喚起	48	<ul style="list-style-type: none"> ・常に慎重に行動する。 ・慌てない、急がない。 ・足元に注意する。 ・前を良く見て歩く。
3	道具の使用	36	<ul style="list-style-type: none"> ・外出する時、杖を使用する。 ・室内でも歩行器を利用する。 ・滑らない靴下を使用する。 ・腰ベルトを使っている。
4	運動、リハビリの実施	22	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日ウォーキングしている。 ・病院で転倒防止体操に参加する。 ・1日3回運動・食事のバランスに気をつける。 ・日頃から身体の鍛錬をする。
5	手すり、エレベーター等の使用	21	<ul style="list-style-type: none"> ・何かにつかまって立つ。 ・階段は手すりを使うようにしている。 ・浴室では手すりをよく使う。 ・壁や手すりなどに手をそえて移動する

(5) 高齢者の自宅での転倒（過去3年間）

高齢者の自宅での転倒—①転倒した経験

問 26. 対象となる高齢者の方は、過去3年間に、自宅で転倒した経験がありますか。該当するものに○をしてください。(○はひとつ)



高齢者の過去3年間の自宅での転倒経験については、「ない」(62.9%)が6割を超えて最も多く、次いで「ある」(20.4%)、「危なく転倒するところだった」(5.9%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「ある」(25.4%)の割合が男性に比べて高い。

高齢者の年齢区別にみると、75歳以上において「ある」(25.6%)の割合が他に比べて高い。

要介護認定別にみると、非認定者よりも要介護者、要支援者の方が「ある」の割合が高い。(要介護者：40.6%、要支援者：35.4%)

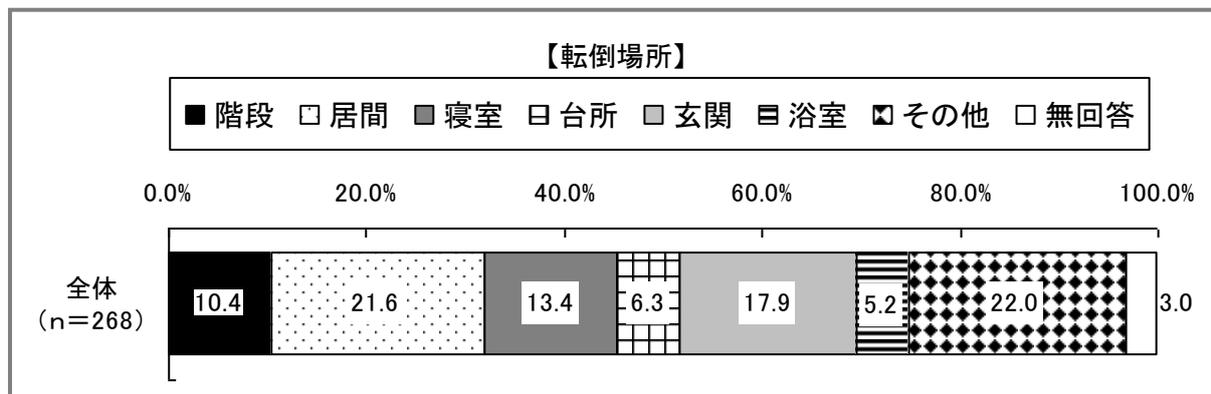
◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆

(%)

		合計 (件)	ある	と危 こ ろ な く だ つ た す る	ない	無 回 答
全体 (件)		1018 100.0	208 20.4	60 5.9	640 62.9	110 10.8
の 高 性 別 者	男性	307	18.2	5.9	66.1	9.8
	女性	398	25.4	5.8	58.3	10.6
	無回答	313	16.3	6.1	65.5	12.1
年 高 齢 者 の 区 分	65～69歳	146	14.4	8.2	65.8	11.6
	70～74歳	145	21.4	3.4	60.0	15.2
	75歳以上	402	25.6	6.2	59.7	8.5
	無回答	325	16.3	5.5	66.8	11.4
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	40.6	11.3	40.6	7.5
	要支援2～1	48	35.4	10.4	43.8	10.4
	申請したが非該当	4	25.0	-	25.0	50.0
	申請していない	354	19.2	4.8	66.9	9.0
	無回答	506	15.6	5.1	66.8	12.5

高齢者の自宅での転倒—②転倒した場所

問 26-1. 場所はどこですか。(○はひとつ)



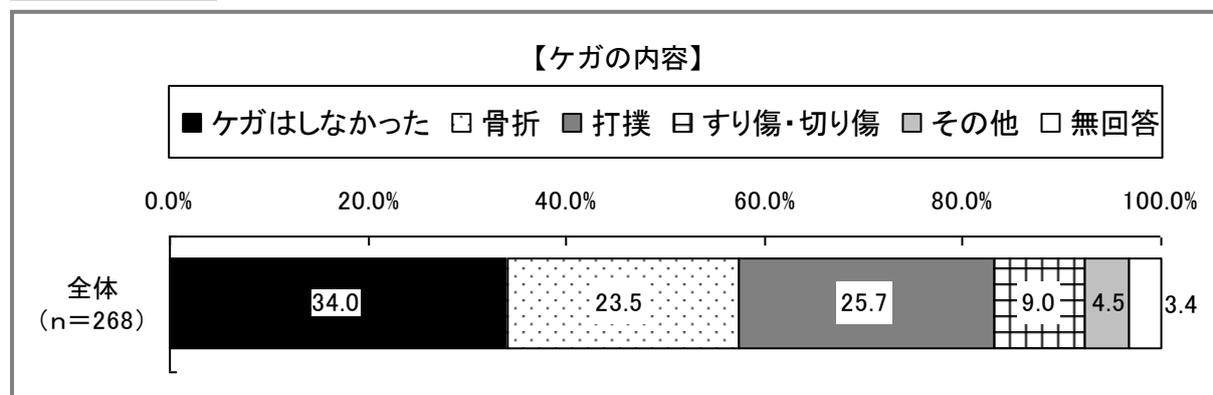
転倒したことがある、危なく転倒するところだったと回答した人に、転倒場所について尋ねたところ、「その他」を除くと、「居間」(21.6%)が2割を超えて最も多く、次いで「玄関」(17.9%)、「寝室」(13.4%)となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「家の外・庭」、「玄関・家の中」、「道路・外出先」などが挙げられた。

IV. 調査結果の詳細

高齢者の自宅での転倒—③転倒したときのケガの内容

問 26-2. ケガはしましたか。ケガをした方はケガの内容についてお答え下さい。
(○はひとつ)



転倒したことがある、危なく転倒するところだったと回答した人に、転倒したときのケガの内容について尋ねたところ、「ケガはしなかった」(34.0%)が3割台半ばを占めて最も多く、次いで「打撲」(25.7%)、「骨折」(23.5%)となっている。

【属性別特徴】

高齢者の性別にみると、女性において「骨折」(29.0%)の割合が男性に比べて高い。

高齢者の年齢区別にみると、年代が低くなるにつれて「ケガはしなかった」の割合が高くなっている一方、年代が上がるにつれて「打撲」の割合が高くなっている。

要介護認定別にみると、要介護者において「骨折」(40.0%)の割合が他に比べて高い。

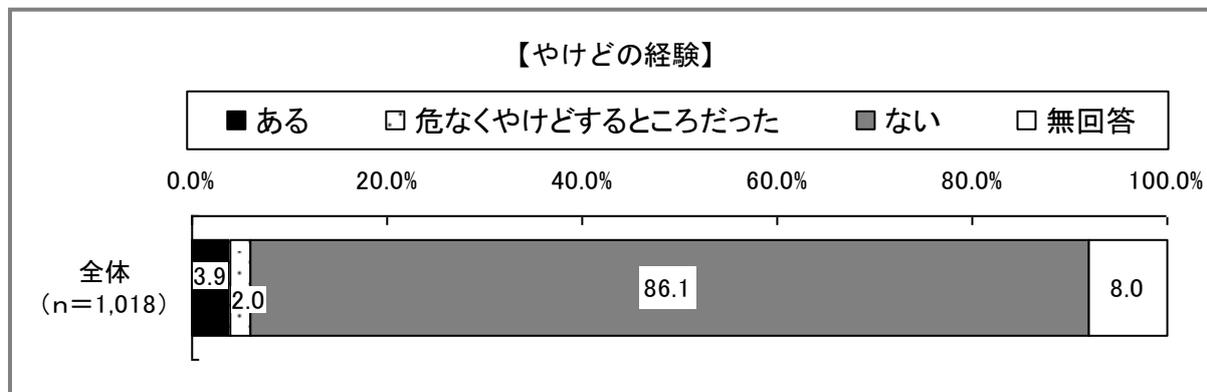
◆表 高齢者の性別・年齢区分別・要介護認定別◆ (%)

		合計 (件)	ケガは しな かつ た	骨 折	打 撲	す り 傷 ・ 切 り 傷	そ の 他	無 回 答
全体 (件)		268 100.0	91 34.0	63 23.5	69 25.7	24 9.0	12 4.5	9 3.4
の 高 性 別 者	男性	74	36.5	14.9	33.8	8.1	4.1	2.7
	女性	124	28.2	29.0	26.6	8.1	4.8	3.2
	無回答	70	(+) 41.4	22.9	↓ 15.7	11.4	4.3	4.3
年 高 齢 区 分 の	65～69歳	33	↑ 42.4	24.2	↓ 18.2	-	6.1	9.1
	70～74歳	36	↑ 33.3	25.0	(+) 27.8	5.6	5.6	2.8
	75歳以上	128	29.7	22.7	↑ 31.3	10.9	3.1	2.3
	無回答	71	38.0	23.9	18.3	11.3	5.6	2.8
要 介 護 認 定	要介護5～1	106	27.3	40.0	21.8	3.6	5.5	1.8
	要支援2～1	48	31.8	18.2	31.8	9.1	-	9.1
	申請したが非該当	4	100.0	-	-	-	-	-
	申請していない	354	34.1	20.0	28.2	12.9	1.2	3.5
	無回答	506	37.1	19.0	24.8	8.6	7.6	2.9

(6) 高齢者の自宅でのやけど（過去3年間）

高齢者の自宅でのやけど—①やけどをした経験

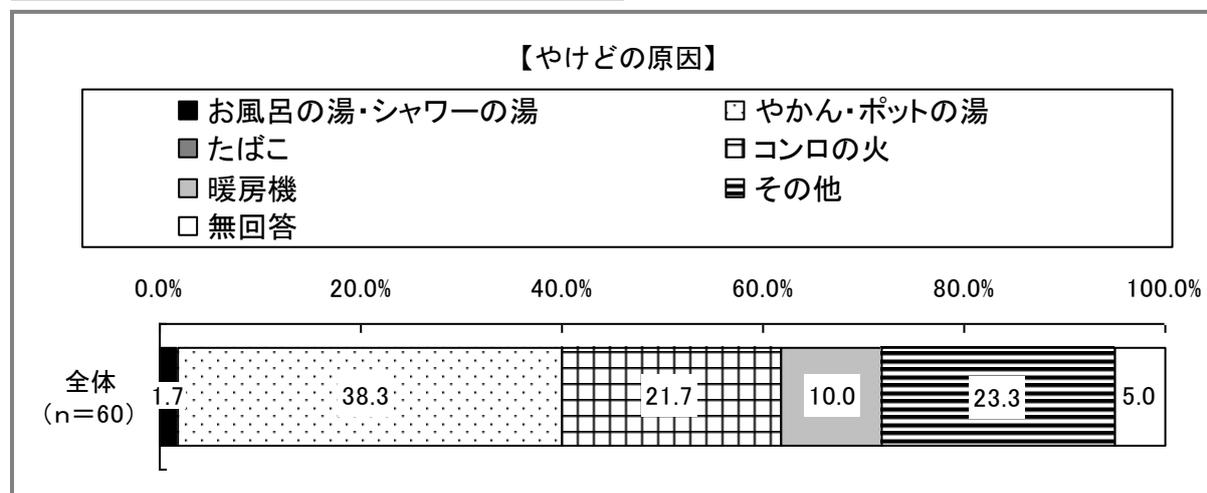
問 27. 対象となる高齢者の方は、過去3年間に、自宅でやけどをした経験がありますか。
該当するものに○をしてください。（○はひとつ）



高齢者が過去3年間に自宅でやけどをした経験については、「ない」(86.1%)が8割台半ばを占めて最も多く、次いで「ある」(3.9%)、「危なくやけどするところだった」(2.0%)となっている。

高齢者の自宅でのやけど—②やけどの原因

問 27-1. その原因は何ですか。（○はひとつ）



やけどしたことがある、危なくやけどするところだったと回答した人に、やけど原因について尋ねたところ、「その他」を除くと、「やかん・ポットの湯」(38.3%)が約4割を占めて最も多く、次いで「コンロの火」(21.7%)、「暖房機」(10.0%)となっている。

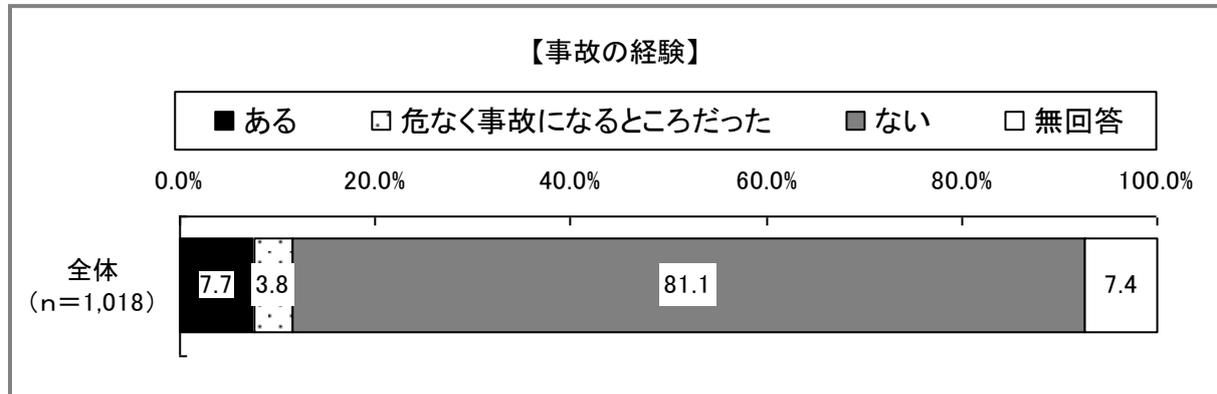
「その他」の具体的な内容としては「熱い調理器具」、「油はね」、「熱湯」など、食事の準備に関係するものが原因となっているものがほとんどだった。

IV. 調査結果の詳細

(7) 高齢者の歩行中や自転車乗車時の事故（過去3年間）

高齢者の事故—①事故の経験

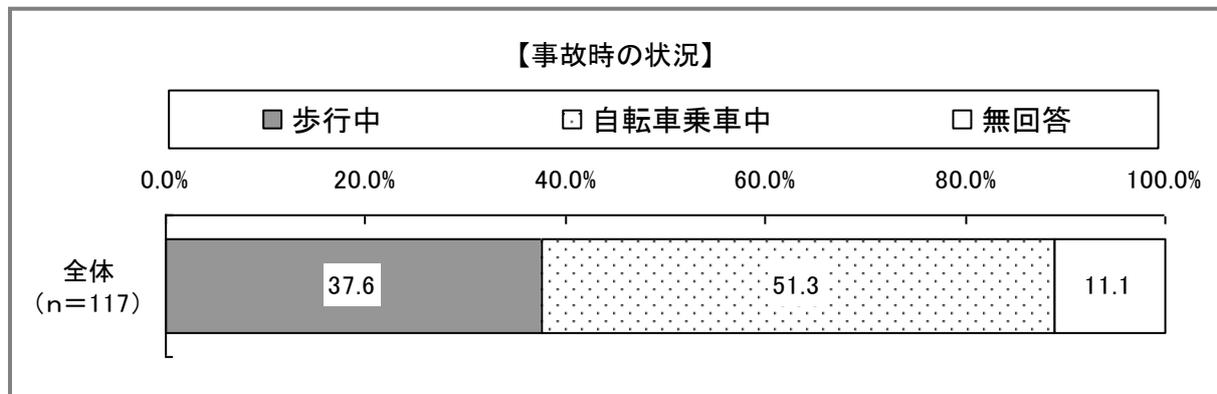
問 28. 過去3年間に、対象となる高齢者の方は、歩行中や自転車に乗っている時に、事故にあった経験がありますか。該当するものに○をしてください。（○はひとつ）



高齢者が過去3年間に事故にあった経験については、「ない」(81.1%)が8割を超えて最も多く、次いで「ある」(7.7%)、「危なく事故になるところだった」(3.8%)となっている。

高齢者の事故—②事故時の状況

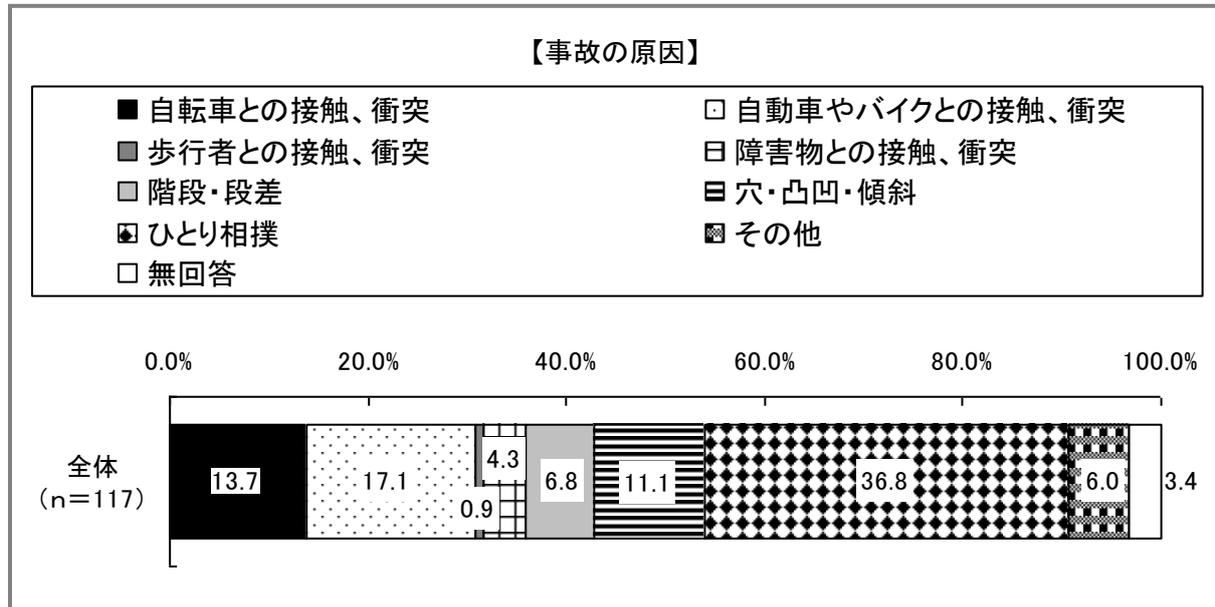
問 28-1. それはいつですか。（○はひとつ）



事故にあったことがある、危なく事故になるところだったと回答した人に、事故時の状況について尋ねたところ、「自転車乗車中」(51.3%)が5割を超えており、「歩行中」(37.6%)を上回っている。

高齢者の事故—③事故の原因

問 28-2. その原因は何ですか。(○はひとつ)



事故にあったことがある、危なく事故になるところだったと回答した人に、事故の原因について尋ねたところ、「ひとり相撲」(36.8%)が3割台半ばを占めて最も多く、次いで「自動車やバイクとの接触、衝突」(17.1%)、「自転車との接触、衝突」(13.7%)となっている。

V. 総括

V. 総括

(1) 「過去のケガ」について

今回の調査では、過去3年間にケガをしたことがある人が回答者全体の2割台半ば(22.3%)となっている。

セーフコミュニティの取り組みにおいては、事故やケガの予防のために、事故・ケガになりやすいハイリスクグループの把握と対策が必要となるため、まず、今回の調査結果におけるハイリスクグループと、ケガをしたときの状況や内容について、整理してみる。

ケガの発生率(ケガをしたことがある人の割合)を属性別にみると、男性(20.0%)より女性(25.4%)で、また、年代では70歳代以上(30.7%)で高くなっている。

特に、年代別の発生率については20~60歳代までは各年代とも2割前後でほとんど差がみられないのに対して、70歳代以上になると約3割に急増しており、高齢者の中でも特に70歳代以上の年齢層がケガの発生率が高い。

ケガをしたときの季節や天候等の状況をみると、季節は夏[6~8月](30.3%)、時間帯では日中[9~17時](49.7%)、天気では晴れ(62.0%)の割合がそれぞれ最も高い。

ケガの原因では「転倒」(43.8%)が2位以下を20ポイント以上も上回って突出して多く、特に70歳代以上(54.1%)や60歳代(52.4%)といった高齢層では過半数を占めている。転倒した場合のケガとしては、「打撲」(34.4%)、「骨折」(27.7%)が3割前後を占めており、すり傷程度ではすまないケガが多くなっている。転倒の状況を具体的にみると、「段差や石につまづいた」や「濡れた床などで滑った」などが多かったが、ふらっとした、足がもつれたなどで「バランスを崩した」といった、特に障害物等の無い場合での転倒も多かった。普段の何気ない生活の中でも転倒の危険性があるため、個人が日々の転倒防止の意識を持つことも大切である。

ケガの内容としては「打撲」(30.6%)や「骨折」(22.0%)が多く、年代別にみると20~60歳代までは「打撲」が最も多いが、70歳代以上になると「骨折」(35.6%)が「打撲」(31.9%)を上回って最も多くなっている。70歳代以上では、ケガの重症度が若年層よりも高いことが分かる。また、重症度が比較的高い骨折は、腰・背中・腹などの体の中心に近い部分が多く、また後遺症が残っている場合が4割を占めるなど、完治度も低くなっている。

70歳代以上については、転倒による骨折が特に多いものと考えられ、骨折については後遺症の残る割合が4割と他のケガに比べて高いため、特に高齢層に対する転倒予防の注意喚起が必要であると考えられる。

(2) 「家庭内の安全対策」に関する考え方について

ケガをした場所では「自宅」(36.6%)が最も多く、ケガをした時にしていたことでも「その他(家の中にいた、庭木の手入れ等)」(30.3%)や「買い物・家事」(19.3%)等、家庭内での活動に関連するものが多い。

家庭内の安全対策として実践していることでは「濡れた手で電気系統を触らない」(72.4%)、「危険な道具は決まった場所に置く」(70.0%)が7割前後と実践度が特に高い。一方、「地震対策の家具止めを使用」(9.6%)は1割未満と低い。

また、年代別にみると、各項目ともに年代が高いほど実践度が高い。70歳代以上では、ケガの主要因である転倒対策として「玄関付近に転倒の危険性のあるものなどを置かない」(57.3%)や「階段や廊下などへの手すりの設置」(47.0%)の割合は高いが、「階段へのすべり止めの設置」(20.7%)や「室内や廊下などの段差の解消」(26.8%)は先の2項目に比べて実践度が低く、差が見られた。

(3) 「交通安全」について

交通安全に関連して、主な移動手段についてみると、「自動車」(68.0%)が約7割と突出しており、特に男性では約8割(81.0%)を占めている。一方、女性では「自動車」は6割台半ば(62.5%)に留まり、「徒歩」(29.2%)や「タクシー・公共交通機関」(20.2%)等の割合が男性より高く、移動手段については、男女間で差が見られた。

なお、過去3年間にケガをした人の約1割(11.2%)が交通事故によるものであるが、この割合は女性(6.9%)より男性(18.9%)が高くなっており、これは移動手段において男性のほうが自動車を利用する割合が高いこととも関係があると想定される。また、交通事故の割合を年代別にみると20歳代が約3割(29.4%)と他の年代に比べて高い。これらのことから、交通事故については、女性より男性、また若年層で危険性が高いと考えられる。

また、70歳代以上の高齢者では、「徒歩」(36.1%)が多く、歩く機会が多い分、つまづいたり滑ったりして転倒する危険性も高くなってしまふ。自動車やバイクでの交通事故のように大規模なものでもなく、高齢者はケガの重症度が高くなってしまふので、若年層の交通事故と同様に高齢者の転倒についても注意していくことが重要である。

交通事故の際のケガを具体的にみると、「打撲」(54.0%)が多くなっている。

(4) 「幼児・児童と保護者の状況」について

世帯に11歳以下の子どもがいる人は回答者全体の約2割(18.8%)であり、うち2歳以下の乳幼児が約4割(36.9%)を占めている。

過去3年間の子どものケガの発生率(全体から「ケガはしていない」「無回答」を除いた割合)は、自宅で:45.8%、自宅以外で:51.7%となっており、自宅・自宅以外ともに4割を超えている。

自宅でのケガの内容では「ドアに挟まれたケガ」(11.8%)が最も多く、年齢が幼いほど割合が高くなっている。

自宅以外でのケガの内容では「保育園などでのケガ」(18.7%)が最も多く、次いで「学校(屋外)でのケガ」(7.0%)等となっており、通園通学先でのケガが多いことから、家庭での事故防止対策とあわせて、保育所・幼稚園・学校での事故防止対策を促進することが必要である。

また、主に家庭内で子どもの安全確保のために使用する安全用品(9品目)について、認知度・使用度をみると、認知度は「たんすなどのドアのストッパー」(70.9%)と「家具の角にかぶせるもの」(69.0%)をはじめ、9品目中6品目で5割を超えている。しかしながら、使用度は最も高い「子ども用の便座や蓋」(28.6%)でも3割に満たず、認知度と使用度の差が大きい。家庭の状況や子どもの年齢に応じて必要となる安全用品は異なるため、認知度と使用度の差を一概に問題視することはできないが、全般的に使用度を高めていくことも必要である。

(5)「高齢者の状況」について

回答者自身も含め、世帯に65歳以上の高齢者がいる人は、回答者全体の約半数(51.0%)となっている。

高齢者の日常生活動作の支障度については、男性よりも女性で、また75歳以上の後期高齢者で、さらに要介護(支援)認定者で高くなっている。ケガの状況と日常生活動作の支障度との関係を見ると、過去3年間にケガをしたことがある高齢者の方が、していない人よりも支障度が高くなっている。特に、高齢者で多くなっていた腰や背中の骨折の経験者は、様々な日常生活動作に対して「支障がある」と回答した人の割合が高い傾向が見られた。また、入院するほどのケガをした高齢者についても、入院しなかった人よりも支障度が高くなっている。

以上より、高齢者については、ケガと日常生活動作は密接な関係があり、ケガを予防することで、様々な日常生活動作の支障を減らすことができると期待できる。

高齢者の転倒については、(1)でも整理したとおり、高齢層のケガの主な原因であったが、詳細の調査結果をみると、世帯に高齢者がいる人の過半数(55.6%)が転倒に対して不安感を感じているが、実際に転倒防止の工夫をしている人は約3割(27.6%)に留っており、不安だが具体的な防止策をとっていない人も多い。

過去3年間に自宅で転倒したことがある人は約2割(20.4%)を占めており、男性より女性で、年齢では75歳以上の後期高齢者で割合が高くなっている。転倒したときのケガについては「ケガはしなかった」(34.0%)が最も多いものの、「骨折」(23.5%)、「打撲」(25.7%)もそれぞれ2割を超えており、特に女性では「骨折」(29.0%)が約3割と男性(14.9%)に比べて高くなっている。

転倒した場所は「居間」(21.6%)や「玄関」(17.9%)等が多く、「浴室」(5.2%)や「階段」(10.4%)等の転倒の危険性が高そうな場所よりも多くなっている点にも注意が必要である。ただし、「居間」や「玄関」で転倒した場合には、ケガはしなかった人(居間:46.6%、玄関:43.8%)が4割を超えており、大きな違いではないものの、「浴室」(35.7%)や「階段」(28.6%)で転倒した場合よりもケガの発生率は低くなっている。つまづいたり、バランスを崩すことによる転倒よりも、滑ったり、階段を踏み外すことによる転倒の方がケガにつながりやすいことが分かる。

また、転倒以外の高齢者の事故・ケガの発生率(過去3年間に経験がある人の割合)は、自宅でのヤケド:3.9%、歩行中・自転車乗車中の事故:7.7%となっている。歩行中や自転車乗車中の事故の内訳は、歩行中:37.6%、自転車乗車中:51.3%と、自転車乗車中の方が多く、事故の原因では「ひとり相撲」が3割台半ば(36.8%)と突出して多いのも特徴的である。

VI. 調査票

久留米市民の事故やケガなどについての実態調査

調査ご協力をお願い

日頃より、久留米市政にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

市では、現在、WHO（世界保健機関）セーフコミュニティ協働センターが推進している「セーフコミュニティ」活動に取り組んでおります。

この「セーフコミュニティ」は、市民の皆さんや関係団体と協働して事故やケガの予防に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指すものです。

今回の調査は、事故やケガの予防対策を立てるために、本市市民の事故やケガの状況を詳しく調査するものであり、調査内容は、事故やケガの経験、安全についての考え方などに関するものです。

つきましては、久留米市にお住まいの満20歳以上の方の中から3,500名の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査主旨をご理解のうえ、ご協力をお願い申し上げます。

※ この調査結果は統計的に処理する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせ下さいますよう、お願い申し上げます。

平成23年9月

久留米市長 檜原 利則

● 調査票の記入について

1. 回答は、調査対象者ご本人(封筒のあて名の人)がご記入ください。

ただし、次の質問については、対象の方がいる場合のみ、記入をお願いします。

○ 「幼児・児童と保護者の状況」：6～7 ページ

・ご家族の中に、0～12歳未満の子どもがいる場合

→その保護者に聞き取りの上、お答え下さい。

○ 「高齢者の状況」：8～11 ページ

・あなた自身が満65歳以上の場合→あなた自身のことについてお答え下さい。

・あなた自身が満64歳以下の場合→ご家族の中に、満65歳以上の方がいる方は、

聞き取りの上、お答え下さい。

2. ご回答は、特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲ってください。

3. 調査票の回収については、お手数ですが **10月10日まで**に、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函いただきますようお願いいたします。

4. 本調査に関してご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記の連絡先まで、ご連絡下さい。

問い合わせ・連絡先：久留米市 協働推進部 安全安心推進課

電話0942-30-9094、FAX0942-30-9711

F 1 あなたの性別は。 1. 男性 41.2 2. 女性 54.0 無回答 4.8

F 2 あなたの年齢は。(平成 23 年 9 月 1 日時点) 平均 54.8 歳

F 3 あなたのお住まいの校区(小学校区)は。(○はひとつ)

1. 西国分 5.0	2. 荘島 1.7	3. 日吉 1.9	4. 篠山 2.0
5. 京町 1.5	6. 南薫 3.6	7. 鳥飼 2.4	8. 長門石 1.8
9. 小森野 1.4	10. 金丸 3.8	11. 東国分 3.0	12. 南 5.4
13. 御井 3.0	14. 山川 2.1	15. 合川 4.0	16. 上津 5.1
17. 高良内 3.1	18. 宮ノ陣 3.4	19. 山本 0.8	20. 草野 0.9
21. 荒木 3.9	22. 大善寺 3.5	23. 安武 1.7	24. 善導寺 2.1
25. 大橋 0.8	26. 青峰 1.2	27. 津福 4.0	28. 船越 0.7
29. 水分 0.7	30. 柴刈 0.5	31. 川会 1.0	32. 竹野 0.6
33. 水縄 0.3	34. 田主丸 3.5	35. 北野 3.2	36. 弓削 0.8
37. 大城 1.1	38. 金島 0.5	39. 城島 1.8	40. 下田 0.4
41. 青木 0.9	42. 江上 1.1	43. 浮島 0.2	44. 犬塚 1.3
45. 三瀨 2.9	46. 西牟田 1.3	47. わからない 0.8	無回答 4.1

F 4 あなたの職業は。(○はひとつ)

1. 自営業(農業、林業、漁業など) 7.7	2. 会社経営・個人事業主 4.4
3. 家族従業者(専従者) 2.0	4. 会社員・団体職員・公務員 26.7
5. パート・アルバイト(学生は除く) 12.3	6. 学生 2.2
7. 家事に専念している主婦(夫) 13.1	8. 無職 23.4
9. その他(具体的に:) 3.2	無回答 5.1

F 5 あなたの家の家族構成は。(○はひとつ)

1. 単身 10.6	2. 夫婦だけ 19.6	3. 親・子(2世代) 45.2
4. 親・子・孫(3世代) 15.3	5. その他(具体的に:) 4.1	
無回答 5.3		

「3. 親・子(2世代)」～「5. その他」のいずれかに回答された方はお答え下さい。

F 5-1. 現在、中学生以下のお子さんと同居されていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 未就学児と同居 18.5	2. 小学生と同居 17.9
3. 中学生と同居 10.1	4. 中学生以下の同居人はいない 47.2
無回答 17.6	

F 6 あなたのお住まいの形態は。(○はひとつ)

1. 持ち家・一戸建て 62.1	2. 持ち家・集合住宅 7.3	3. 借家住宅 4.7
4. 賃貸住宅 16.3	5. 勤務先給与住宅 1.0	
6. 間借り・同居 1.3	7. その他 2.9	無回答 4.5

1 「過去のケガ」について

過去3年間(平成20年9月～平成23年8月頃)の、あなたのケガの状況をお尋ねします。

問1. あなたは過去3年間にケガをされましたか。(○はひとつ)

(ケガとは、骨折、捻挫、打撲などで、病院にかからないようなものも対象とします。)

1. ケガをしたことがある 22.3

2. ケガはしてない 70.2

無回答 7.5

→「2. ケガはしていない」と回答された方は問15へ

「1. ケガをしたことがある」と回答された方はお答え下さい。

【注意】複数の経験があれば、最も重症だったものについて記入してください。

問2. ケガをされたのはいつ、何時頃ですか。

(時間は24時間で記入してください。例:午後4時は16時)

平成_____年_____月頃 _____時頃

問3. ケガをされた時の天気は。(○はひとつ)

1. 晴れ 62.0

2. 曇り 19.1

3. 雨 5.2

4. 雪 1.1

5. その他 3.6

無回答 9.0

問4. ケガの原因は何でしたか。(○はひとつ)

1. 交通事故 11.2

2. 転倒 43.8

3. 転落 5.2

4. 接触・衝突 7.4

5. はさまれた 3.4

6. モノの落下 3.1

7. 虫等にさされた・かまれた 1.8

8. 暴行 0.4

9. その他 18.4

無回答 5.2

問5. ケガの時は何をしていましたか。(○はひとつ)

1. 通勤,仕事 17.1

2. 通学,教育活動 0.9

3. 買い物,家事 19.3

4. 運動・スポーツ 7.0

5. 散歩 6.5

6. 入浴 2.0

7. 余暇活動 8.8

8. ボランティアなどの奉仕活動 0.9

9. その他 30.3

無回答 7.2

問6. ケガをされた場所は、どこでしたか。(○はひとつ)

1. 自宅 36.6

2. 学校 1.8

3. 勤務先 8.5

4. 農地・林地 2.5

5. 公園 1.8

6. 駅・バス停 0.4

7. 商業・飲食・娯楽施設 3.6

8. スポーツ施設 2.9

9. 道路・歩道 28.5

10. その他 9.0

無回答 4.3

問7. ケガをした状況を簡単に記入してください。

(例)家の中で歩行中に、カーペットの裾につまずいて転倒した。

記入あり=401件

問 8. ケガをした部位（からだの場所）はどこですか。（○はひとつ）

* 一番ひどく、傷の深かった部位や骨折、出血した部位を選んで○をつけて下さい。

- | | | | | | | | |
|--------|------|---------|-----|-------|------|------|------|
| 1. あたま | 11.7 | 2. 首 | 5.8 | 3. うで | 20.0 | 4. 肩 | 4.5 |
| 5. 胸部 | 2.9 | 6. 背中 | 1.3 | 7. 腹 | 0.7 | 8. 腰 | 10.8 |
| 9. あし | 30.8 | 10. その他 | 7.2 | 無回答 | 4.3 | | |

問 9. どのようなケガでしたか。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|--------------|-----|--------------|------|--------|------|
| 1. 脳挫傷・脳しんとう | 1.8 | 2. 骨折 | 22.0 | 3. ヤケド | 2.9 |
| 4. 脱臼 | 0.2 | 5. 捻挫 | 12.6 | 6. 打撲 | 30.6 |
| 7. 刺し傷・切り傷 | 9.4 | 8. すり傷・ひっかき傷 | 7.6 | 無回答 | 4.3 |
| 9. その他 | 8.5 | | | | |

問 10. ケガの前に、お酒を飲んでいましたか。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|-------------|-----|----------------|------|-----|-----|
| 1. お酒を飲んでいて | 5.4 | 2. お酒は飲んでいなかった | 89.2 | 無回答 | 5.4 |
|-------------|-----|----------------|------|-----|-----|

問 11. ケガの前に、薬（例：風邪薬、鎮痛剤など）を飲んでいましたか。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|------------|-----|---------------|------|-----|-----|
| 1. 薬を飲んでいて | 5.2 | 2. 薬は飲んでいなかった | 89.9 | 無回答 | 4.9 |
|------------|-----|---------------|------|-----|-----|

問 12. 現在どんな状態ですか。（○はひとつ）

- | | | | | | | | |
|---------|------|----------|-----|----------|------|-----|-----|
| 1. 完治した | 65.4 | 2. 現在治療中 | 7.9 | 3. 後遺症あり | 22.7 | 無回答 | 4.0 |
|---------|------|----------|-----|----------|------|-----|-----|

問 13. ケガの時、応急処置はなされましたか。（○はひとつ）

- | | | | | | | | |
|-------|------|--------|------|----------|-----|-----|-----|
| 1. はい | 56.9 | 2. いいえ | 33.9 | 3. 分からない | 4.0 | 無回答 | 5.2 |
|-------|------|--------|------|----------|-----|-----|-----|

「2. いいえ」「3. 分からない」と回答された方は問 14 へ

「1. はい」と回答された方はお答え下さい。

問 13-1. 応急処置は誰が行いましたか。（○はひとつ）

- | | | | | | | | |
|---------|------|--------|------|---------|-----|--------|---|
| 1. 自分 | 56.1 | 2. 家族 | 18.2 | 3. 近所の人 | 1.2 | 4. 通行人 | - |
| 5. 救急隊員 | 10.7 | 6. その他 | 12.3 | 無回答 | 1.6 | | |

問 14. ケガが原因で、病院には行きましたか。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|--------|------|-----------|------|-----|-----|
| 1. 行った | 72.6 | 2. 行かなかった | 24.3 | 無回答 | 3.1 |
|--------|------|-----------|------|-----|-----|

「2. 行かなかった」と回答された方は問 15 へ

「1. 行った」と回答された方はお答え下さい。

問 14-1. 移動手段についてお尋ねします。医療機関までどのような手段で行きましたか。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|--------|------|---------|------|-------------|-----|
| 1. 救急車 | 11.1 | 2. 自家用車 | 61.6 | 3. バス・タクシー等 | 9.6 |
| 4. 徒歩 | 6.2 | 5. その他 | 8.0 | 無回答 | 3.4 |

問 14-2. 救急外来に行きましたか、一般外来に行きましたか。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|---------|------|---------|------|-----|-----|
| 1. 救急外来 | 20.4 | 2. 一般外来 | 73.7 | 無回答 | 5.9 |
|---------|------|---------|------|-----|-----|

問 14-3. その時、入院されましたか。(○はひとつ)

1. 入院した 19.5

2. 入院しなかった 77.1

無回答 3.4

↳ 「2. 入院しなかった」と回答された方は問 15 へ

「1. 入院した」と回答された方はお答え下さい。

問 14-4. 入院期間はどのくらいでしたか。

総日数

平均 58.2 日

2 「家庭内の安全対策」に関する考え方について

問 15. あなたの普段の家庭内の安全対策に関する質問です。以下の選択肢の中で、実践している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 濡れた手でコンセントや電気コードを触らない 72.4
 2. コンセントには多数の電気コード(たこ足配線)を使わない 40.2
 3. ガスの使用後は元栓などを止めたか確認する 36.3
 4. 家庭用火災報知器を設置している 58.8
 5. 薬を服用する際、説明書を読む 60.9
 6. 洗剤や薬などは他の容器(コップや飲料水瓶など)に入れ替えないで本来の容器のまま
で保管する 64.2
 7. 階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある家具や物を置かない 44.2
 8. 階段や廊下、浴室などに手すりを設置している 32.3
 9. 階段にすべり止めを設置している 15.5
 10. 室内や廊下などで段差解消をしている 20.7
 11. 浴室の使用後は、水気が残らないように乾燥させる 39.4
 12. 危険な道具(はさみ、カッターなど)は決まった場所に置く 70.0
 13. 転落防止のため、窓の付近に子どもが上れるような家具や物は置かない 21.5
 14. 地震対策として、家具止めを使用している 9.6
 15. 「選択肢1~14」のような対策はしていない 1.3
- 無回答 6.0

問 16. その他、ご家庭で事故やケガの防止のために、工夫していることがありましたら、記入してください。

記入あり=250件

3 「交通安全」について

問 17. あなたの主な移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自動車 68.0 2. バイク 4.1 3. 自転車 22.4 4. 徒歩 24.2
5. タクシー・公共交通機関 16.0 6. その他 3.4 無回答 5.8

「1. 自動車」～「3. 自転車」と回答された方はお答え下さい。
あなたの運転中の状況についてお尋ねします。

問 17-1. 問 17 で「1. 自動車」～「3. 自転車」と回答された方、全員にお尋ねします。

次の項目のうち、実行している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 夜間・雨天時は、減速する 74.6
2. 長時間運転時は、こまめに休憩をとる 41.4
3. 飲酒の翌日は、運転を控える 21.9
4. 右・左折時は、必ず徐行若しくは一旦停止をする 78.9
5. 特にない 4.1 無回答 3.9

問 17-2. 問 17 で「1. 自動車」と回答された方にお尋ねします。

次の項目のうち、実行している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 全員のシートベルト着用の確認をする 61.9
2. チャイルドシートを着用する 18.4
3. 車内は整理整頓し、不要なものを置かない 49.6
4. 運転中、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない 52.6
5. 特にない 8.6 無回答 4.6

問 17-3. 問 17 で「2. バイク」と回答された方にお尋ねします。

次の項目のうち、実行している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 渋滞時は、すり抜けをしない 34.1
2. 運転時は、長袖・長ズボンを着用する 47.6
3. 大型車両の死角を通行しない 57.3
4. 外側線（白線、黄線など）の上を避けて運転する 53.7
5. フルフェイスヘルメットを着用する 57.3
6. 特にない 8.5 無回答 3.7

問 17-4. 問 17 で「3. 自転車」と回答された方にお尋ねします。

次の項目のうち、実行している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 主に車道を通行する 32.2
2. 車道を通行するときは、左側通行をする 62.6
3. 歩道を通行するときは、車道側を通行する 39.8
4. ながら運転（音楽、携帯電話など）をしない 70.7
5. カゴに重い荷物を入れない 34.2
6. 信号、一旦停止などの交通ルールを守る 81.2
7. 自転車用ヘルメットを着用する 0.9
8. 特にない 2.0 無回答 1.8

問 20. 各種安全用品に関する説明です。知っていたり、聞いたことがある安全用品の欄に○をつけてください。また、そのうち使用しているものに○をつけてください。
(あてはまるものすべてに○)

安全用品	知っている 聞いたこと がある	使用して いる	無回答
1. 家具の角にかぶせるもの	69.0	17.9	22.5
2. たんすや食器棚、流し台のドアが開かないようにするもの	70.9	25.1	19.0
3. 部屋のドアを固定し急に閉じないようにするもの	54.5	15.2	40.6
4. 窓を固定し窓から出られないようにするもの	38.0	5.9	60.2
5. 感電を防止するコンセントのカバー	61.5	23.3	30.5
6. ガスレンジのスイッチを勝手に入れないようにするもの	21.9	7.5	74.1
7. トイレの中に落ちないようにする子ども用の便座や蓋	55.6	28.6	33.4
8. 浴槽の床に貼る吸盤付すべり止め	38.8	2.9	59.9
9. 階段からの転落防止柵	59.9	10.7	36.6

問 21. 過去3年間に、お子さんが久留米市内(自宅を除く)で、事故にあったり、ケガをした状況についてお答え下さい。その際、周りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(あてはまるものすべてに○)

ケガをした状況	該当するもの 全てに○	→ ○の場合のみ、以下にお答えください	
		大人がいた 場合に○	医療機関に行っ た場合に○
1. 海や川、プールなどでの溺水	0.3	100.0	-
2. 交通事故(単独、自転車、自動車の乗車中)	1.9	71.4	85.7
3. 道路や歩道を歩いている際の転倒	5.6	71.4	4.8
4. 公園の遊具(ブランコ、すべり台など)で遊んでいる際のケガ	4.0	66.7	20.0
5. 動物や虫などに咬まれたケガ	3.5	92.3	46.2
6. 人や物(電柱など)に衝突	0.5	-	50.0
7. 階段や高所からの転落	1.6	83.3	33.3
8. 建物や電車のドアに挟まれたケガ	1.1	75.0	25.0
9. 学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)	4.8	22.2	61.1
10. 学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)	7.0	50.0	50.0
11. 保育園・幼稚園でのケガ	18.7	88.6	30.0
12. その他(具体的に:)	2.7	80.0	60.0
13. ケガはしていない	37.7		

5 「高齢者の状況」について

○あなたが満 65 歳以上の場合→あなた自身のことについてお答え下さい。

○あなたが満 64 歳以下の場合

- ・ご家族に満 65 歳以上の方がいる→その方（複数の場合は、最高齢の方）のことについて、お答え下さい。
- ・ご家族に満 65 歳以上の方がいない→アンケートは終了です。

問 22. 対象となる高齢者の方は宛名のご本人ですか。(○はひとつ)

1. いいえ 30.2 2. はい 20.8 無回答 48.9
- 「2. はい」と回答された方は、問 23 へ
- 「1. いいえ」と回答された方はお答え下さい。

問 22-1. 対象となる高齢者の方の性別は。(○はひとつ)

1. 男性 37.6 2. 女性 52.1 無回答 10.3

問 22-2. 対象となる高齢者の方の年齢（平成 23 年 9 月 1 日時点）は。 平均 77.7 歳

問 22-3. 対象となる高齢者の方は、要介護認定をお持ちですか。(○はひとつ)

1. 要介護 5～1 17.6 2. 要支援 2～1 8.0 3. 申請したが非該当 0.7
4. 要介護認定の申請をしていない 58.7 無回答 15.1

問 23. 対象となる高齢者の方の普段の日常生活にかかわる動作についてお尋ねします。

次の問 23.1～問 23.11 の動作について、支障なく行うことが出来ていますか。

それぞれの項目毎で、該当する番号に○をして下さい。

問 23-1. 一人での外出 (○はひとつ)

1. 全く支障がない 65.4 2. 少し支障がある 14.7 3. 支障がある 16.4 無回答 3.4

問 23-2. 室内歩行 (○はひとつ)

1. 全く支障がない 70.9 2. 少し支障がある 16.9 3. 支障がある 8.5 無回答 3.6

問 23-3. トイレの利用 (○はひとつ)

1. 全く支障がない 78.9 2. 少し支障がある 12.0 3. 支障がある 6.5 無回答 2.7

問 23-4. 入浴 (○はひとつ)

1. 全く支障がない 75.0 2. 少し支障がある 11.9 3. 支障がある 10.2 無回答 2.8

問 23-5. シャワー (○はひとつ)

1. 全く支障がない 76.4 2. 少し支障がある 8.9 3. 支障がある 9.4 無回答 5.2

問 23-6. 椅子からの立ち上がり (○はひとつ)

1. 全く支障がない **62.2** 2. 少し支障がある **26.1** 3. 支障がある **7.3** 無回答 **4.4**

問 23-7. 布団から出る (○はひとつ)

1. 全く支障がない **67.3** 2. 少し支障がある **22.1** 3. 支障がある **6.3** 無回答 **4.3**

問 23-8. たんすや食器棚の上の物をとる (○はひとつ)

1. 全く支障がない **60.1** 2. 少し支障がある **22.8** 3. 支障がある **12.5** 無回答 **4.6**

問 23-9. 床に落ちた物を拾う (○はひとつ)

1. 全く支障がない **67.0** 2. 少し支障がある **20.7** 3. 支障がある **7.7** 無回答 **4.6**

問 23-10. 階段をのぼる (○はひとつ)

1. 全く支障がない **50.0** 2. 少し支障がある **28.8** 3. 支障がある **16.6** 無回答 **4.6**

問 23-11. 階段をおりる (○はひとつ)

1. 全く支障がない **49.4** 2. 少し支障がある **29.1** 3. 支障がある **16.7** 無回答 **4.8**

問 24. 対象となる高齢者の方は、普段、転倒（転ぶ・倒れる・転落する）することに対して不安感がありますか。(○はひとつ)

1. とても不安 **18.6** 2. やや不安を感じる **37.0**
3. あまり不安を感じない **21.4** 4. 全く不安を感じない **17.5**
無回答 **5.5**

問 25. 対象となる高齢者の方の転倒防止のために、工夫していることがありますか。(○はひとつ)

1. ある **27.6** 2. ない **61.2** 無回答 **11.2**

「2. ない」と回答された方は、問 26 へ

問25-□ ある」と回答された方はお答え下さい。

問 25-1. 転倒防止のために工夫していることを、具体的に記入してください。

記入あり=270件

問 26. 対象となる高齢者の方は、過去 3 年間に、自宅で転倒した経験がありますか。該当するものに○をしてください。(○はひとつ)

- | | | | |
|-------|------|------------------------|-----|
| 1. ある | 20.4 | 2. 危なく転倒するところだった | 5.9 |
| 3. ない | 62.9 | →「3. ない」と回答された方は問 27 へ | |
| 無回答 | 10.8 | | |

「1. ある」「2. 危なく転倒するところだった」と回答された方はお答え下さい。
(複数ある場合は、最も重症なものについてお答えください。)

問 26-1. 場所はどこですか。(○はひとつ)

- | | | | | | | | |
|-------|------|-------|------|--------|------|-------|-----|
| 1. 階段 | 10.4 | 2. 居間 | 21.6 | 3. 寝室 | 13.4 | 4. 台所 | 6.3 |
| 5. 玄関 | 17.9 | 6. 浴室 | 5.2 | 7. その他 | 22.0 | 無回答 | 3.0 |

問 26-2. ケガはしましたか。ケガをした方はケガの内容についてお答え下さい。

(○はひとつ)

- | | | | | | |
|-------------|------|--------|------|-------|------|
| 1. ケガはしなかった | 34.0 | 2. 骨折 | 23.5 | 3. 打撲 | 25.7 |
| 4. すり傷・切り傷 | 9.0 | 5. その他 | 4.5 | 無回答 | 3.4 |

問 27. 対象となる高齢者の方は、過去 3 年間に、自宅でやけどをした経験がありますか。該当するものに○をしてください。(○はひとつ)

- | | | | |
|-------|------|------------------------|-----|
| 1. ある | 3.9 | 2. 危なくやけどするところだった | 2.0 |
| 3. ない | 86.1 | →「3. ない」と回答された方は問 28 へ | |
| 無回答 | 8.0 | | |

「1. ある」「2. 危なくやけどするところだった」と回答された方はお答え下さい。
(複数ある場合は、最も重症なものについてお答えください。)

問 27-1. その原因は何ですか。(○はひとつ)

- | | | | |
|----------------------------|------|--------------|------|
| 1. お風呂の湯・シャワーの湯 | 1.7 | 2. やかん・ポットの湯 | 38.3 |
| 3. たばこ | □ | 4. コンロの火 | 21.7 |
| 5. 暖房機(ストーブ、ホットカーペット、カイロ等) | 10.0 | | |
| 6. その他 | 23.3 | 無回答 | 5.0 |

問 28. 過去 3 年間に、対象となる高齢者の方は、歩行中や自転車に乗っている時に、事故にあった経験がありますか。該当するものに○をしてください。(○はひとつ)

1. ある 7.7 2. 危なく事故になるところだった 3.8 3. ない 81.1

無回答 7.4

「1. ある」「2. 危なく事故になるところだった」と回答された方はお答え下さい。
(複数ある場合は、最も重大なものについてお答えください。)

問 28-1. それはいつですか。(○はひとつ)

1. 歩行中 37.6 2. 自転車乗車中 51.3 無回答 11.1

問 28-2. その原因は何ですか。(○はひとつ)

1. 自転車との接触、衝突 13.7
 2. 自動車やバイクとの接触、衝突 17.1
 3. 歩行者との接触、衝突 0.9
 4. 看板や電柱などの障害物との接触、衝突 4.3
 5. 階段・段差 6.8
 6. 穴・凸凹・傾斜 11.1
 7. ひとり相撲(自分だけで転んだ) 36.8
 8. その他 6.0
- 無回答 3.4

以上で、「久留米市民の事故やケガなどについての実態調査」を終了します。
ご協力ありがとうございました。

「久留米市民の事故やケガなどについての実態調査」
報告書

平成23年11月

発行 久留米市 協働推進部 安全安心推進課

〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番地3

TEL 0942-30-9094

FAX 0942-30-9711